

V F区の遺構と遺物

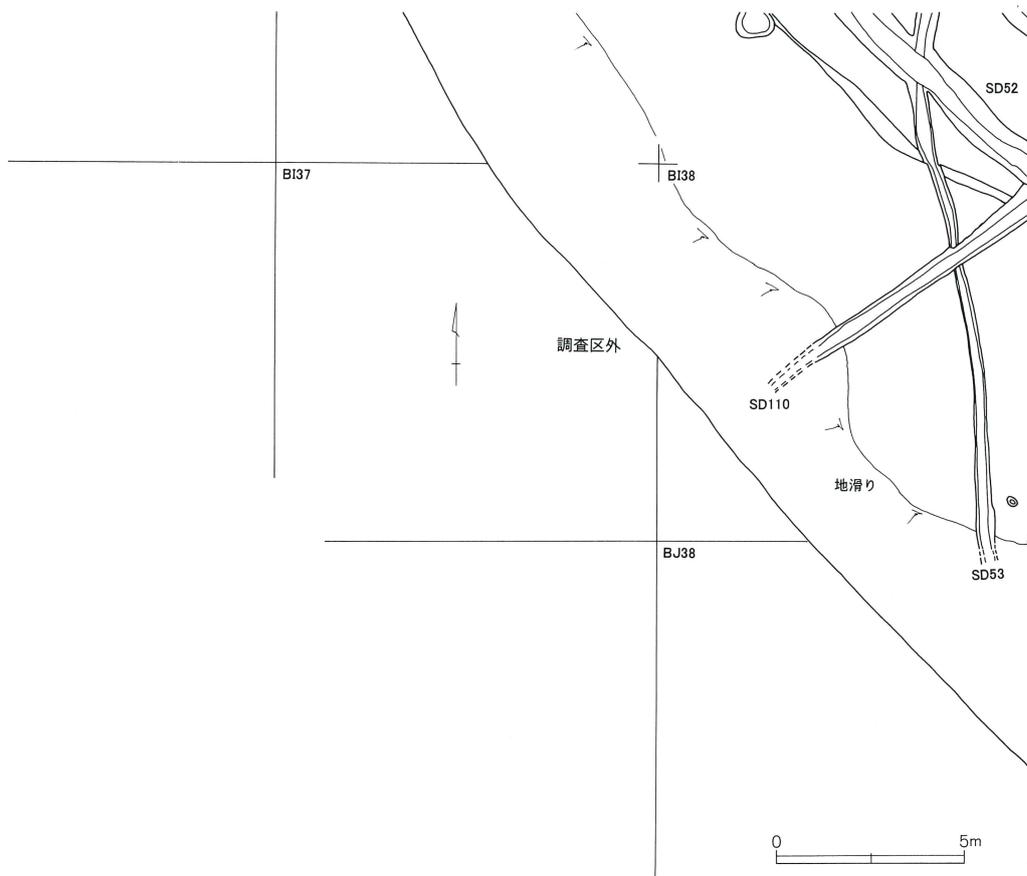
第46図 F区全体図(1)



第47図 F区全体図(2)



第50図 F区全体図(5)



F区から発見された遺構は、古墳時代末～奈良・平安時代の竪穴住居跡196軒、古墳時代末～奈良・平安時代～中世にかかる掘立柱建物跡89棟・柵列跡12列・土壇543基・井戸跡244井・溝跡137条・性格不明遺構2基・茶毘跡5基・墓壇（蔵骨器）1基・ピット多数である。

住居跡は奈良時代に掘削された第26号溝跡以南に展開する。第26号溝跡は「L」字形に屈曲し、BD45・46グリッドには地山を掘り残したブリッジが設けられている。F区北側に位置するE区には、第26号溝跡から続く溝跡は検出されていない。集落は第26号溝跡が屈曲する頂点側に形成されている。第26号溝跡以北は緩やかに傾斜し、集落を囲まずに、北辺を区画する溝跡と捉えられる。またF区北西端の方形に巡る第59号溝（C区第125号溝）に囲まれた範囲には、第59号溝跡と平行する様に配置された住居群がみられる。しかし、これらの住居跡は、規模・質・時期的には他の住居跡

との差異は認められない。第59号溝跡北側にも同方向の住居跡が所在し、豪族居館跡等にみられる区画溝とは性格が異なる。

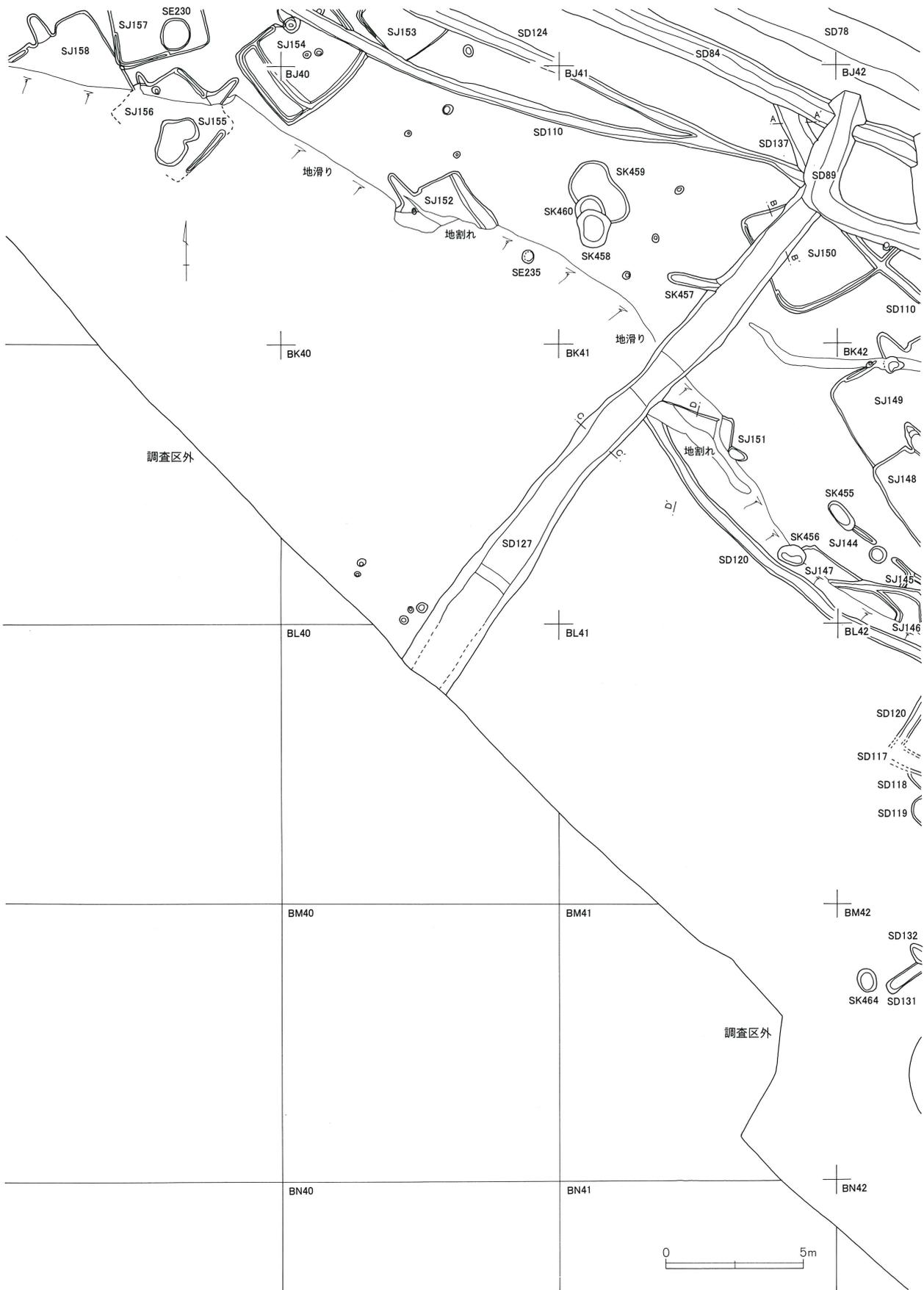
掘立柱建物跡は古代～中世にかけて建立されている。古墳時代の掘立柱建物跡は、柱掘形が古代のものに比べて小さい。古代の掘立柱建物跡は桁行3間×梁行2間の側柱建物跡と2間×2間の総柱建物跡が主体になっている。4面に庇を有する第13号掘立柱建物跡と2面に庇を有する第45号掘立柱建物跡は、他の掘立柱建物跡と比べて、格段に規模が大きい。両者は軸方位が異なり、軸方位を同じくする掘立柱建物跡群の中心的な建物と位置づけられる。中世の掘立柱建物跡は柱筋や柱間に統一性が欠ける。柱掘形の規模も古代のものに比べると段違いに小さいものである。

柵列跡は2列を除いて、平行する2列の柵列跡が1セットになっている。柱掘形は掘立柱建物跡に比べて格段に小さい。軸方位は古代の掘立柱建物跡と同じく

第51図 F区全体図(6)



第53図 F区全体図(8)



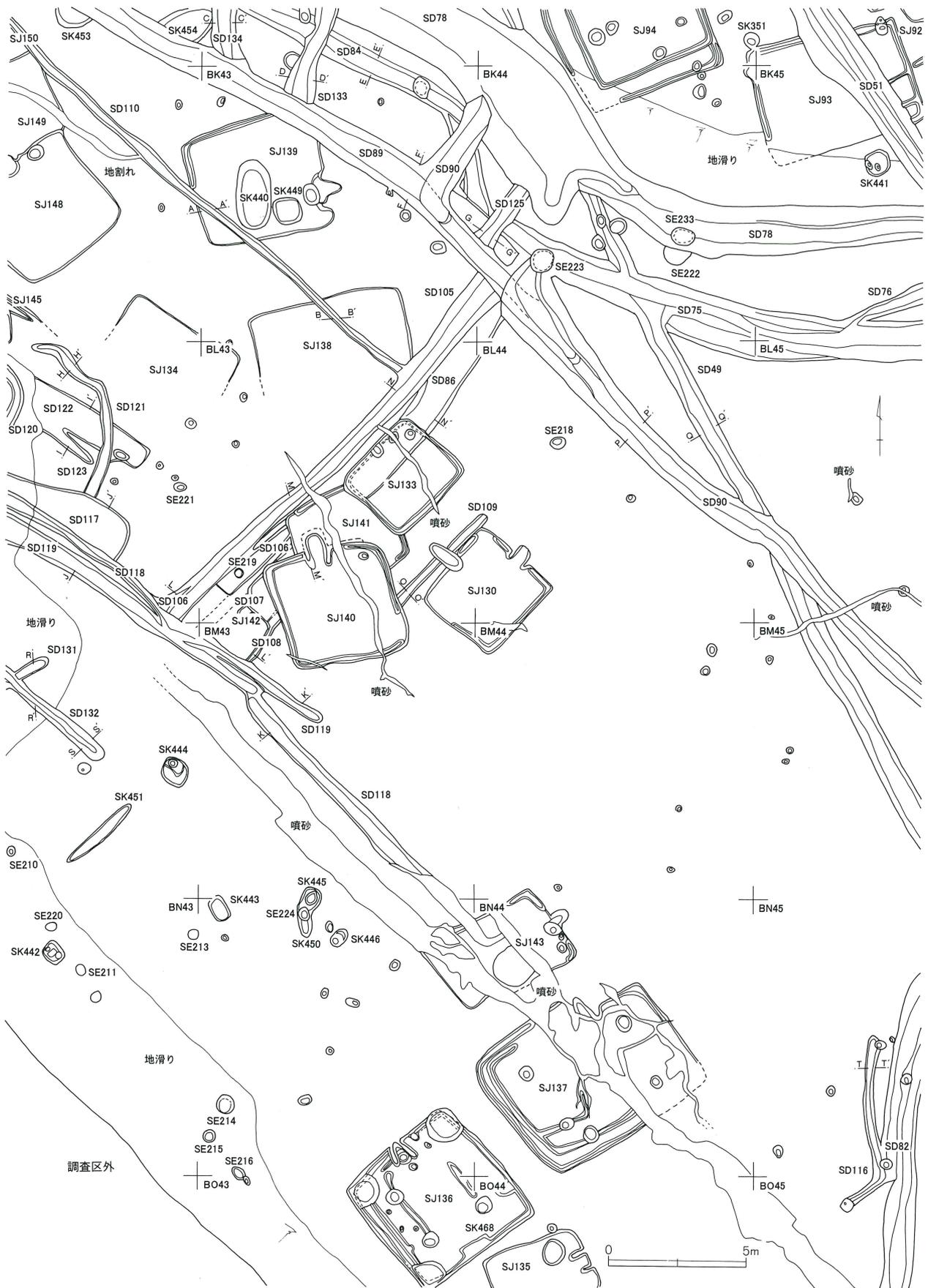
第54図 F区全体図(9)



第55图 F区全体图(10)



第56図 F区全体図(II)



第57図 F区全体図(12)



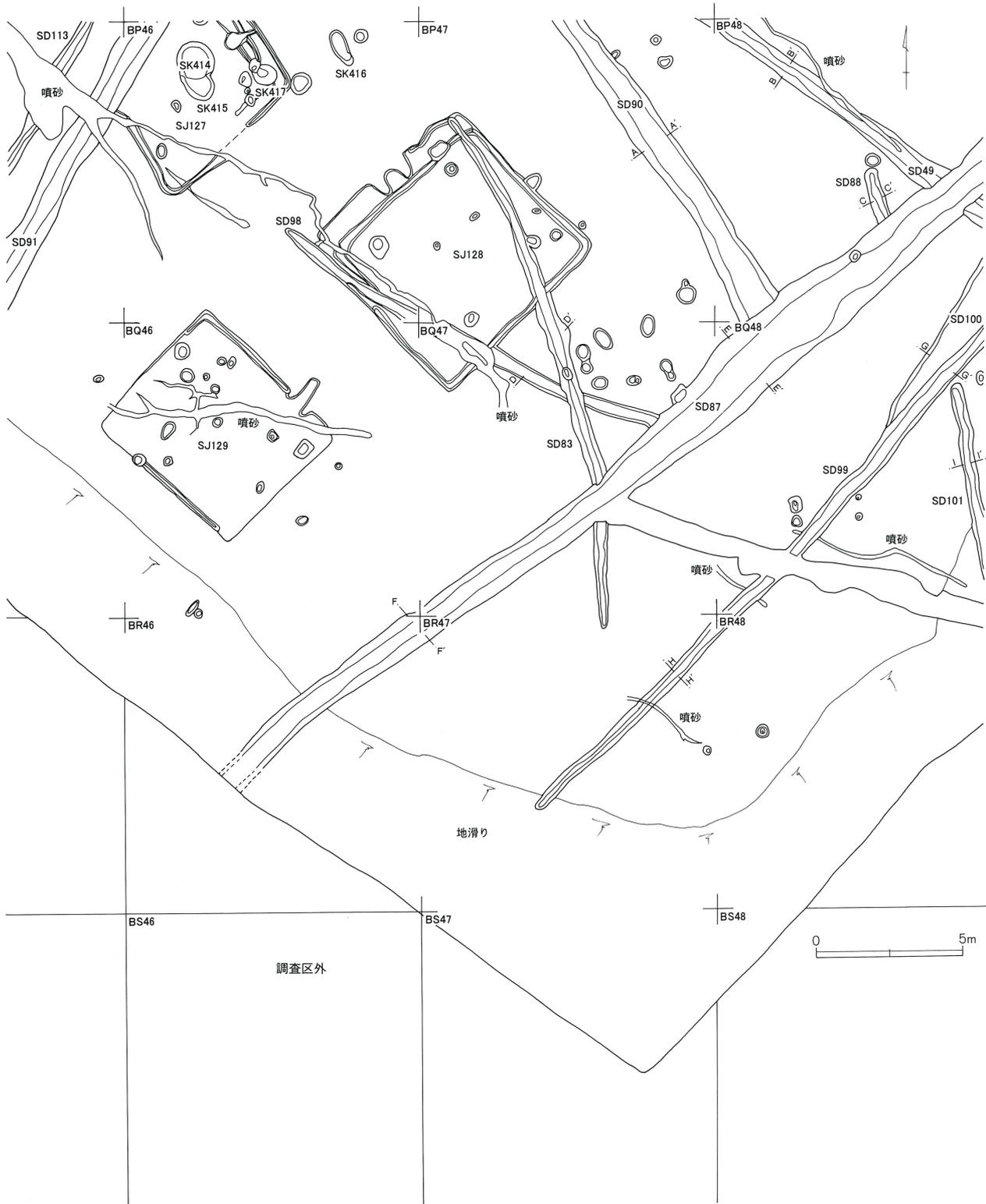
第58图 F区全体图(13)



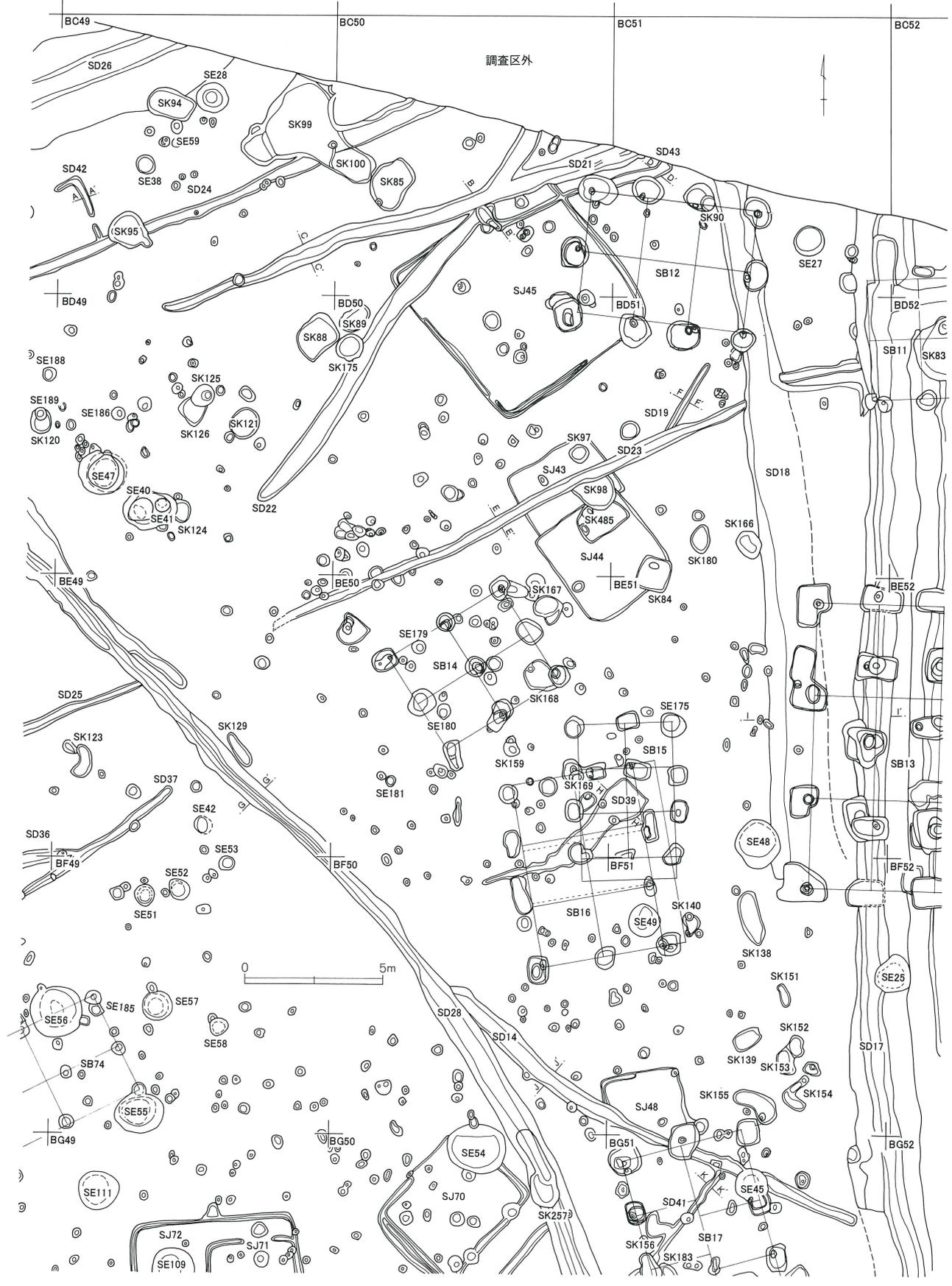
第59図 F区全体図(14)



第61図 F区全体図(16)



第62図 F区全体図(17)



第63図 F区全体図(18)



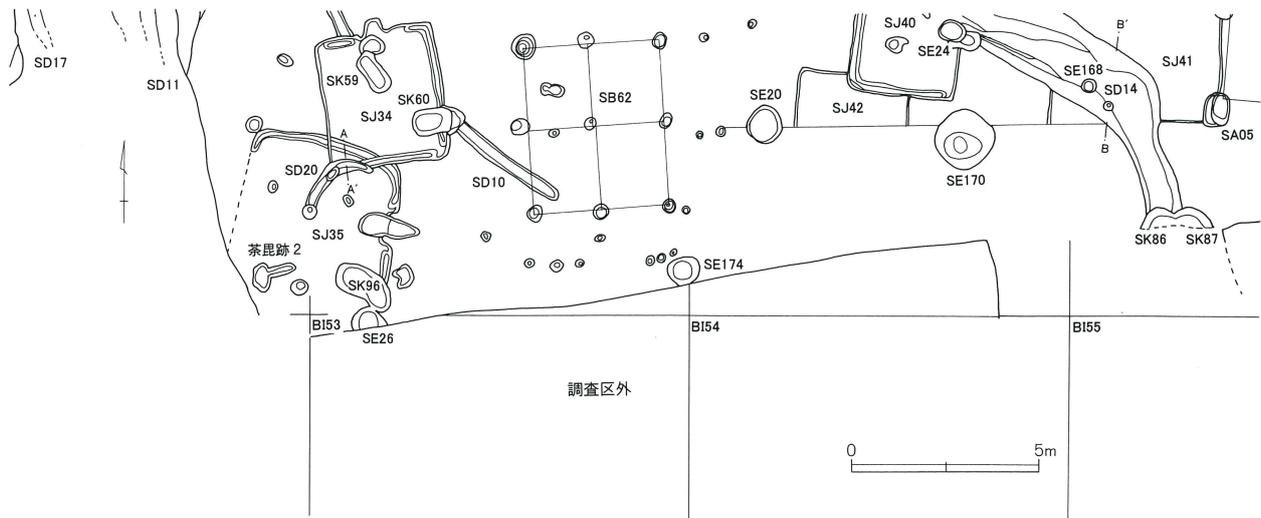
第64図 F区全体図(19)



第65図 F区全体図(20)



第66図 F区全体図(21)



し、掘立柱建物跡の展開と大いに関連している。

土壌は543基を数え、調査区全域に分布している。なかでも住居跡や掘立柱建物跡の周囲に集中する傾向が窺え、生活を営むにあたり、必要不可欠な遺構であったことが想定される。

井戸跡は古代から中世にわたり、調査区全域に分布している。河川を眼前に臨みながらも244井を数える。住居跡や掘立柱建物跡の周囲に集中する傾向が窺え、また地下水位が高く、比較的容易に湧水点に達することから、居住地に接した位置で「水」を得るために井戸を掘削し続けた結果と推定される。

溝跡は古代・中世に大きく2時期に分類される。古代の溝跡として集落北辺を区画する第26号溝跡が代表的で、これにほぼ並行する溝跡は古代の溝跡と推測される。これらの溝跡は集落内部を画する性格が想定される。中世の溝跡にはA・B・C・D・G・H区で検出されている同様の区画溝がある。第47号溝跡はA・B・C・D・G・H区とほぼ同間隔の位置に走っている。第11・16・17号溝跡は、A・B・C・D・G・H区中世区画溝・第47号溝跡とは走行方位が異なるが、覆土の堆積状況が酷似し、また東に弧を描く自然堤防に対して直交するように走っていることから同様の区

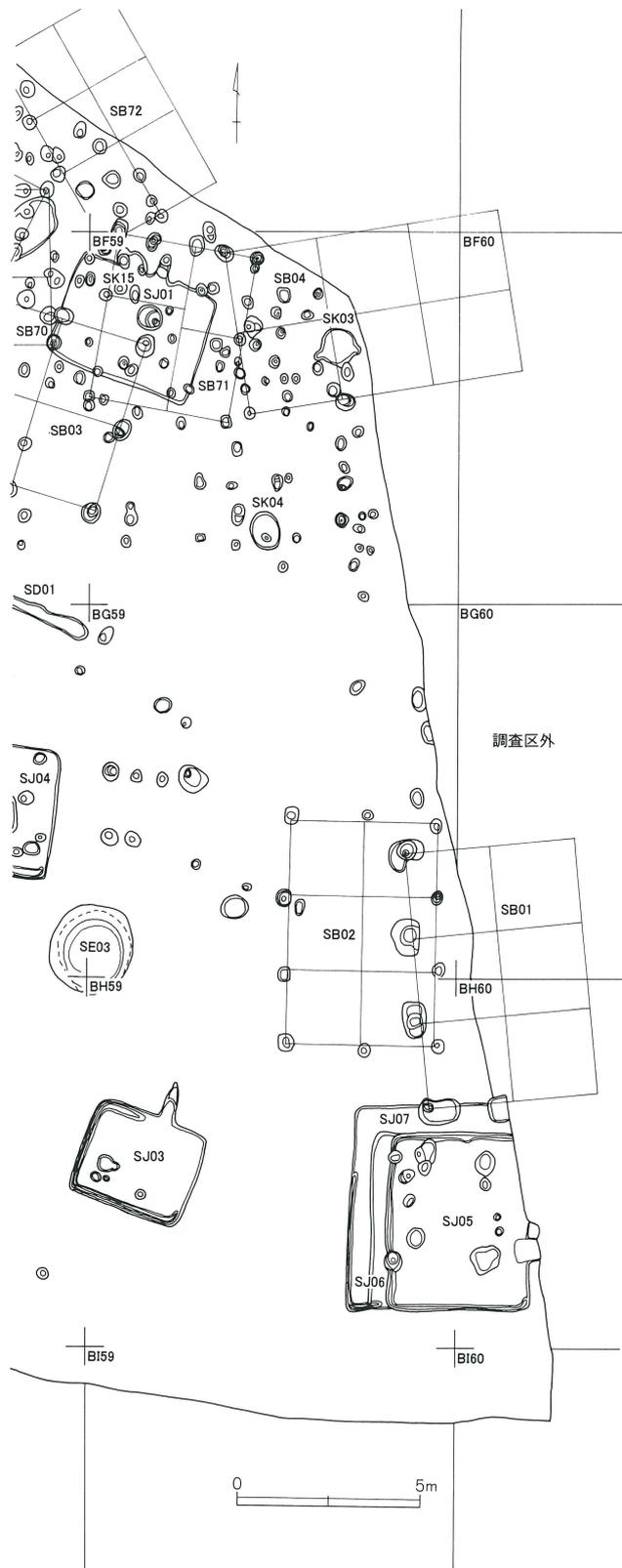
画溝として位置づけられる。さらに自然堤防の斜面部を画す溝跡もC区から続いている。

ピットは調査区全域にわたって、多数検出されている。このうち、大多数のピットは用途・性格が不明で、時期を確定し得る遺物も出土していない。なかには柱痕や柱抜取痕を明瞭に残すものも認められる。多くは配置の規則性や組み合わせを把握することはできなかったが、なかには掘立柱建物跡と認定できたものもあり、相当数の建物跡の存在が想定される。

茶毘跡は自然堤防の斜面部を画す溝跡より北側に所在している。群は形成されず、方向性や配置に規則性は認められない。中世の集落が確認されていないため確かなことはいえないが、可住地が限られる自然堤防上の集落の在り方から、集落縁辺部に展開していることが推測される。

遺物は住居跡、掘立柱建物跡、土壌、井戸跡、溝跡などの遺構から土師器、須恵器を中心に、土製品、砥石、紡錘車、ガラス玉などが出土している。須恵器は南比企産のものが主体で、末野産がこれに次いでいるが、湖西産・群馬産・新治産も含まれている。また鉄製品が多く、農工具の鎌・斧・刀子や錠・火打金・鉄鎌も認められる。

第68図 F区全体図(23)



1. 住居跡

第1号住居跡 (第69・68図)

BF58・59グリッドに位置し、重複する第3号掘立柱建物跡よりも古い。

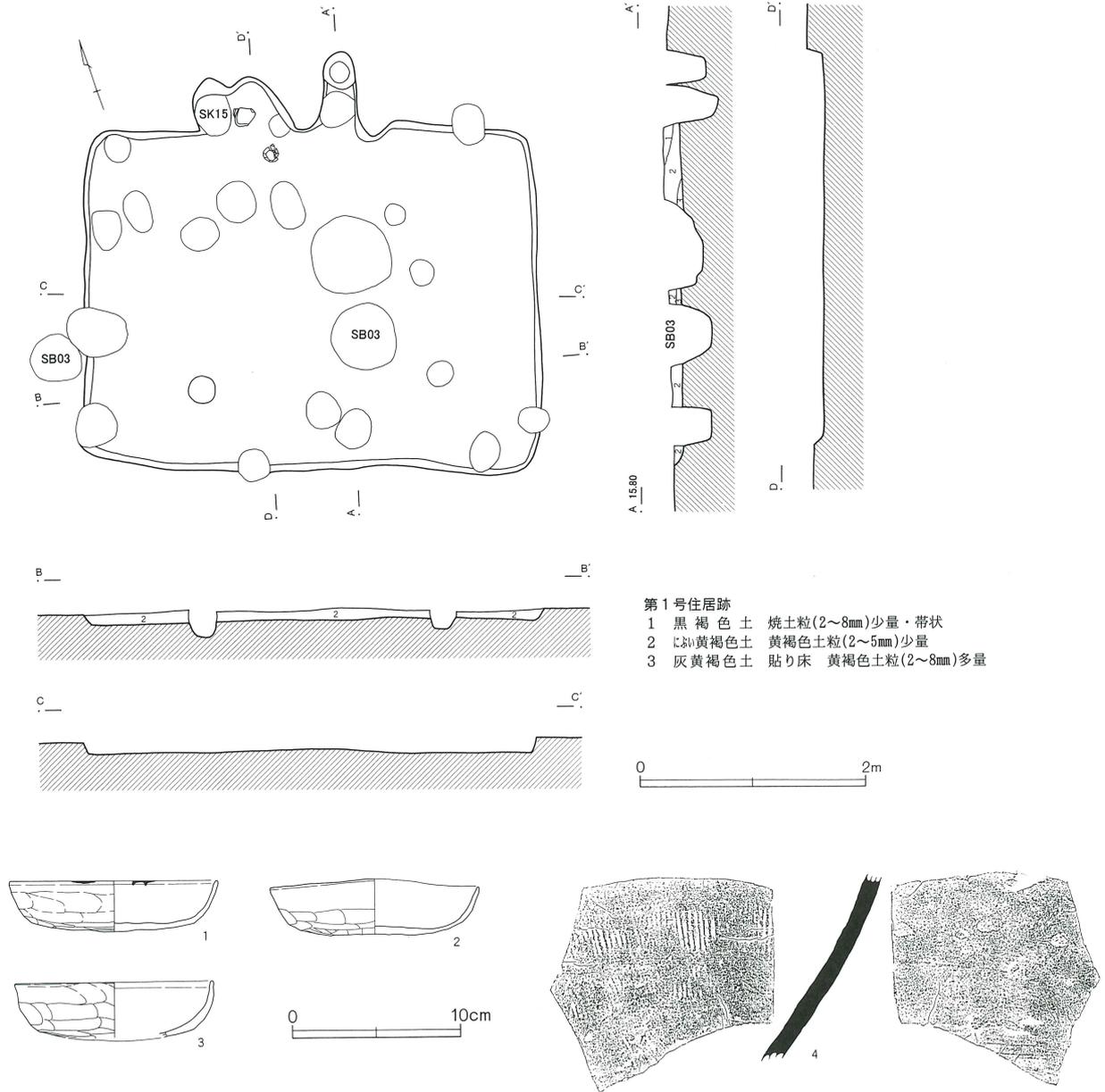
平面形態は長方形で、規模は主軸長3.06m×東西幅

4.00m×深さ0.16m、主軸方位N-19.5°-Eを測る。

中央部には貼床が施され、覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央に設置され、燃焼部・煙道部がピッ

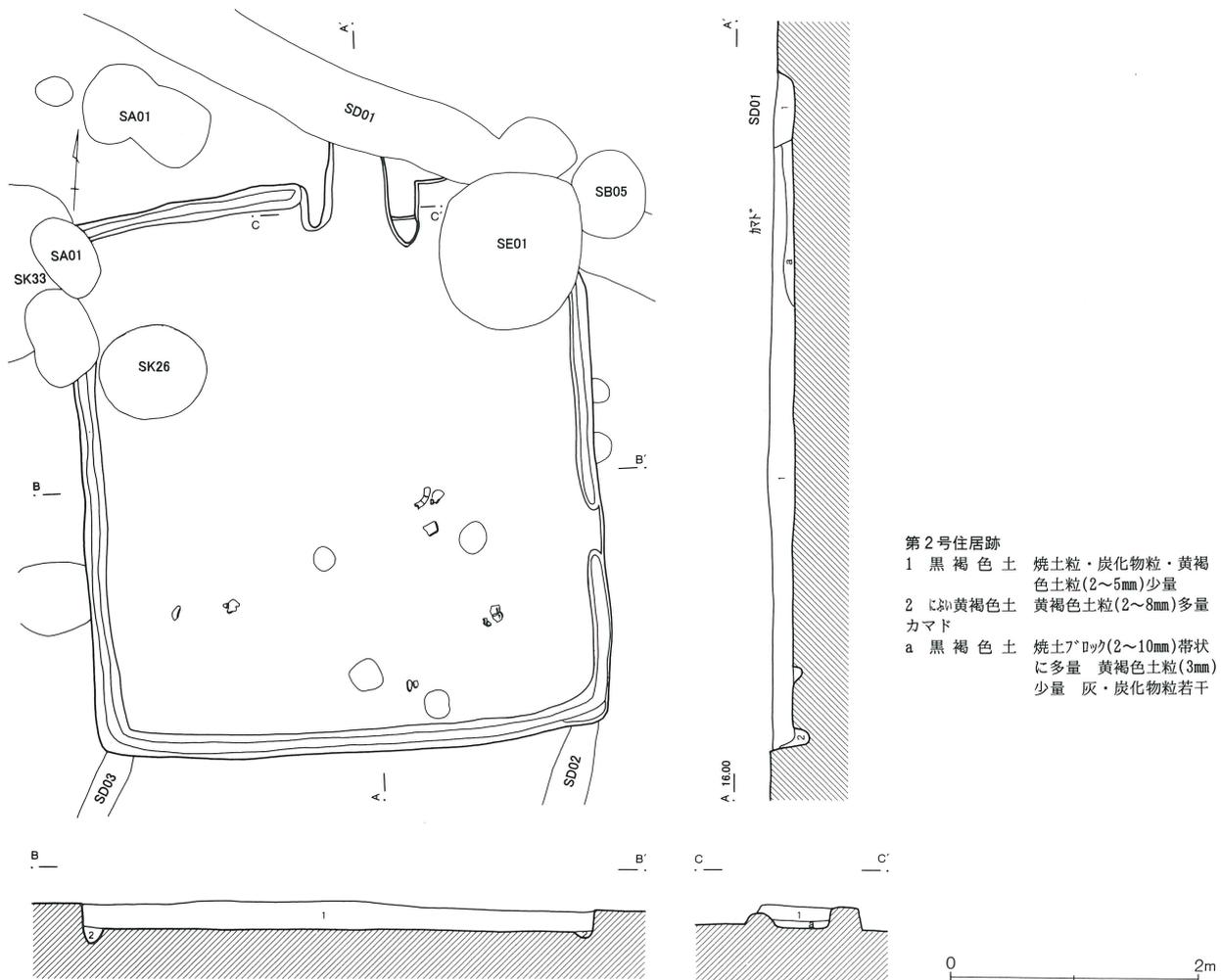
第69図 F区第1号住居跡・出土遺物



F区第1号住居跡出土遺物観察表 (第69図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.2)	3.0		WR	B	橙	60	油芯の痕跡 灯明皿への転用
2	坏	12.3	3.3		B	B	橙	70	No. 1
3	坏	(11.7)	(3.3)		BR	B	橙	30	
4	甕				WB片	B	灰		末野産 外面自然釉付着

第70図 F区第2号住居跡



トによって攪乱されている。袖部は地山が掘り残されている。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第2号住居跡 (第70・71・67図)

BF57グリッドに位置し、第1号溝跡、第1号井戸跡、第26号土壇と重複する。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.60m×東西幅4.13m×深さ0.22m、主軸方位N-55°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央に設置され、煙道部先端が第1号溝跡に壊されている。袖部はにぶい黄褐色土によって造り付けられている。壁溝は北壁カマド西側～西壁～南壁～東壁に巡り、東壁で一端途切れる。幅0.12～

0.22m、深さ0.27～0.35mほどである。貯蔵穴・柱穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

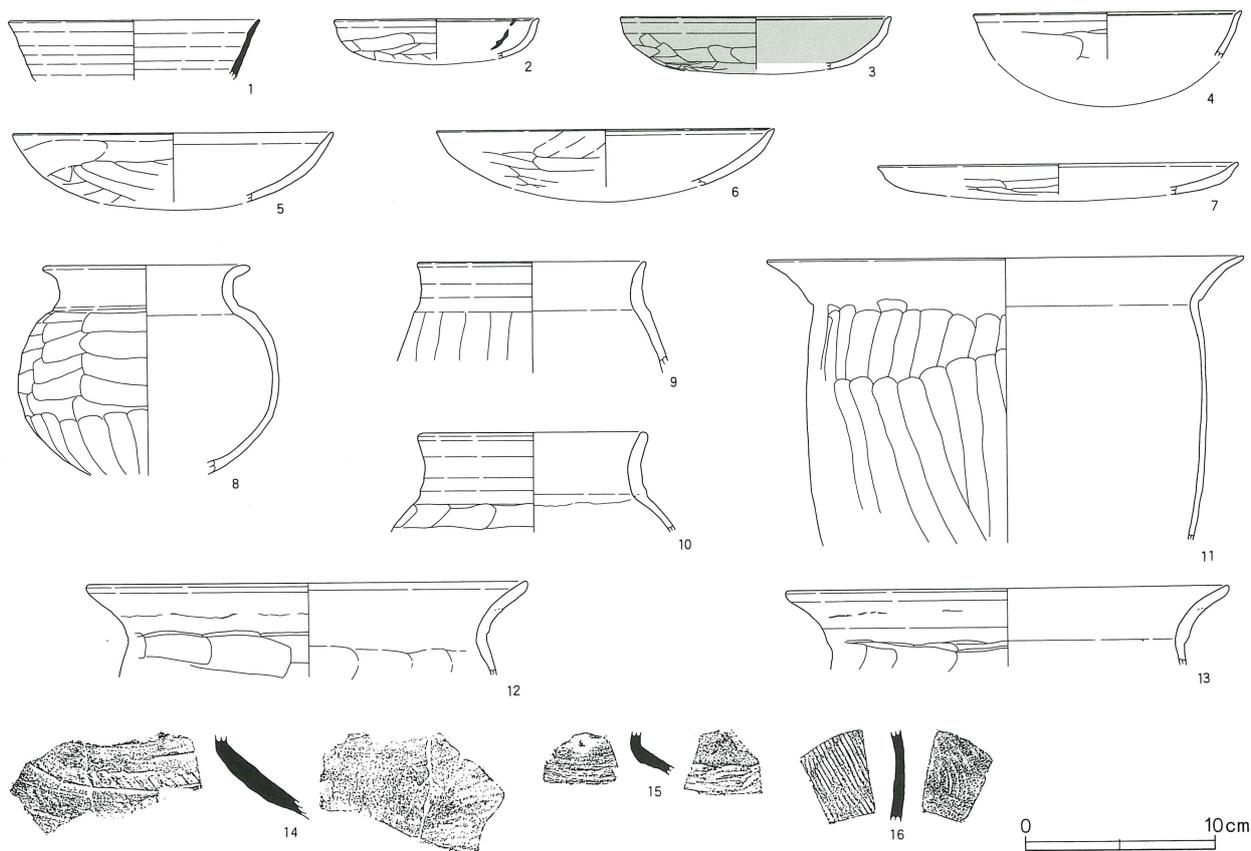
第3号住居跡 (第72・68図)

BH58・59グリッドに位置する。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.65m×東西幅3.21m×深さ0.21m、主軸方位N-17°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央に設置されている。燃烧部が住居外方に張り出し、多量の焼土ブロックが検出されている。壁溝は北壁カマド西側～西壁～南壁南東コーナーに巡り、幅0.11～0.17m、深さ0.03～0.05mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

第71図 F区第2号住居跡出土遺物



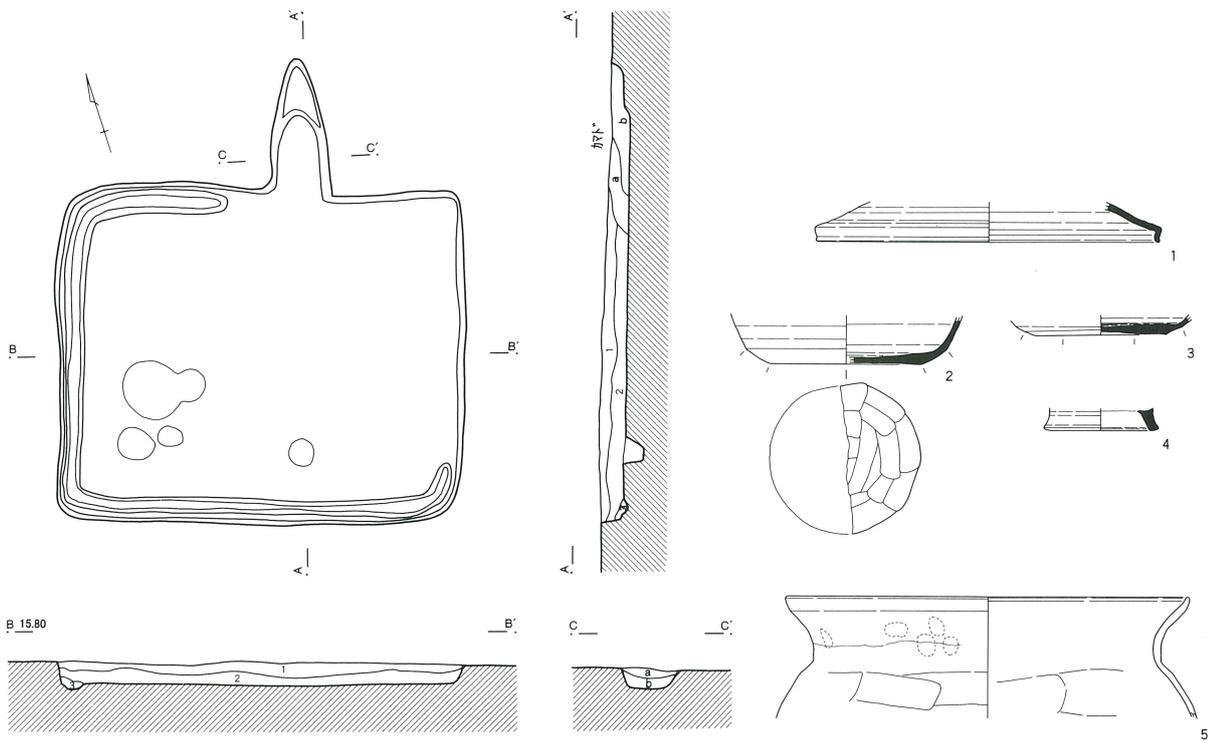
F区第2号住居跡出土遺物観察表 (第71図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(13.1)	(3.2)		WB	B	灰	5	末野産
2	坏	(10.7)	(3.1)		BR	B	橙	20	油芯
3	坏	(14.2)	(3.3)		WR	B	橙	15	内外面赤彩
4	坏	(14.1)	(3.0)		WR	B	にふい黄橙		
5	盤	(16.8)	(3.6)		BR	B	橙	10	カマド
6	盤	(17.8)	(3.0)		BR	B	黄褐	10	カマド
7	盤	(19.0)	(1.2)		B	B	にふい黄褐	5	
8	小型甕	(10.6)	(11.1)		WB	C	にふい橙	40	No. 4
9	小型壺	(11.9)	(5.9)		WR	B	橙	5	
10	小型壺	(11.6)	(5.2)		BR	B	橙	10	
11	甕	(24.9)	(15.0)		WB	B	橙	20	カマド
12	甕	(23.1)	(4.9)		WBR	B	にふい橙	5	No. 7
13	甕	(23.1)	(4.1)		WB	B	にふい黄褐	5	No. 1
14	甕				WBR	C	灰黄		
15	甕				WB	A	灰		外面自然釉付着
16	甕				WB	A	灰白		カマド

F区第3号住居跡出土遺物観察表 (第72図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(18.0)	(2.2)		W針	B	灰	5	南比企産
2	坏		(2.6)	(8.0)	WB	C	にふい黄褐	30	末野産 底部周辺ヘラ 外面黒褐色
3	坏		(1.1)	(6.9)	WB針	B	灰	30	南比企産 底部周辺ヘラ
4	高台椀		(1.2)	(6.0)	WB	B	灰		末野産
5	甕	(21.2)	(6.4)		WBR	B	橙	10	
6	甕				WB	B	灰		自然釉付着

第72図 F区第3号住居跡・出土遺物

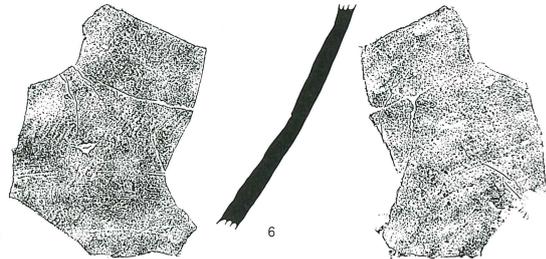


第3号住居跡

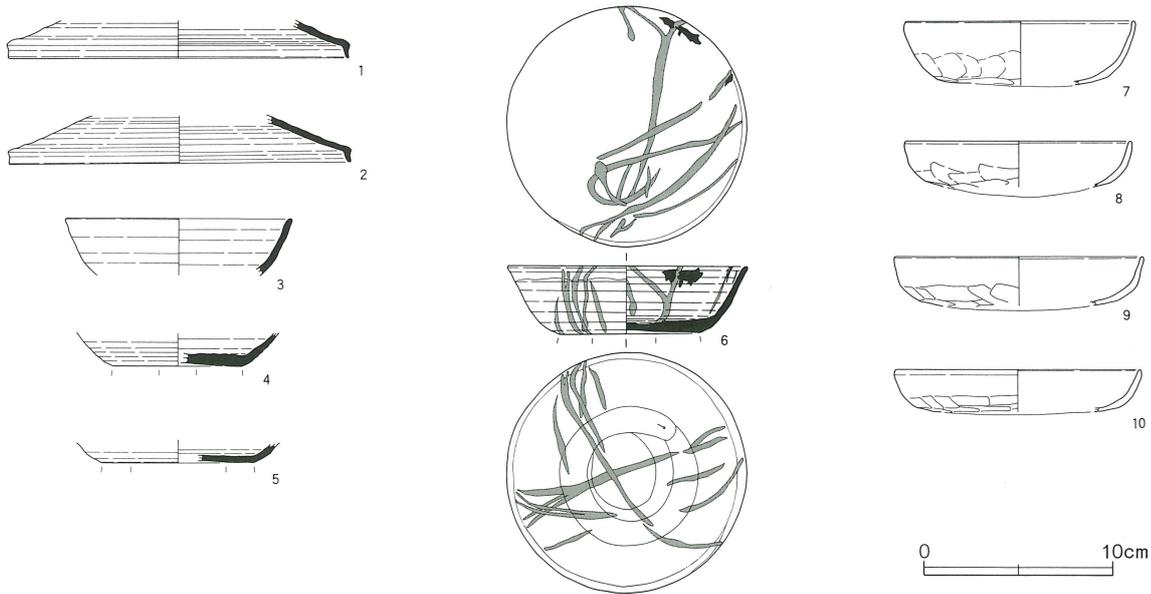
- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒(2~5mm)若干
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒(3~20mm)多量
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒(5mm)多量
- カマド
- a 黒褐色土 焼土7°口(5~20mm)多量 灰少量
- b 暗褐色土 黄褐色土粒(5~10mm)少量

0 2m

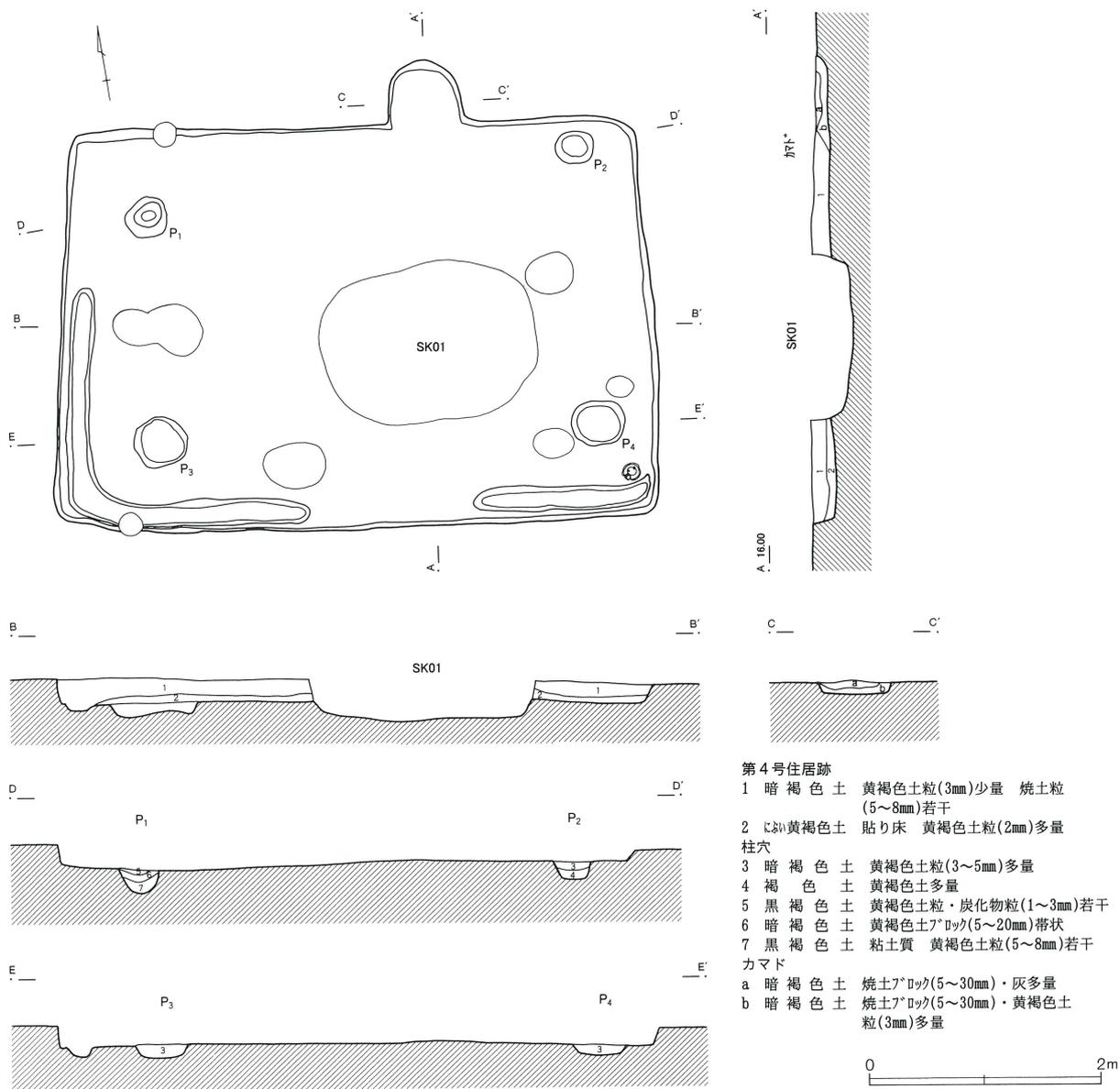
0 10cm



第73図 F区第4号住居跡出土遺物



第74図 F区第4号住居跡

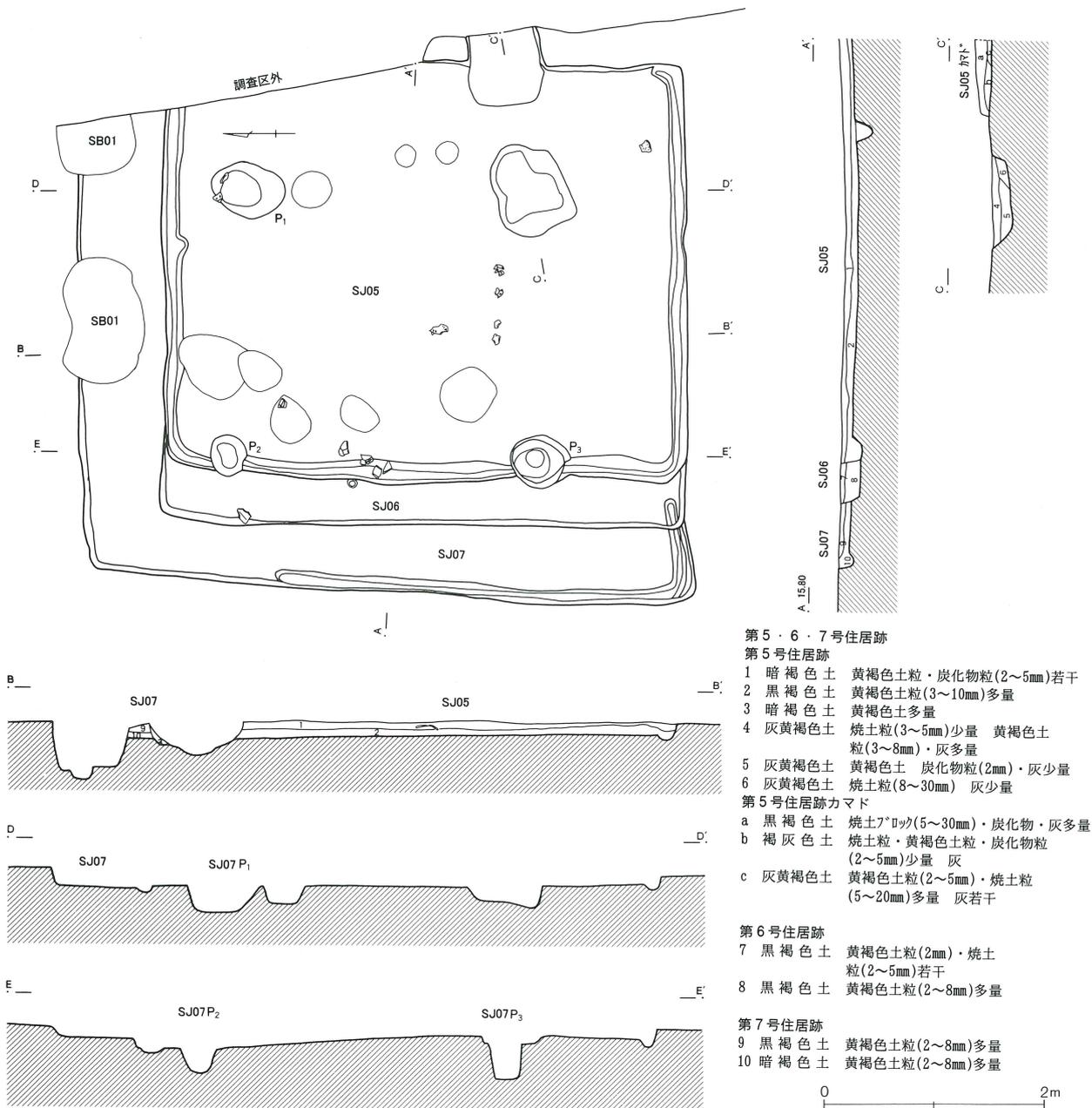


F区第4号住居跡出土遺物観察表(第73図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(17.9)	(2.0)		WB針	B	灰	5	南比企産
2	蓋	(18.0)	(2.6)		WB針	B	灰	5	南比企産
3	坏	(11.9)	(3.0)		WB針	B	灰	5	南比企産
4	坏		(1.9)	(6.8)	WB針	B	灰白	10	南比企産 底部周辺ヘラ
5	坏		(1.2)	(7.9)	WB針	B	灰白	10	南比企産 底部周辺ヘラ
6	坏	12.6	3.6	7.4	WB針	B	灰	99	南比企産 底部周辺ヘラ 油芯
7	坏	(12.0)	(3.4)		BR	B	橙	30	
8	坏	(11.8)	(2.5)		BR	B	橙	10	
9	坏	(13.0)	(2.6)		B	B	橙	10	
10	坏	(13.0)	(2.2)		WR	B	橙	10	

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第75図 F区第5・6・7号住居跡



第4号住居跡 (第73・74・67・68図)

BG58グリッドに位置し、重複する第1号土壌よりも古い。

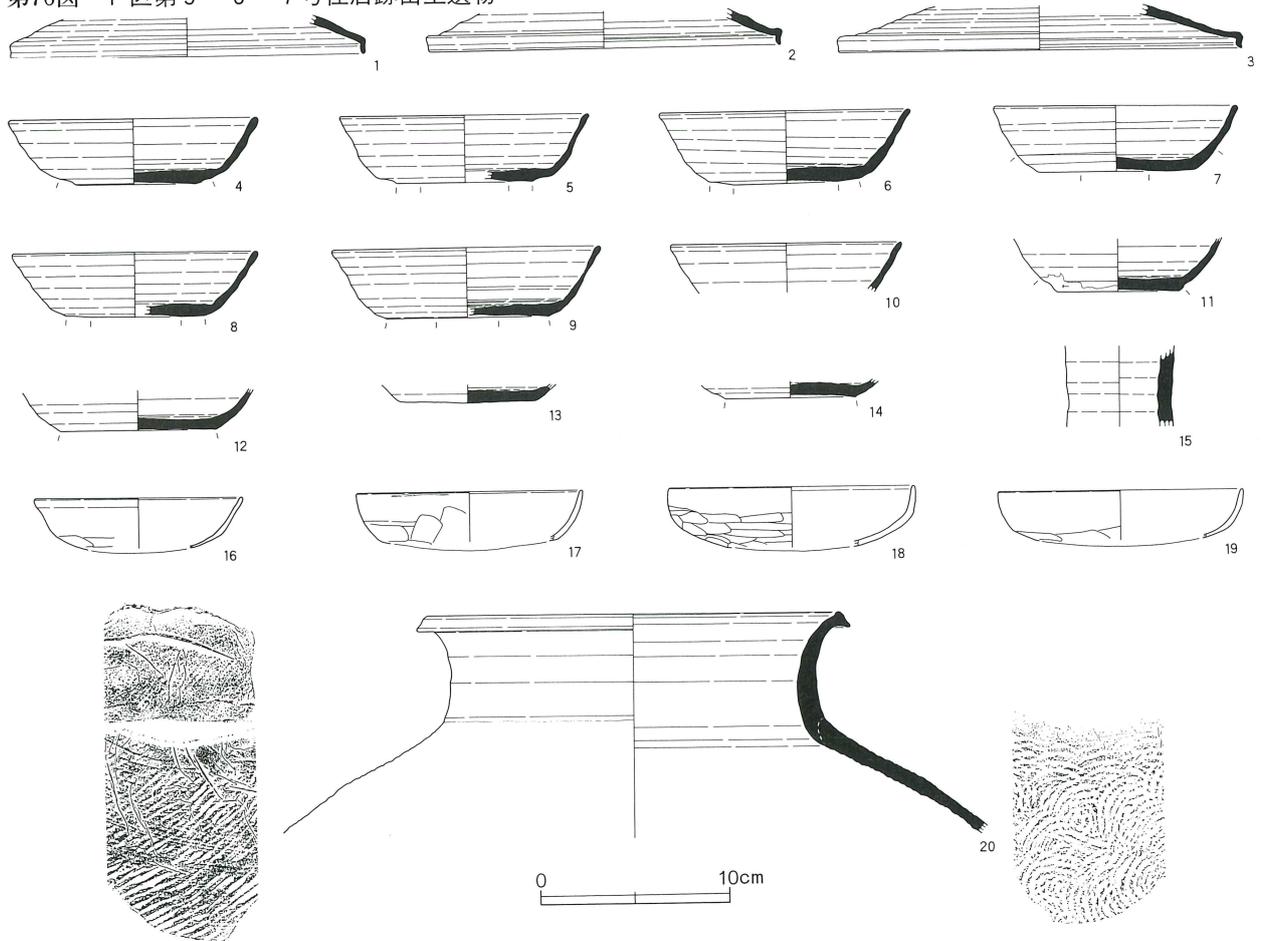
平面形態は長方形で、規模は主軸長3.47m×東西幅5.12m×深さ0.22m、主軸方位N-7.5°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央に設置されている。燃烧部が住居外方に張り出し、覆土には多量の灰が含まれている。

4本の柱穴は各コーナー付近に位置し、柱痕の有無や柱掘形の充填状況等については把握できなかった。壁溝は西壁南半~南壁に沿って巡り、幅0.17~0.23m、深さ0.28~0.30mほどである。カマドに対面する南壁中央部で途切れ、入口部が想定されるが、関わる施設は確認されていない。貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第76図 F区第5・6・7号住居跡出土遺物



F区第5・6・7号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(18.5)	(2.1)		W針	B	灰	5	南比企産
2	蓋	(18.4)	(2.0)		WB針	B	灰	5	南比企産
3	蓋	(21.1)	(2.4)		WB	B	灰白	15	カマド 南比企産
4	坏	(13.0)	3.5	(6.5)	WB針	B	灰	45	南比企産 底部全面ヘラ
5	坏	(12.9)	3.6	(7.2)	WB	B	灰	25	カマド 南比企産 底部周辺ヘラ
6	坏	(13.0)	3.8	7.8	W針	B	灰	40	南比企産 底部周辺ヘラ
7	坏	12.7	3.6	8.0	WB針	B	灰白	60	南比企産 底部周辺ヘラ
8	坏	(12.8)	3.4	(7.4)	WB針	B	灰白	45	No.2 南比企産 底部周辺ヘラ 下半分赤色化
9	坏	(14.0)	3.7	(8.6)	W針	B	灰白	40	No.5 南比企産 底部周辺ヘラ
10	坏	(12.0)	(2.6)		W針	B	灰	5	南比企産
11	坏		(2.8)	(6.4)	針	B	灰	20	No.13 南比企産 底部全面ヘラ ケズリ時粘土付着
12	坏		(2.2)	(8.2)	WB針	B	灰	25	南比企産 底部全面ヘラ
13	坏		(1.0)	7.1	W針	B	灰	30	南比企産 底部全面ヘラ
14	坏		(1.0)	6.9	W針	B	灰白	30	No.11 南比企産 底部全面ヘラ
15	長頸壺		(4.3)		WB	A	灰白		湖西産？
16	坏	(10.9)	(2.6)		BR	B	橙	5	
17	坏	(11.8)	(2.6)		B	B	橙	5	
18	坏	(12.9)	(3.2)		BR	B	橙	15	
19	坏	(12.8)	(2.6)		WBR	B	橙	5	
20	甕	(21.8)	(11.8)		WB	A	灰	5	No.1 末野産

第5・6・7号住居跡（第75・76・68図）

重複する3軒の住居跡で、新旧関係は第7号住居跡

→第6号住居跡→第5号住居跡の順に新しい。

BH59・60グリッドに位置し、重複する第1号掘立柱建

第77图 F区第8·9·10号住居跡



第8・9・10号住居跡

第8号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(2~10mm)少量 焼土粒(3~8mm)若干
 2 黒褐色土 黄褐色土粒(2~10mm)多量

第8号住居跡柱穴

- 3 黒褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)少量
 4 黒褐色土 黄褐色土7~10mm(5~20mm)・焼土粒(2~5mm)少量
 5 黒褐色土 黄褐色土7~10mm(5~30mm)多量
 6 褐灰色土 黄褐色土粒(5mm)多量
 7 褐灰色土 黄褐色土

第9号住居跡

- 8 暗褐色土 黄褐色土粒(2~10mm)・炭化物粒(1mm)少量
 9 黒褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)多量

第8号住居跡カマド

- a 黒褐色土 焼土粒・炭化物少量
 b 暗褐色土 黄褐色土粒多量

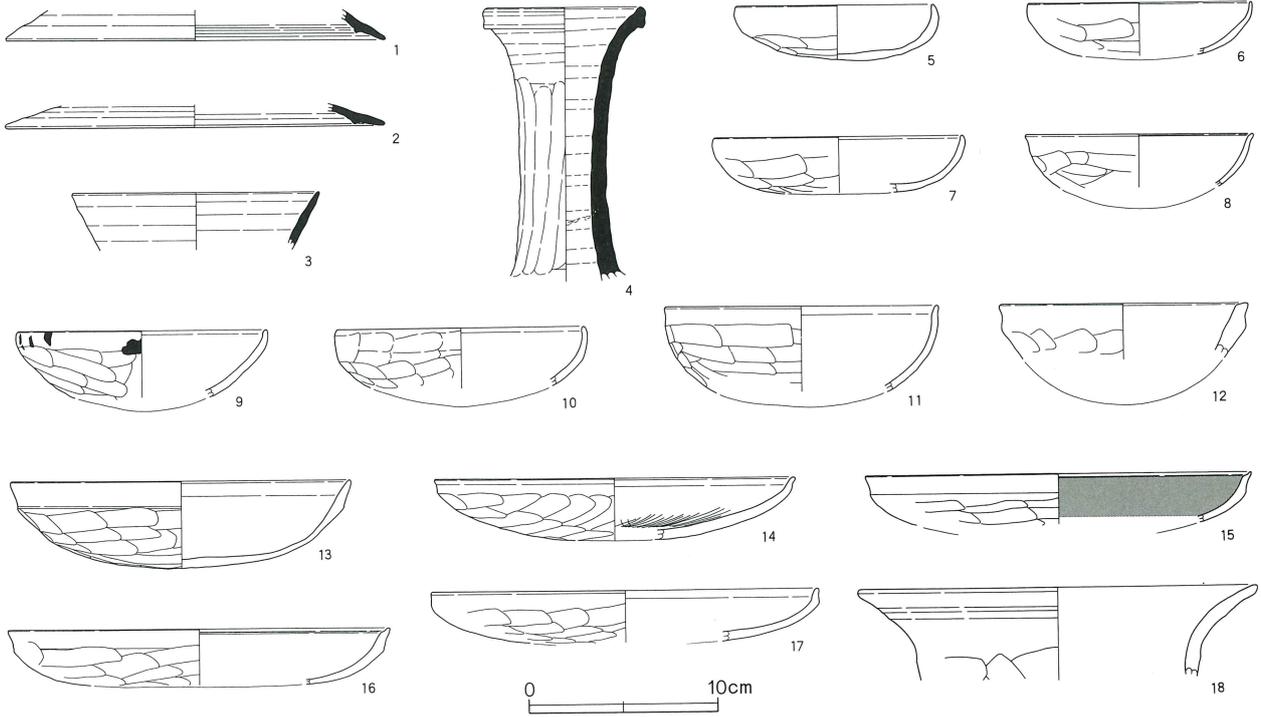
第10号住居跡

- 10 黒褐色土 黄褐色土粒(2mm)少量 焼土粒(2mm)若干

第9号住居跡カマド

- c 黒褐色土 焼土粒(5~10mm)少量 黄褐色土粒
 d 黒褐色土 黄褐色土粒多量 焼土粒(5mm)少量

第78図 F区第8・9・10号住居跡出土遺物



F区第8・9・10号住居跡出土遺物観察表 (第78図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(20.0)	(1.6)		W	B	黄灰	5	群馬産
2	蓋	(20.0)	(1.2)		W	B	灰白	5	群馬産
3	坏	(13.0)	(3.1)		WB	B	灰	5	末野産
4	長頸壺	8.2	(14.5)		WB	A	灰白	20	No.1 金井産 (胎土分析32)
5	坏	10.4	2.9		WB	B	橙	75	
6	坏	(11.8)	(2.8)		WR	B	橙	10	
7	坏	(13.0)	(3.0)		BR	B	橙	10	
8	坏	(11.9)	(2.8)		R	A	橙	15	
9	坏	(13.1)	(3.5)		B	B	橙	25	タール状の付着物
10	坏	(13.0)	(3.1)		BR	B	橙	10	
11	碗	(14.2)	(4.5)		R	B	黒褐	20	
12	坏	(12.9)	(3.0)		B	C	にふい赤褐	10	
13	碗	(17.9)	3.6		WR	B	橙	60	
14	盤	(18.9)	(3.3)		BR	B	にふい黄褐	40	
15	盤	(20.3)	(2.6)		W	B	にふい黄褐	10	内面黒色処理
16	盤	(20.1)	(3.0)		W	B	にふい橙	10	
17	盤	(20.3)	(2.7)		WBR	B	にふい黄褐	10	
18	甕	(20.8)	(4.8)		B	B	黄褐	5	

物跡よりも古い。

第5号住居跡の平面形態は長方形で、規模は主軸長3.80m×南北幅4.74m×深さ0.15m、主軸方位N-90°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。カマドは東壁中央南よりに設置されているが、煙道部は調査区外にある。袖部は検出されず、燃焼部は不明確である。壁溝は北壁～西壁～南壁に巡り、幅0.10～0.22m、深さ0.21mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第6号住居跡の平面形態も長方形で、規模は南北幅4.76m×深さ0.10m、主軸方位N-90°-Eを測る。第5号住居跡カマド前面に位置する焼土・炭化物・灰が堆積する土壌状の落ち込みが第6号住居跡のカマド残欠で、構造などについては明確ではない。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

第7号住居跡の平面形態も長方形で、規模は主軸長4.85m×南北幅5.50m×深さ0.08m、主軸方位N-90°-Eを測る。柱穴はP1・P2・P3で、P4は第6号住居跡カマドによって壊されている。壁溝は西壁中央～南西コーナーに巡り、幅0.10～0.14m、深さ0.13mほどである。カマド・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、土師器甕片が出土している。

第8・9・10号住居跡(第77・78・67図)

重複する3軒の住居跡で、新旧関係は第10号住居跡→第9号住居跡→第8号住居跡の順に新しい。BF57・58、BG57・58グリッドに位置し、重複する第5号掘立柱建物跡、第2・17号土壌、第1号溝跡よりも古い。

第8号住居跡の平面形態は方形で、規模は主軸長4.42m×東西幅4.95m×深さ0.18m、主軸方位N-23°-Wを測る。柱穴は4本で、柱は抜き取られている。カマドは北壁中央東よりに設置されているが、構造については不明である。壁溝は北壁～西壁～東壁に巡り、幅0.13～0.35m、深さ0.30～0.38mほどである。貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第9号住居跡の平面形態は長方形で、規模は主軸長4.63m×東西幅5.20m×深さ0.14m、主軸方位N-23°-Wを測る。カマドは北壁中央東よりに設置されているが、構造は不明である。壁溝はほぼ全周するものと思われる、幅0.12～0.22m、深さ0.24mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

第10号住居跡の平面形態は方形で、規模は南北長5.60m×東西長6.00m×深さ0.14m、南北軸方位N-23°-Wを測る。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

第11号住居跡(第79・67図)

BG57・58グリッドに位置する。第17号土壌と重複し、第13号住居跡、第27・28号土壌よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.08m×東西幅4.56m×深さ0.16m、主軸方位N-8°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央に設置され、燃焼部が住居外方に張り出す形態である。壁溝は北壁カマド西側～西壁～南壁中央付近に巡り、幅0.10～0.17m、深さ0.20～0.22mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第12号住居跡(第80・67図)

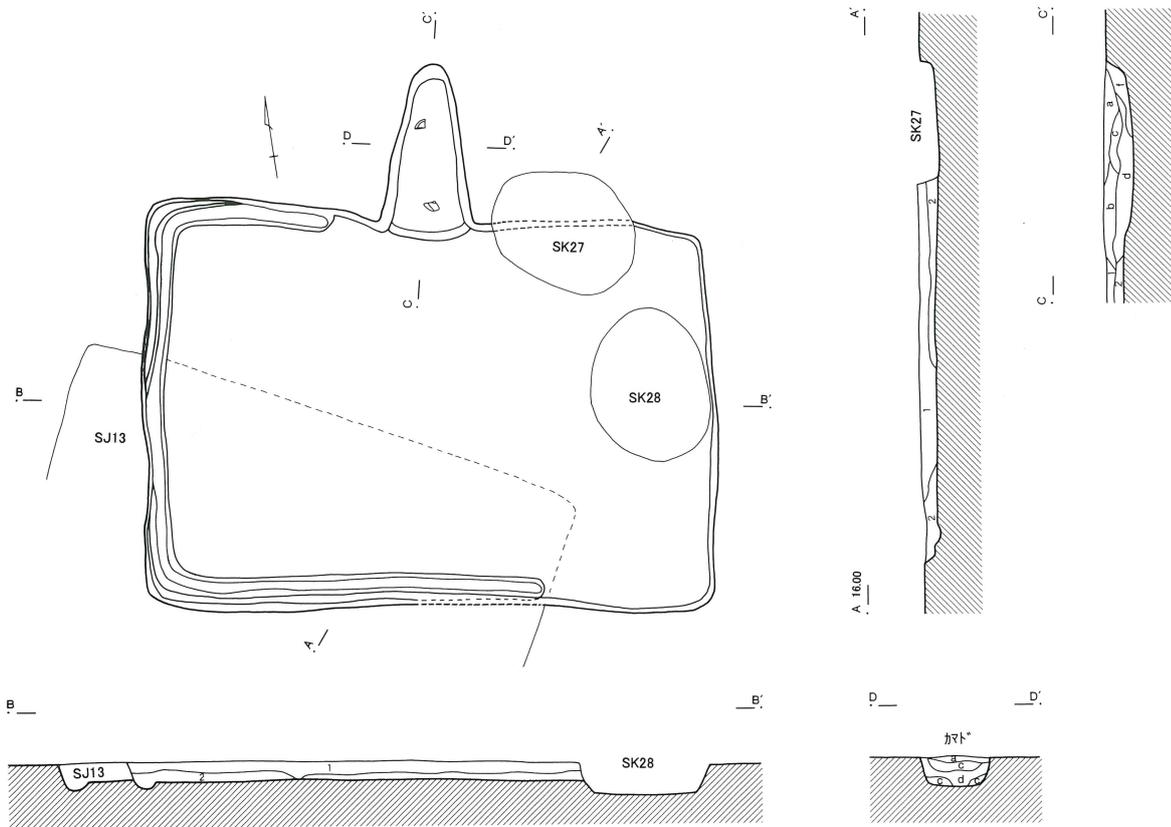
BG57、BH57グリッドに位置し、重複する第13・14号住居跡より新しく、第35号土壌よりも古い。第15号住居跡との新旧関係は不明である。

平面形態は方形で、規模は南北長3.70m×東西長3.91m×深さ0.09m、南北軸方位N-13.5°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は北壁北東コーナー～東壁～南壁中央付近に巡り、幅0.12～0.23m、深さ0.27～0.28mほどである。中央部には長径1.60m×短径1.30m×深さ0.09m程の住居跡に伴う土壌がある。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第79図 F区第11号住居跡・出土遺物

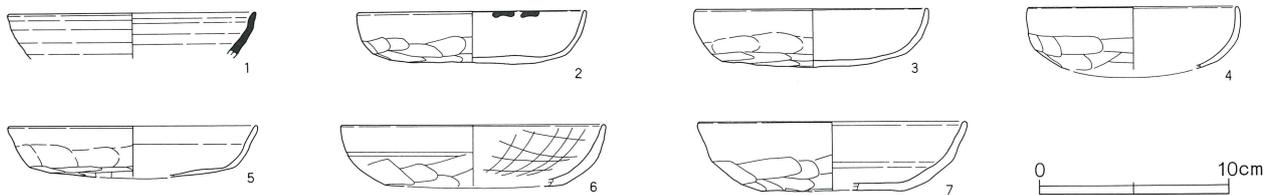


第11号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒少量 焼土粒(1~3mm)・炭化物粒微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒少量 焼土粒極微量

カマド

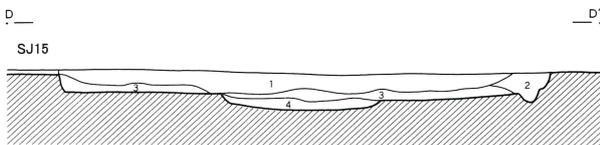
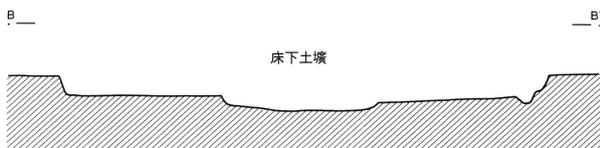
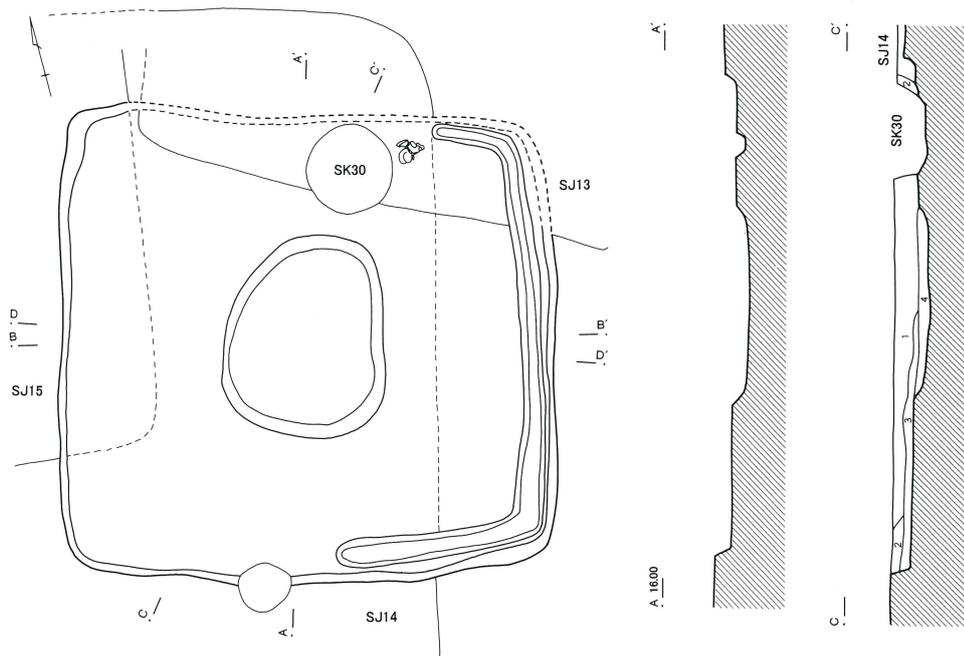
- a 暗褐色土 黄褐色土粒・炭化物多量 焼土粒少量
- b 暗褐色土 黄褐色土粒(1~2mm)多量 焼土粒・炭化物少量
- c 褐色土 黄褐色土粒極多量 焼土粒・炭化物微量
- d 黒褐色土 炭化物(10~50mm)多量 焼土7°ロツク(20~50mm)・黄褐色土粒
- e 褐色土 黄褐色土粒極多量 焼土粒微量
- f 暗褐色土 黄褐色土粒(1~2mm)多量 炭化物微量



F区第11号住居跡出土遺物観察表 (第79図)

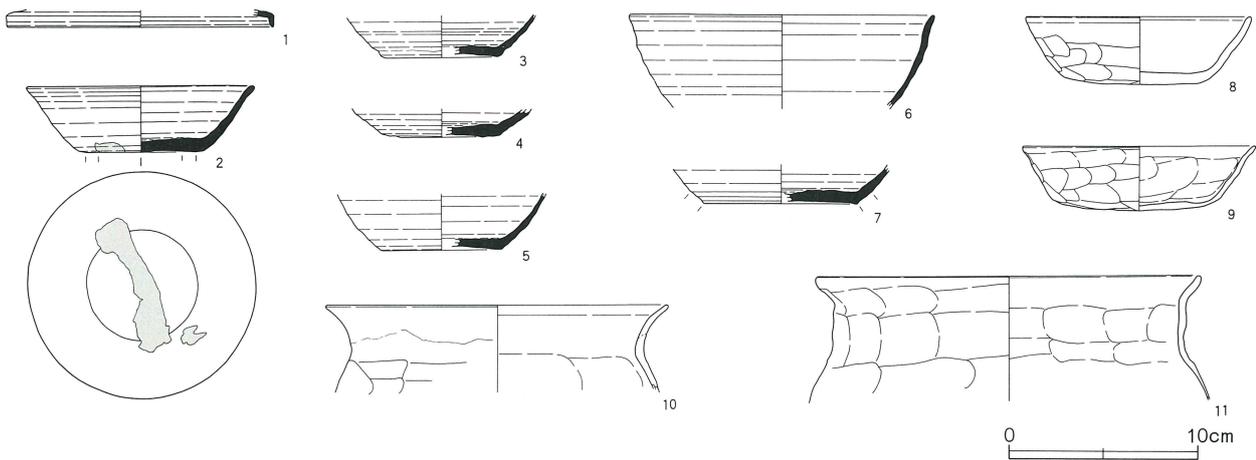
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.9)	(2.4)		B針	B	灰白	5	カマド 南比企産
2	坏	(12.0)	2.7		BR	B	橙	75	油煙の付着
3	坏	12.1	3.1		BR	B	橙	50	カマド
4	坏	(11.0)	(3.3)		BR	B	橙	30	カマド
5	坏	(13.0)	(2.7)		BR	B	橙	40	カマド
6	坏	(13.8)	(3.3)		B	B	橙	5	
7	坏	(14.0)	(3.7)		BR	B	橙	20	カマド

第80図 F区第12号住居跡・出土遺物



第12号住居跡

- 1 黒褐色土 焼土粒・黄褐色土粒多量 炭化物微量
- 2 暗褐色土 焼土粒・黄褐色土粒少量
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒極多量 焼土粒微量
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒極多量 炭化物微量



第13号住居跡 (第81・67図)

BG57グリッドに位置し、重複する第11・12・14号住居跡、第29・30・35・37号土壌よりも古い。

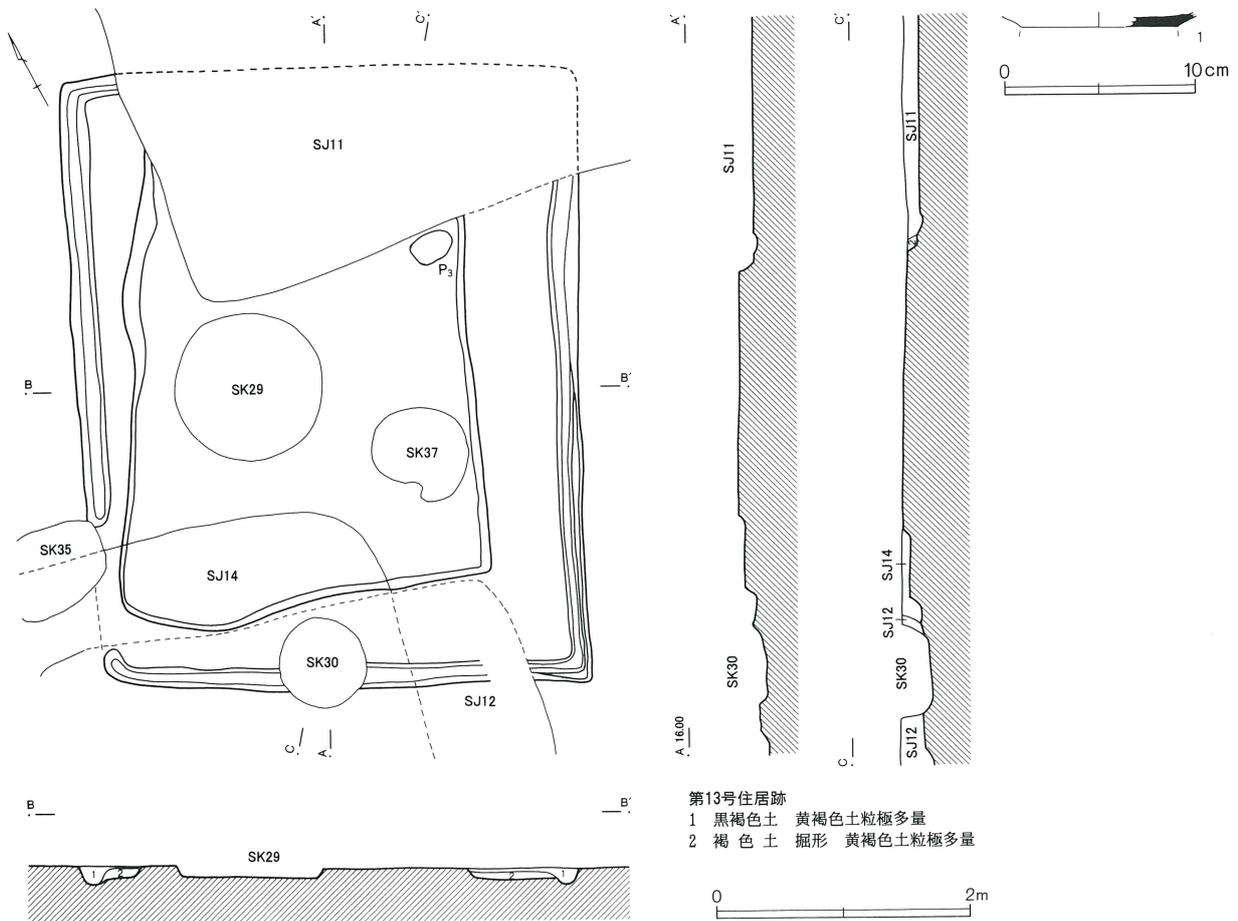
遺構の残存状態はきわめて悪く、確認時には既に床

面が露出し、壁溝と掘形が調査できた。平面形態は長方形で、壁溝は南西コーナーで途切れるものの、全周するものと思われる。幅0.11~0.23m、深さ0.13mほどである。住居跡の規模は南北長4.92m×東西長3.97

F区第12号住居跡出土遺物観察表（第80図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(14.0)	(0.9)		針		灰		南比企産
2	坏	11.8	3.6	5.8	WBR 針	C	橙	90	No.1 南比企産 底部周辺ヘラ タール状の付着物
3	坏		(2.2)	(5.8)	W針	B	灰	15	南比企産 底部糸切離し
4	坏		(2.0)	(6.0)	W針	B	灰白	10	南比企産 底部糸切離し
5	坏		(3.0)	(6.3)	W針	B	青灰	10	南比企産 底部糸切離し
6	椀	(16.0)	(5.0)		WB 針	B	灰	10	南比企産
7	坏		(2.1)	(8.0)	B針	B	灰		南比企産 底部糸切離し
8	坏	(11.8)	3.6	7.1	R	B	にぶい橙	70	
9	坏	12.2	3.4		BR	B	橙	70	
10	甕	(18.0)	(4.6)		BR	B	橙	5	
11	甕	20.1	(6.6)		BR	B	橙	15	No.4

第81図 F区第13号住居跡・出土遺物



F区第13号住居跡出土遺物観察表（第81図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏		(0.8)	(8.2)	W針	A	灰	5	南比企産 底部内面擦痕 転用硯か？

m、南北軸方位N-26°-Eを測る。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。掘形は住居周辺部を溝状に掘り窪めたタイプである。

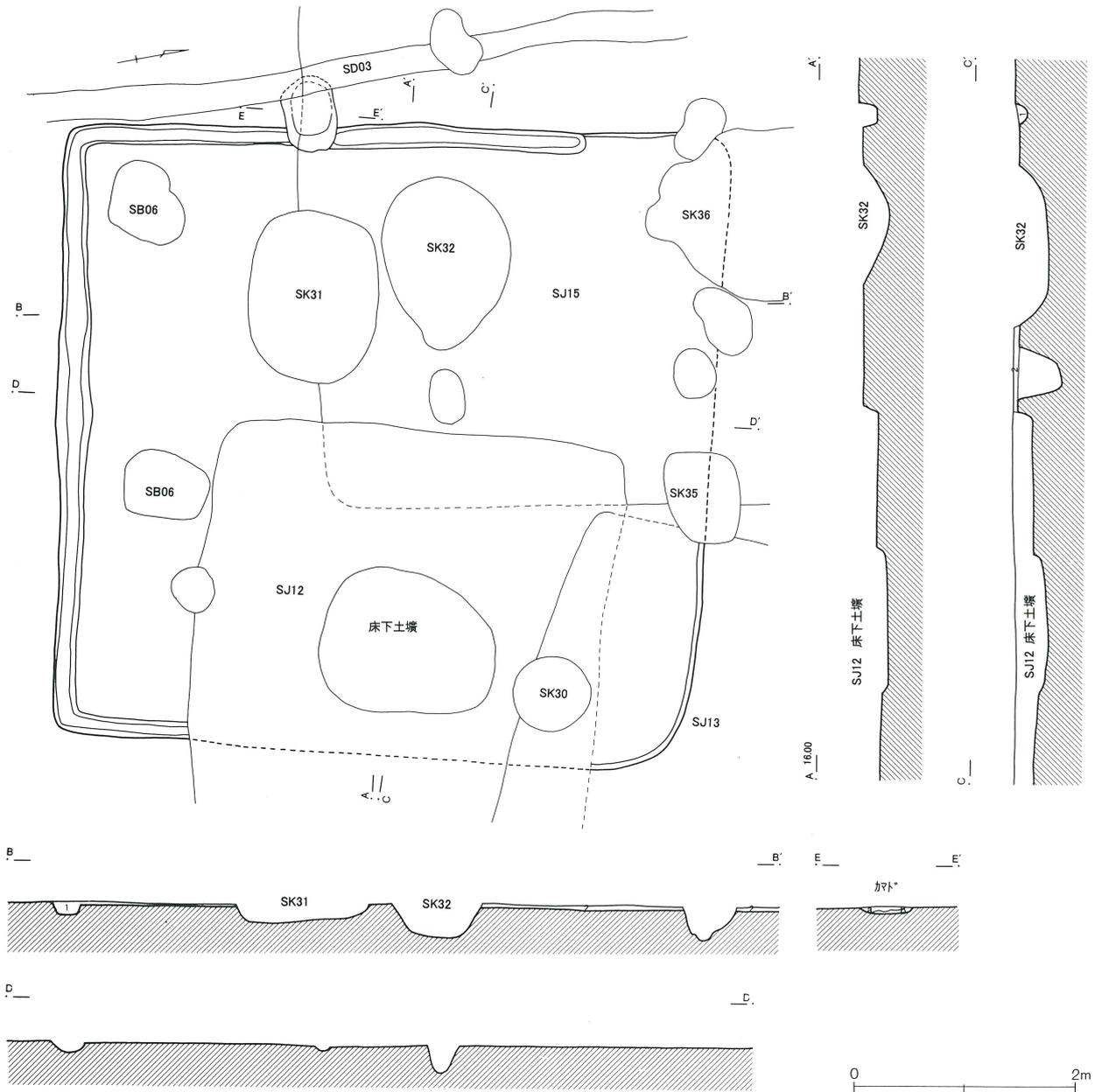
遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏

片が出土している。

第14号住居跡（第82・67図）

BG57、BH57グリッドに位置し、重複する第13号住居跡よりも新しく、第12・15号住居跡、第6号掘立柱

第82図 F区第14号住居跡



第14号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒多量
- 2 褐色土 黄褐色土・暗褐色土粒多量

カマド

- a 暗褐色土 焼土粒(3~5mm)多量 黄褐色土粒少量
- b 黒褐色土 黄褐色土粒多量

建物跡・第36号土壙よりも古い。

平面形態は方形である。規模は主軸長5.63m×南北幅5.92m×深さ0.05m、主軸方位N-78.5°-Wを測る。

カマドは西壁中央南よりに設置されているが、第3号溝跡に攪乱され、掘形の一部が検出されたのみで、燃焼部・袖部等の構造は把握できなかった。壁溝は西

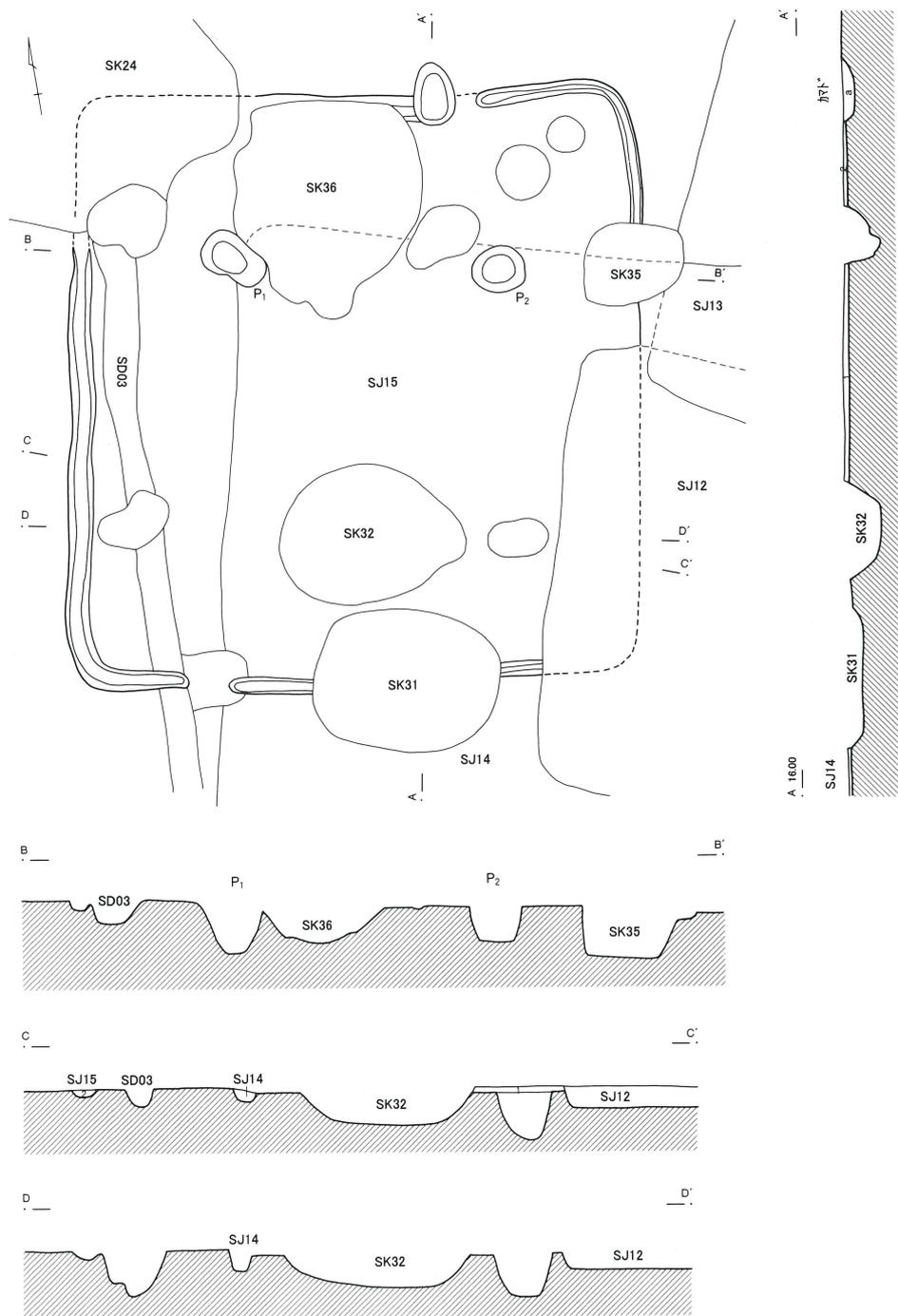
壁～南壁～東壁の一部に巡り、幅0.15～0.32m、深さ0.16～0.18mほどである。柱穴・貯蔵穴は発見されていない。

遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第15号住居跡 (第83・67図)

BG57グリッドに位置し、第12・14号住居跡、第24・31・32・35・36号土壙と重複する。新旧関係は、第14

第83図 F区第15号住居跡



第15号住居跡

1 褐色土 SJ14・15覆土 黄褐色土・暗褐色土粒多量

2 褐色土 壁溝 黄褐色土近似

カマド

a 暗褐色土 焼土粒(2~10mm)・黄褐色土粒多量 灰土残欠



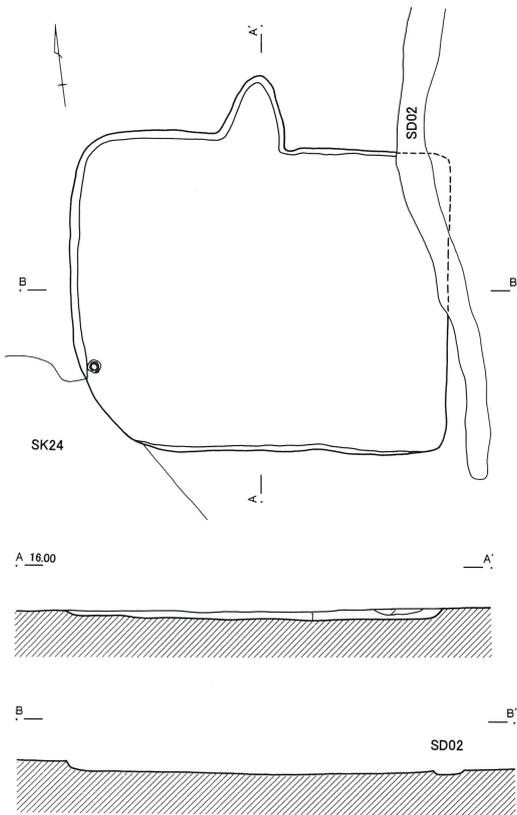
号住居跡よりも新しく、第24号土壌よりも古い。

平面形態は方形である。規模は主軸長5.00m×東西幅4.73m×深さ0.05m、主軸方位N-6.5°-Eを測

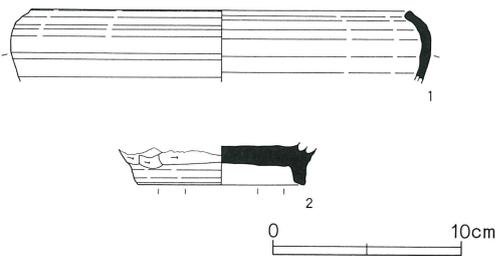
る。

カマドは北壁中央東よりに設置されているが、構造等は明確ではない。柱穴は2本検出されているが、柱

第84図 F区第16号住居跡・出土遺物



第16号住居跡
 1 黒褐色土 掘形埋土 貼り床 黄褐色土粒多量 焼土粒・炭化物粒少量
 2 黒褐色土 黄褐色土粒多量 焼土粒(3~10mm)少量 カマド残欠



痕の有無や柱掘形充填状況は把握できなかった。壁溝は北東コーナー付近および北壁カマド西側～西壁～南壁に巡り、幅0.10～0.21m、深さ0.12～0.13mほどである。貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得ないが、土師器甕・坏片が出土して

F区第16号住居跡出土遺物観察表 (第84図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	鉄鉢	(20.0)	(3.8)		W針	B	灰	5	南比企産
2	長頸壺		(2.1)	8.8	B針	B	灰白	10	No.1 南比企産 底部周辺ヘラ 底部内面擦痕 転用硯

いる。

第16号住居跡 (第84・67図)

BG57グリッドに位置し、重複する第24号土壌、第2号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.46m×東西幅2.98m、主軸方位N-8.5°-Eを測る。遺構確認段階には既に床面まで削平され、掘形へ人為的に埋め戻された貼床状の土層の堆積が認められた。

カマドは北壁中央に残欠が確認されているが、構造は把握できなかった。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第17・18・25号住居跡 (第85・86・87・67図)

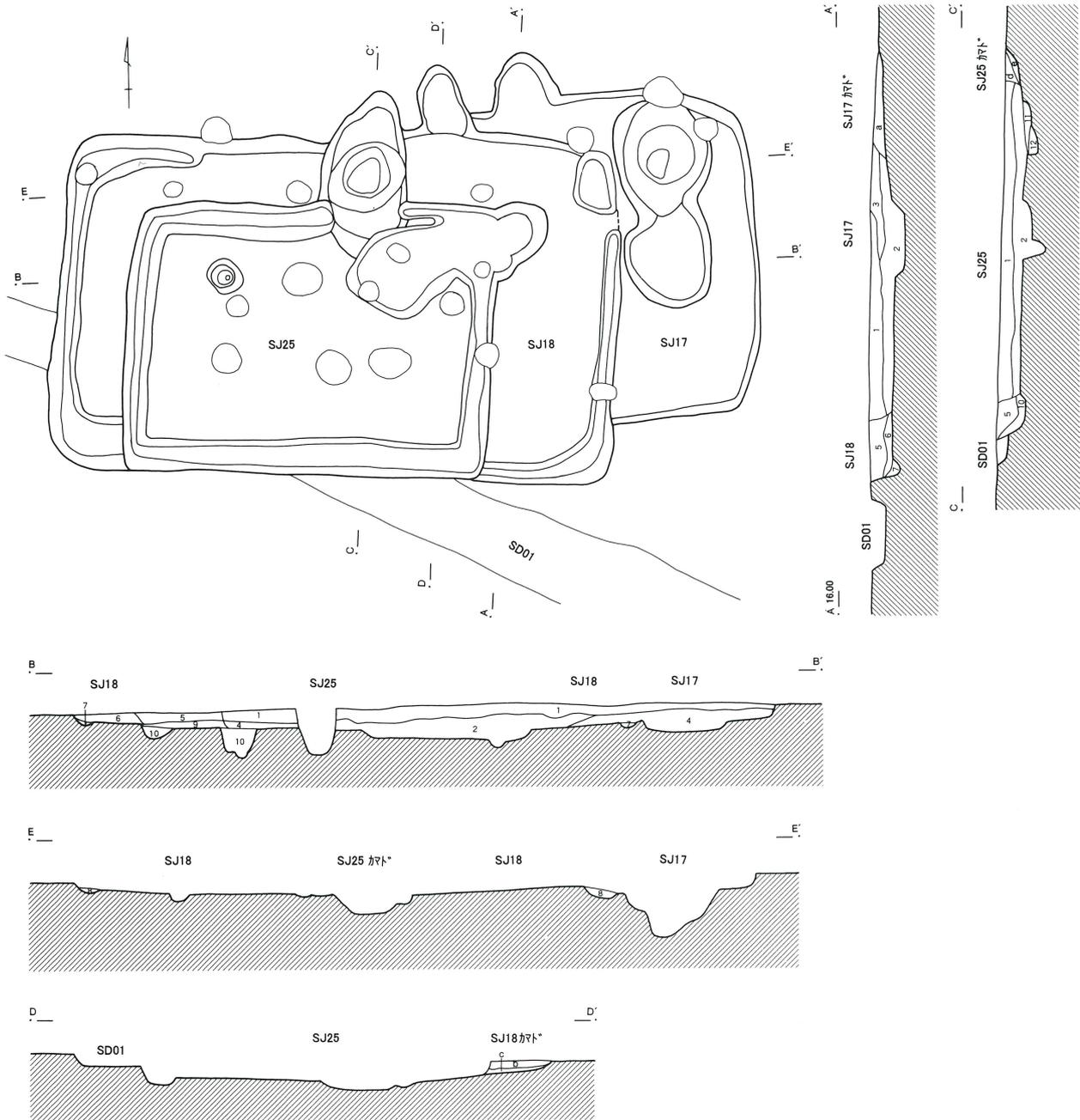
重複する3軒の住居跡で、BE56、BF56グリッドに位置する。新旧関係は、第17号住居跡が最も新しく、第25号住居跡が最も古い。また第1号溝跡は第17号住居跡よりも古い。

第17号住居跡の平面形態は長方形で、規模は主軸長3.07m×東西幅(5.10)m×深さ0.30m、主軸方位N-3.5°-Wを測る。覆土には多量の炭化材と炭化物・焼土が検出され、焼失住居と考えられる。カマドは北壁中央に設置されているが、構造は把握されていない。柱穴・壁溝は確認されていない。北東コーナー部に土壌状の掘り込みがみられるが、底面の凹凸が激しく、貯蔵穴かどうかの判断はできなかった。

第18号住居跡の平面形態も長方形で、規模は主軸長3.23m×東西幅5.17m×深さ0.20m、主軸方位N-3.5°-Eを測る。カマドは北壁中央東よりに設置されているが、構造は明確ではない。壁溝は北壁北西コーナー～西壁～南壁～東壁に巡り、幅0.15～0.49m、深さ0.24～0.26mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

第25号住居跡の平面形態も長方形で、規模は主軸長

第85図 F区第17・18・25号住居跡



第17・18・25号住居跡

第17号住居跡

- 1 黒褐色土 焼土粒・黄褐色土粒少量 炭化物粒多量
- 2 赤黒色土 焼土粒・黄褐色土粒少量
- 3 赤黒色土 黄褐色土粒少量
- 4 褐灰色土 焼土粒少量 黄褐色土粒多量

第17号住居跡カマド

- a 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第18号住居跡

- 5 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 6 赤黒色土 黄褐色土粒少量
- 7 黒色土 焼土粒多量 焼土フノック少量
- 8 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第18号住居跡カマド

- b 黒褐色土 焼土粒少量
- c 黒褐色土 焼土粒少量 炭化物フノック(10mm大)

第25号住居跡

- 9 黒褐色土 黄褐色土粒多量
- 10 赤黒色土 黄褐色土粒多量
- 11 赤灰色土 黄褐色土粒少量
- 12 赤灰色土 黄褐色土粒多量

第25号住居跡カマド

- d 赤灰色土 焼土フノック多量
- e 暗赤灰色土 焼土粒多量



第86図 F区第17・18・25号住居跡炭化材出土状況



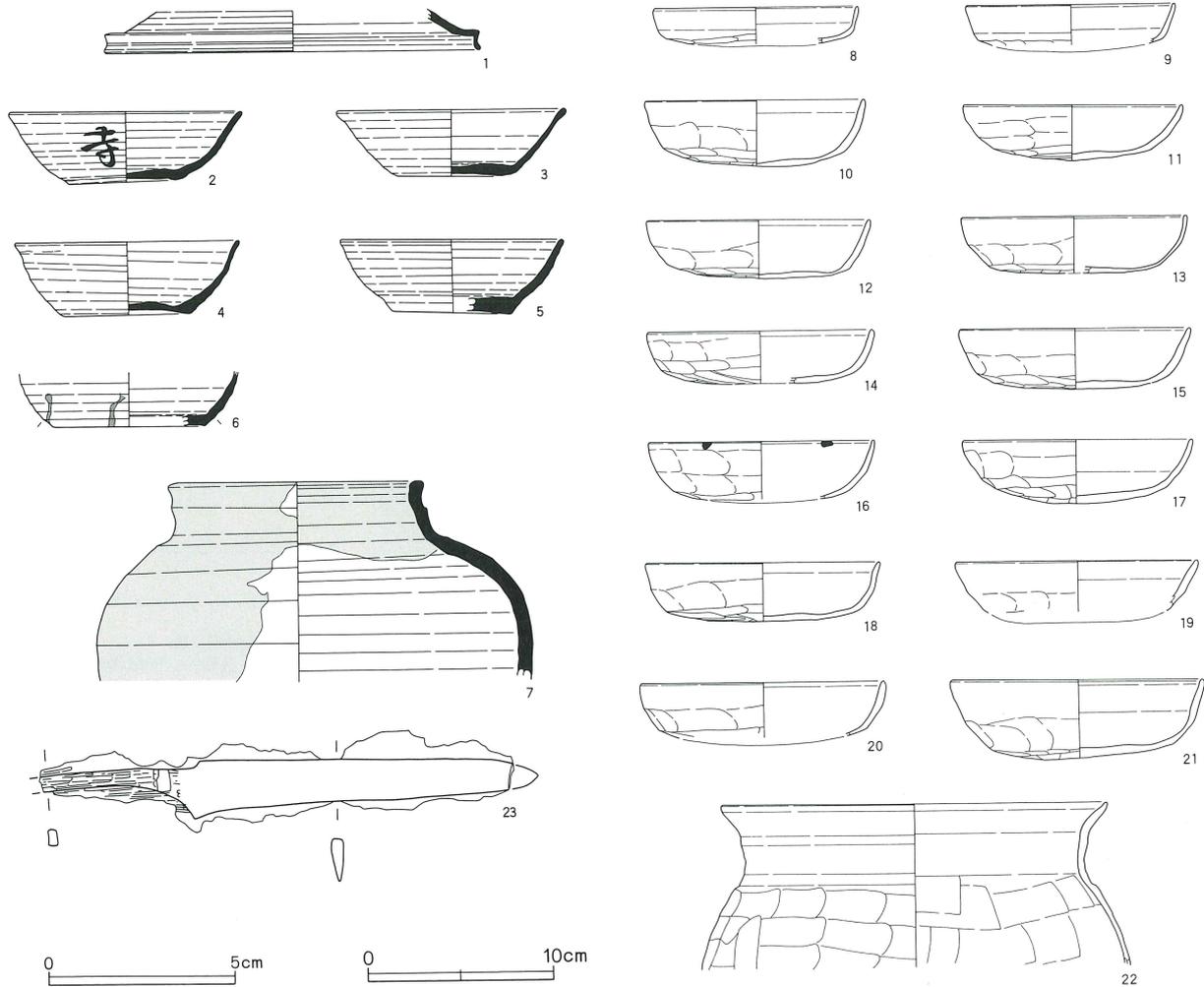
F区第17・18・25号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(20.0)	(2.2)		W針	B	灰	5	南比企産
2	坏	(12.7)	3.9	(6.4)	B針	B	灰白	70	No.19 南比企産 底部手切離し
3	坏	12.1	3.6	5.6	B針	B	灰白	80	No.27・28 南比企産 底部手切離し
4	坏	11.9	4.0	6.8	B針	B	灰	95	No.6 南比企産 底部手切離し
5	坏	(11.9)	4.1	(5.3)	W針	B	灰	50	南比企産 底部手切離し
6	坏		(2.9)	(8.0)	W針	B	灰	25	南比企産
7	短頸壺	12.8	(10.7)		WB	B	灰	30	No.2・4 南比企産? 自然釉付着
8	坏	(10.9)	(2.0)		BR	B	橙	10	
9	坏	(11.1)	(2.1)		WB	B	橙	10	
10	坏	11.6	3.6		WB	B	橙	90	No.20
11	坏	(10.6)	(3.0)		BR	B	橙	30	No.18・19
12	坏	11.9	3.1		B	B	橙	75	No.21
13	坏	(12.0)	3.1		B	B	にぶい橙	40	No.15
14	坏	(12.0)	2.8		BR	B	にぶい黄褐	30	No.26
15	坏	(12.3)	3.3		B	B	橙	70	No.14
16	坏	(12.0)	(3.1)		B	B	にぶい橙	15	油芯
17	坏	12.2	3.3		B	B	にぶい橙	85	
18	坏	(12.5)	3.2		BR	B	橙	50	No.16
19	坏	(12.8)	(2.7)		B	B	橙	15	No.18
20	坏	(13.0)	(3.1)		WB	B	橙	30	No.12・14
21	坏	(13.4)	4.3		WB	B	橙	60	No.17
22	甕	(20.6)	(8.8)		BR	B	橙	20	No.1・7
23	刀子								長さ13.3×幅1.5×厚さ0.3×重さ21.0g

2.55m×幅3.36m×深さ0.15m、主軸方位N-3.5°
一Eを測る。カマドは北壁中央に設置され、燃焼部が

深く掘り込まれ、多量の焼土が堆積している。袖部は
検出されていない。壁溝はほぼ全周し、幅0.20~0.37

第87図 F区第17・18・25号住居跡出土遺物



m、深さ0.21~0.28mほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

出土遺物のなかで、「寺」の文字が墨書された須恵器坏は注目される。図示したほかに、第17号住居跡では須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片、第17・18号住居跡一括遺物として須恵器坏片、土師器甕・高坏・坏片、羽口片、鉄滓が出土している。

第19号住居跡 (第88・67図)

BF56、BG56グリッドに位置し、重複する第4号溝より新しい。

平面形態は方形で、規模は南北長3.82m×東西長4.32m、南北軸方位N-7°-Wを測る。遺構確認段階には既に床面直上付近まで削平されており、埋没状況は明確ではない。

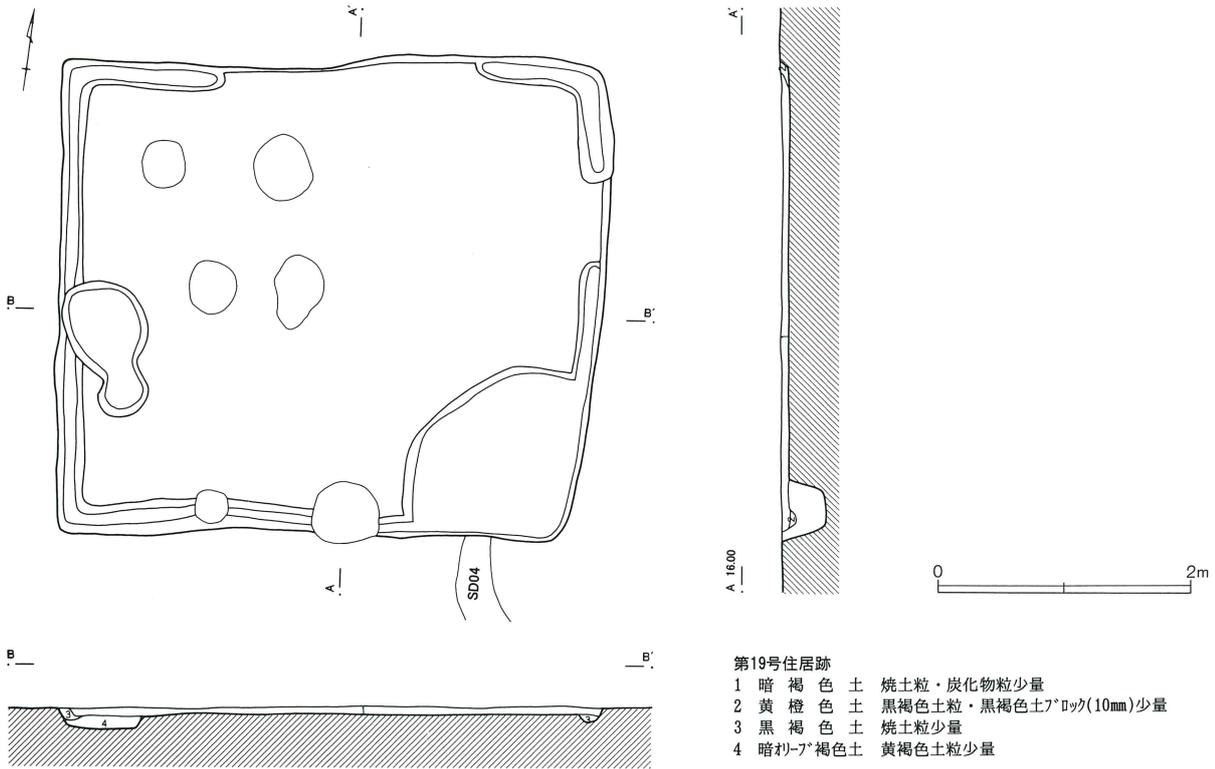
北壁中央付近の壁溝が途切れている箇所には黒色土の堆積が認められ、カマドの可能性もあるが、焼土・炭化物等は検出されていない。壁溝は北壁中央および東壁の一部で途切れるほかは全周し、幅0.17~0.29m、深さ0.13mほどである。柱穴は検出されていない。南東コーナー付近には、長径1.10m、短径0.64m、深さ0.13mの住居跡に伴う不整形の土壇があるが、貯蔵穴とは異なるようである。

遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第20・21・23号住居跡 (第89・90・91・67図)

BG56、BH56グリッドに位置する3軒の住居跡である。第20号住居跡は重複する第21・23号住居跡よりも新しいが、第21号住居跡と第23号住居跡との新旧関係

第88図 F区第19号住居跡



は不明である。また第7・8号掘立柱建物跡、第25号土壇よりも古いものの、第38・43号土壇との新旧関係は不明である。

第20号住居跡の平面形態は方形である。規模は主軸長5.06m×東西幅5.16m×深さ0.08m、主軸方位N-10°-Eを測る。カマドは北壁中央東よりに燃焼部の残欠のみが確認され、構造の把握には至っていない。柱穴は4本検出され、柱は抜き取られている。柱掘形には黒褐色土が充填されている。壁溝は全周し、幅0.14~0.28m、深さ0.16mほどである。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、長径0.83m、短径0.66m、深さ0.13mの楕円形である。遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第21号住居跡の平面形態は長方形で、遺構確認段階には既に床面が露呈している。規模は南北長3.34m、南北軸方位N-3°-Eを測る。壁溝は北壁から東壁北東コーナー付近に巡り、幅0.10~0.22m、深さ0.08mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第23号住居跡の平面形態は方形で、遺構確認段階には既に床面が露呈している。規模は東西長4.30m、南北軸方位N-10°-Eを測る。西壁延長部には第25号土壇に攪乱された焼土層が検出され、第23号住居跡のカマドと考えられる。カマドとすると燃焼部の残欠のみが検出され、構造は不明である。壁溝南西コーナー~南

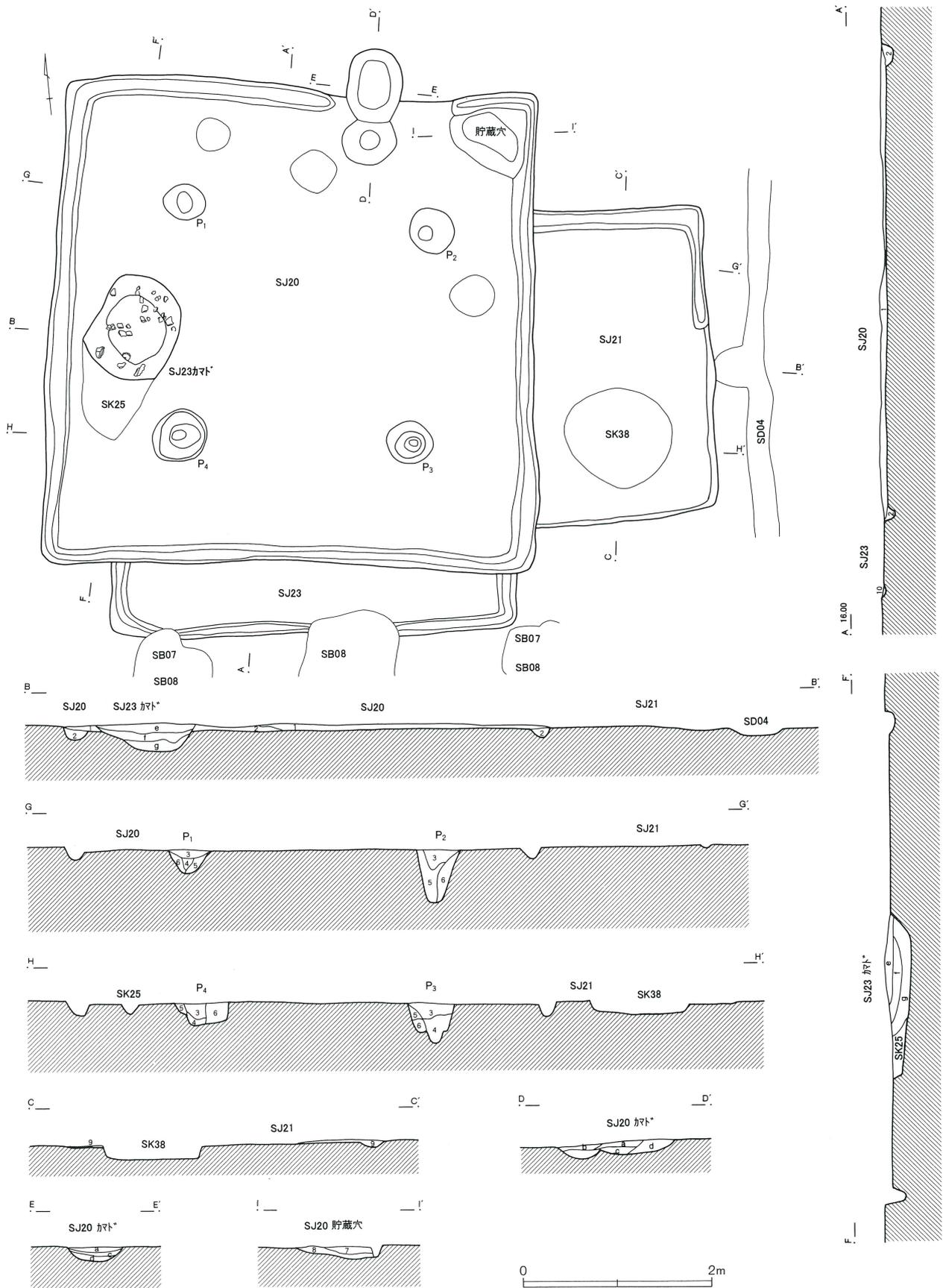
F区第20号住居跡出土遺物観察表（第90図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.3)	3.6	6.5	WB針	A	灰	40	No.1 南比企産 底部全面へラ 底部内面擦痕 転用碗
2	坏	(11.5)	(2.3)		BR	B	橙	10	

F区第23号住居跡出土遺物観察表（第91図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕	(19.0)	(6.4)		BR	B	橙	10	カマドNo.21
2	甕	(19.0)	(6.9)		BR	B	橙	10	カマドNo.18

第89図 F区第20・21・23号住居跡



第20・21・23号住居跡

第20号住居跡

- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒・炭化物粒少量

第20号住居跡柱穴

- 3 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量
- 4 黒褐色土 黄褐色土粒・炭化物・焼土少量
- 5 黒褐色土 黄褐色土粒多量 焼土粒少量
- 6 黒褐色土 黄褐色土粒多量 炭化物粒・焼土粒少量

第20号住居跡貯蔵穴

- 7 黒褐色土 黄褐色土粒・炭化物粒少量
- 8 黒褐色土 黄褐色土粒極多量

第20号住居跡カマド

- a 暗褐色土 焼土7°ブロック(10mm大)・炭化物粒少量 焼土粒・黄褐色土粒多量
- b 黒褐色土 黄褐色土粒極多量
- c 黒褐色土 黄褐色土粒極・焼土粒多量
- d 暗褐色土 黄褐色土粒極・焼土粒多量 炭化物粒少量

第21号住居跡

- 9 黒褐色土 黄褐色土粒極多量

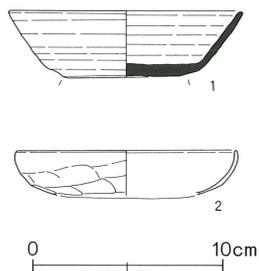
第23号住居跡

- 10 暗褐色土 黄褐色土粒多量

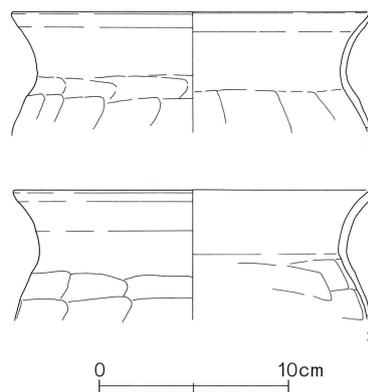
第23号住居跡カマド

- e 黒褐色土 焼土7°ブロック・焼土粒少量
- f 黒褐色土 焼土7°ブロック多量 炭化物粒少量
- g 極暗褐色土 黄褐色土粒多量 焼土粒少量

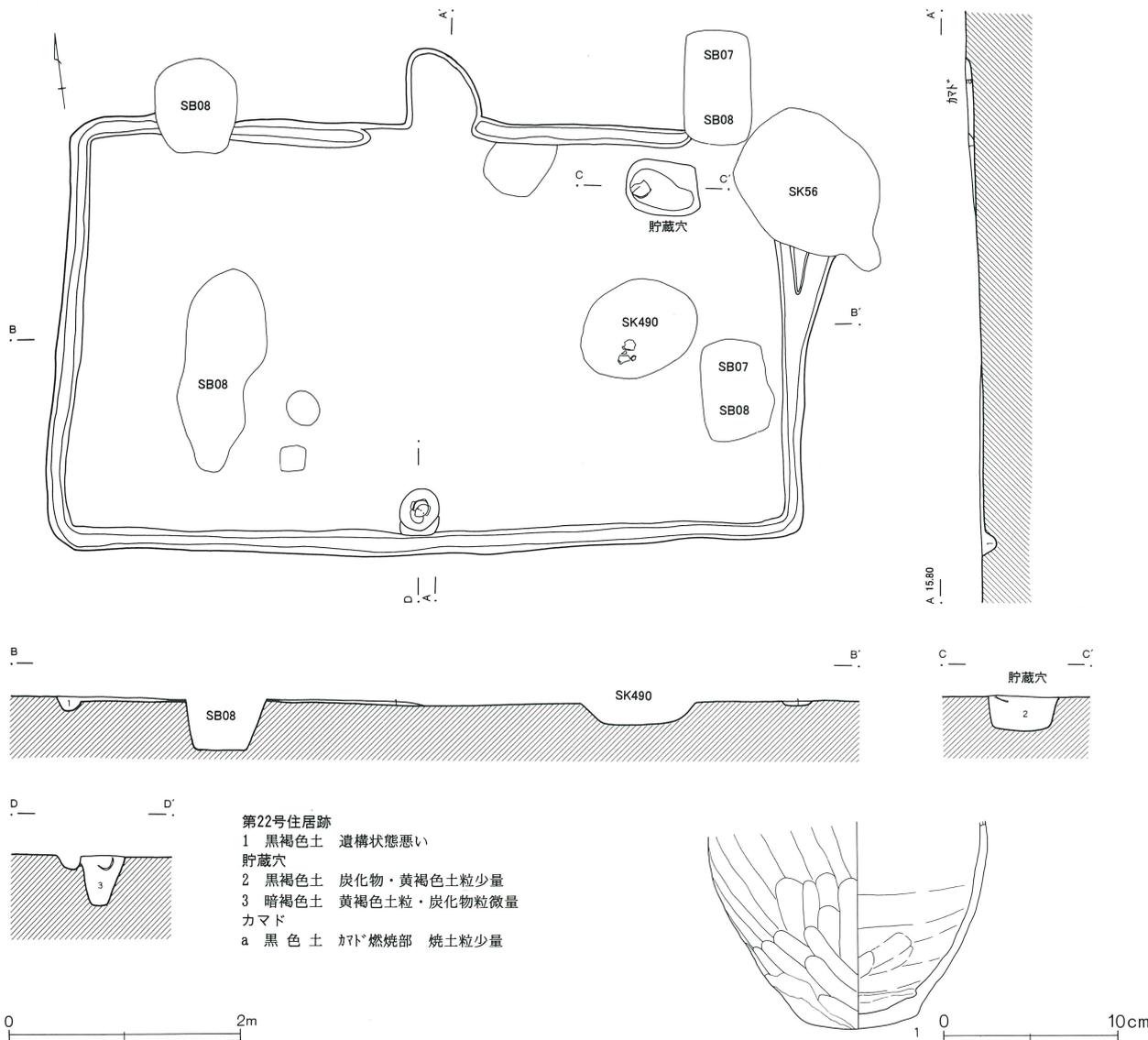
第90図 F区第20号住居跡出土遺物



第91図 F区第23号住居跡出土遺物



第92図 F区第22号住居跡・出土遺物



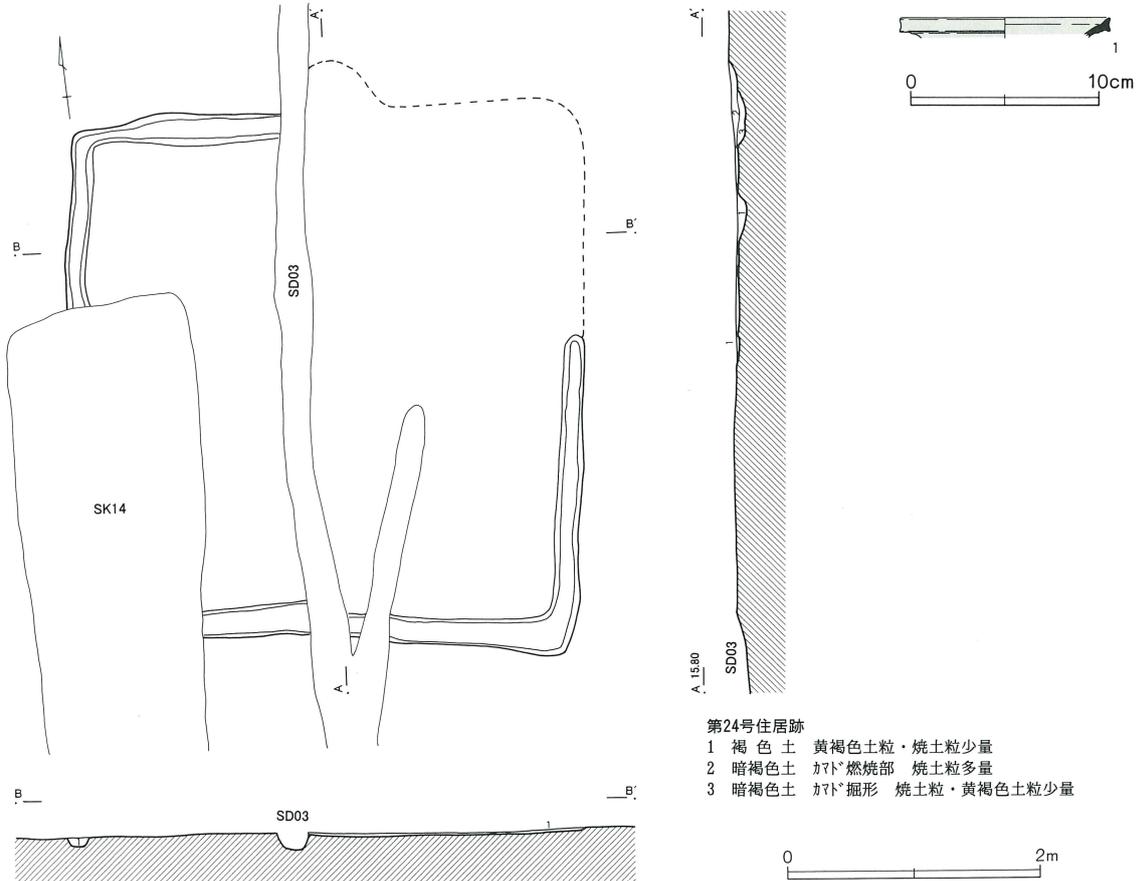
第22号住居跡

- 1 黒褐色土 遺構状態悪い
- 貯蔵穴
- 2 黒褐色土 炭化物・黄褐色土粒少量
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒・炭化物粒微量
- カマド
- a 黒色土 カマド燃焼部 焼土粒少量

F区第22号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕		(12.0)	6.4	WBR	C	にぶい黄褐	30	No. 1

第93図 F区第24号住居跡・出土遺物



- 第24号住居跡
- 1 褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量
 - 2 暗褐色土 カマド燃焼部 焼土粒多量
 - 3 暗褐色土 カマド掘形 焼土粒・黄褐色土粒少量

F区第24号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	長頸壺	(11.0)	(1.1)		針	B	灰	5	南比企産 自然釉付着

壁～南東コーナーに巡り、幅0.09～0.20m、深さ0.03mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第22号住居跡（第92・67図）

BH55・56グリッドに位置し、第7・8号掘立柱建物跡より古く、第56・490号土壇と重複する。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.74m×東西幅6.48m、主軸方位N-9°-Eを測る。遺構確認段階で既に床面が露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁中央に設置されている。燃焼部が住居外方に張り出し、天井部は検出されていない。壁溝は

北東コーナー部を除き全周し、幅0.14～0.24m、深さ0.09～0.12mほどである。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、規模が長径0.63m×短径0.47m×深さ0.30mの平面長方形である。カマド対面の南壁中央壁際に、長径0.37m×短径0.34m×深さ0.42mのピット状の施設も検出されている。

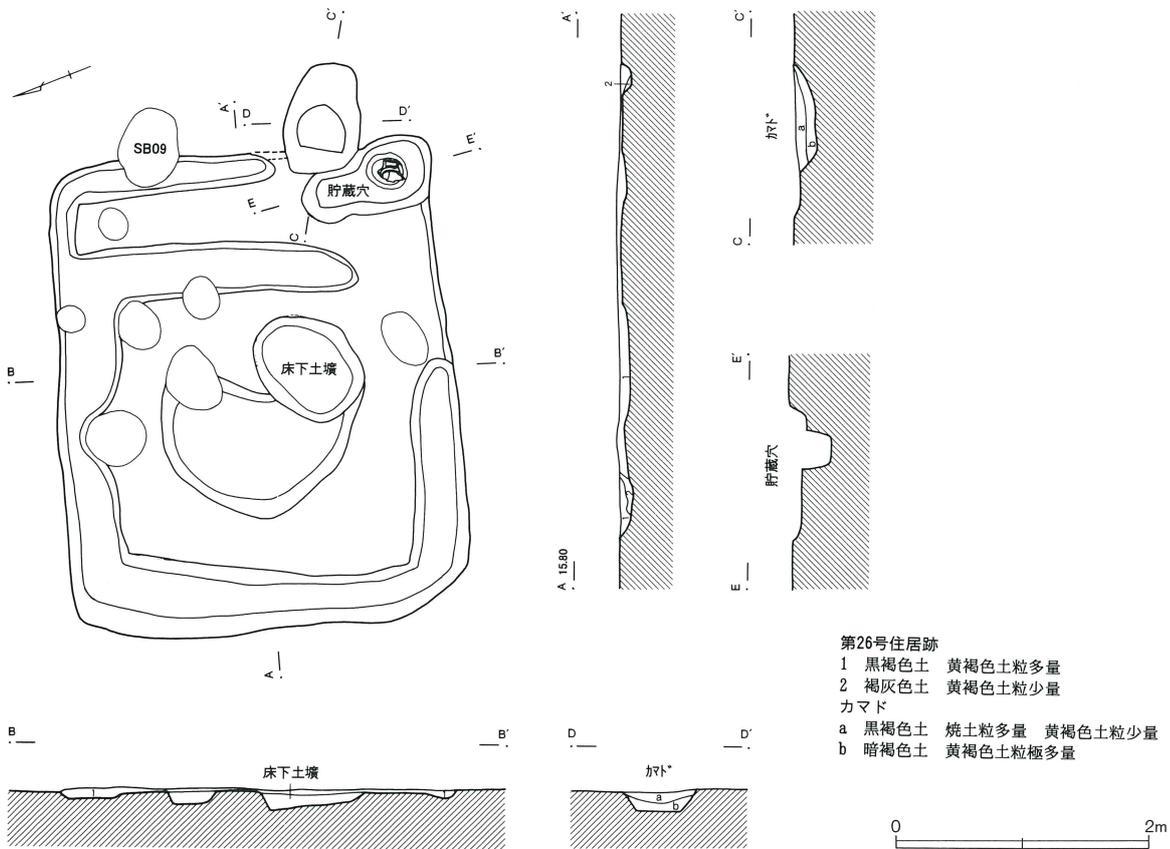
遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第24号住居跡（第93・67図）

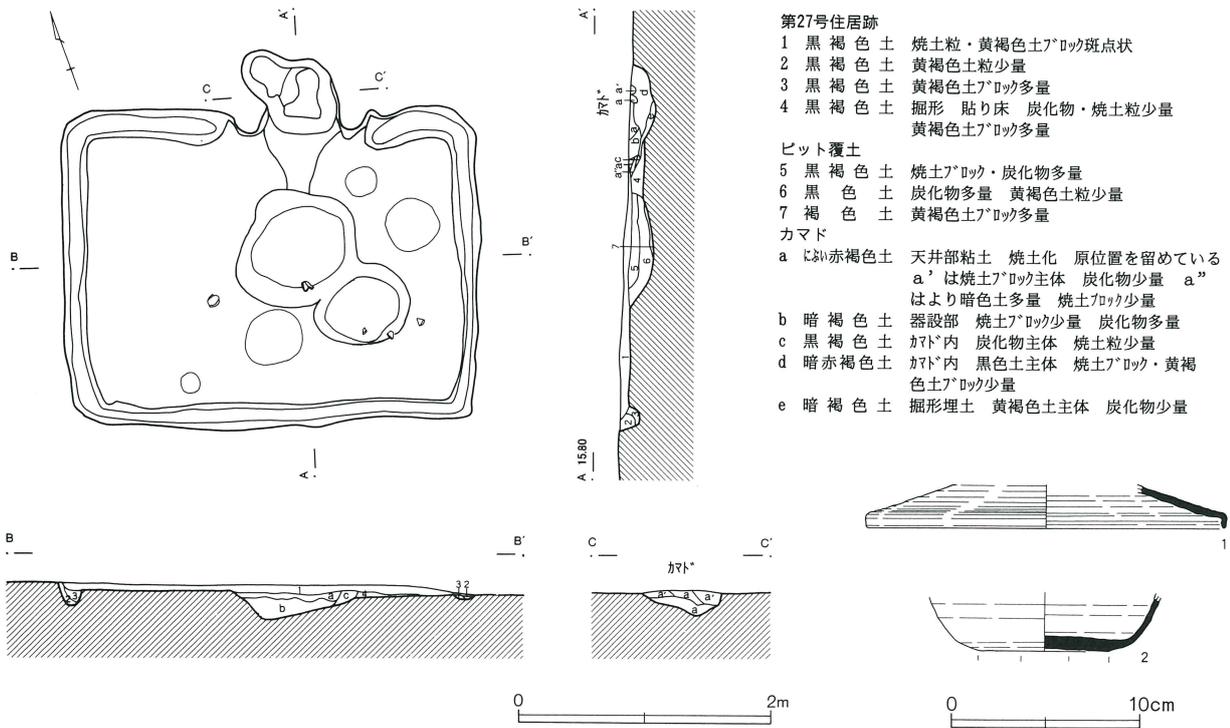
BH56・57グリッドに位置し、重複する第14号土壇、第3号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.14m×東西幅

第94図 F区第26号住居跡



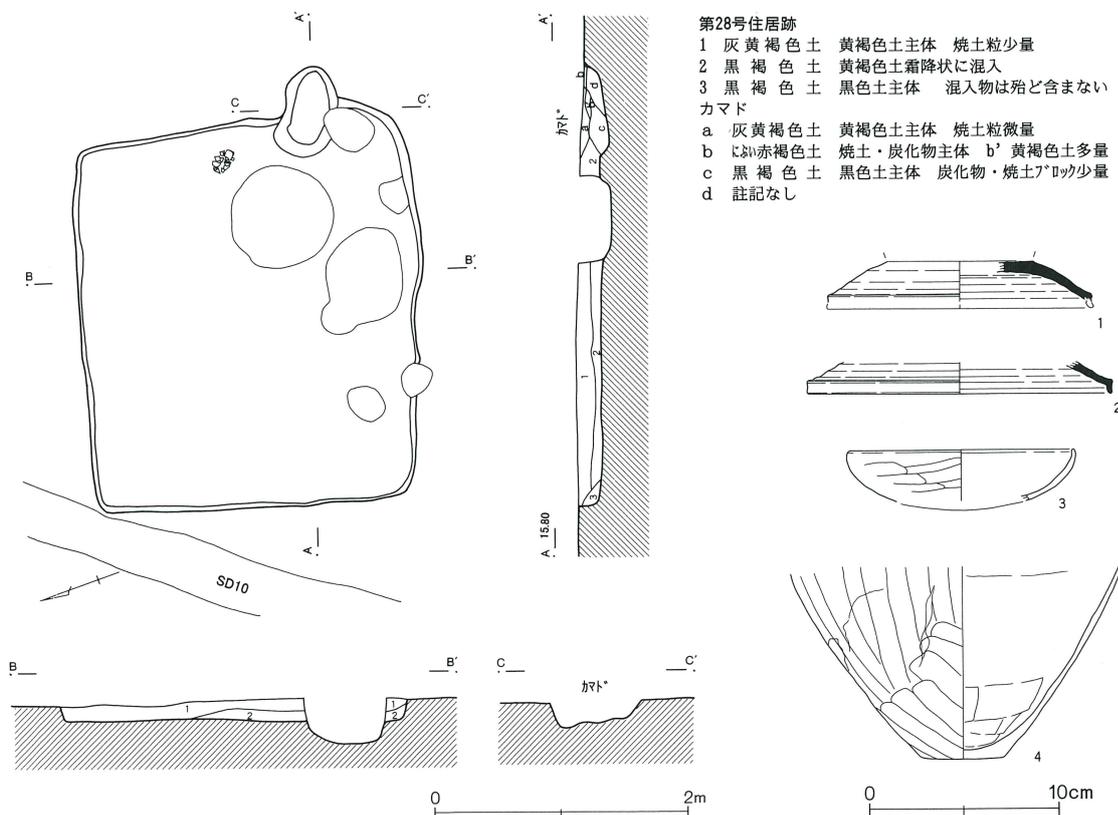
第95図 F区第27号住居跡・出土遺物



F区第27号住居跡出土遺物観察表（第95図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(18.7)	(2.3)		WB 針	A	灰	25	No. 1・2 南比企産
2	坏		(3.1)	6.9	WB 針	A	灰	30	No. 4・5 南比企産 底部周辺ヘラ 底部内面擦痕

第96図 F区第28号住居跡・出土遺物



F区第28号住居跡出土遺物観察表（第96図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(2.1)	(7.7)	WB 針	A	灰	10	南比企産
2	蓋	(15.9)	(1.7)		WB 針	A	灰	5	南比企産
3	坏	(11.8)	(2.7)		BR	B	橙	5	
4	甕		10.2	4.4	BR	B	橙	20	

4.10m、主軸方位N-4°-Eを測る。遺構確認段階には、床面の一部が残存するのみであった。

カマドは北壁中央に設置されているが、第3号溝跡に攪乱され、構造等は把握されていない。壁溝は北壁西半～西壁～南壁～東壁南半に巡り、幅0.14～0.26m、深さ0.08mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

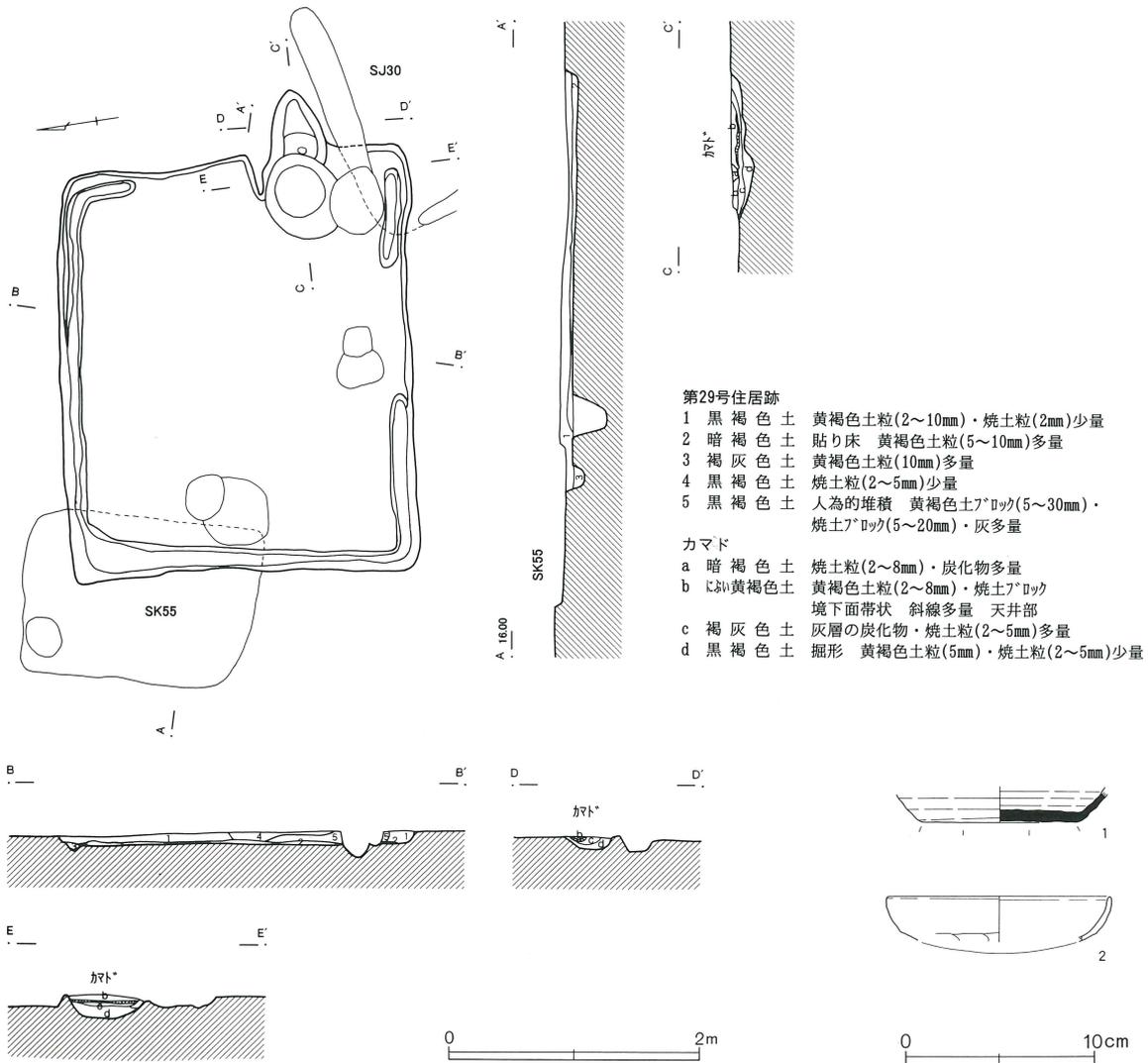
第26号住居跡（第94・65図）

BD55、BE55グリッドに位置し、重複する遺構は確認されていない。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.78m×南北幅3.16m、主軸方位N-107.5°-Eを測る。既に床面近くまで削平され、埋没状況は不明であるが、四辺に沿った溝状の掘形が確認された。

カマドは東壁南端に設置され、燃焼部の残欠のみで構造は明確ではない。柱穴は確認されていない。壁溝

第97図 F区第29号住居跡・出土遺物



F区第29号住居跡出土遺物観察表 (第97図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏		(1.9)	8.0	WB 針	A	灰	20	No.1 南比企産 底部周辺ヘラ 底部内面擦痕 SJ29・SK55
2	坏	(11.8)	(2.4)		WBR	B	橙	5	

は北東コーナー付近のみ検出されている。貯蔵穴は南東コーナーに付設され、長径1.10m×短径0.58m×深さ0.20~0.39mの平面不整形である。中央部には長径0.93m×短径0.76m×深さ0.21mの平面楕円形の床下土壌も認められる。

遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第27号住居跡 (第95・65図)

BD53・54グリッドに位置し、重複する遺構はない。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.53m×東西幅3.27m×深さ0.07m、主軸方位N-16°-Eを測る。覆

土の堆積状況は、自然堆積と思われる。

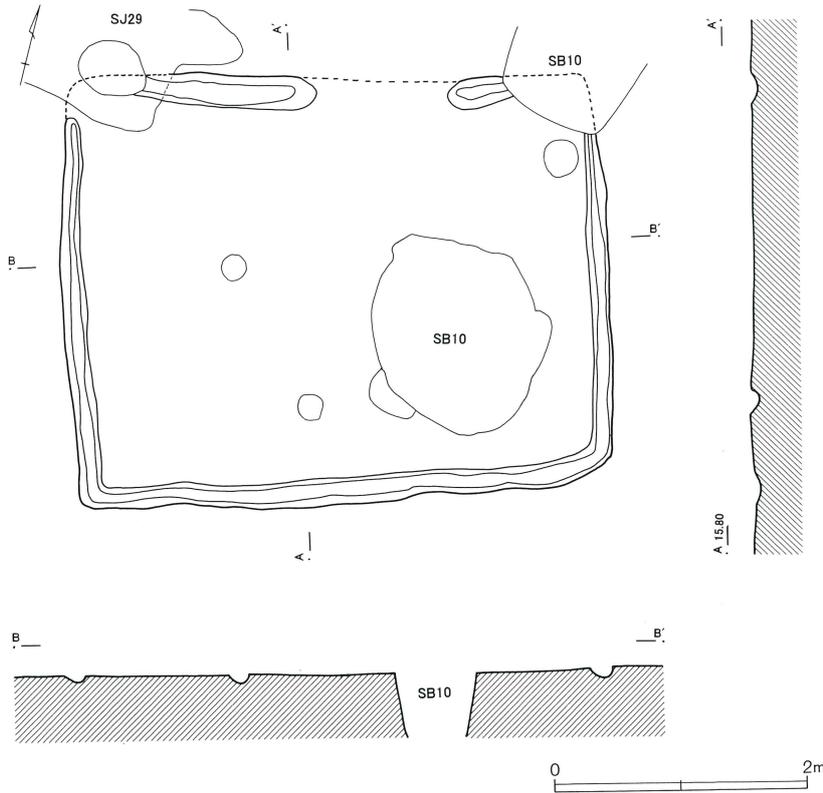
カマドは北壁中央に設置され、残存状態が比較的良好である。被熱による焼土化が著しいが、白色粘土によって構築され、器設部も確認されている。壁溝は全周し、幅0.09~0.27m、深さ0.18~0.26mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第28号住居跡 (第96・65図)

BD53グリッドに位置する。

第98図 F区第30号住居跡



平面形態は方形で、規模は主軸長3.08m×南北幅2.73m×深さ0.19m、主軸方位N-108°-Eを測る。覆土の堆積状況は、自然堆積と思われる。

カマドは東壁南よりに設置されている。灰黄褐色土によって構築され、燃焼部が住居外方に張り出している。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第29号住居跡 (第97・65図)

BE53グリッドに位置する。第30号住居跡と重複し、第55号土壌よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.31m×南北幅2.81m×深さ0.10m、主軸方位N-97.5°-Eを測る。埋没状況は自然堆積で、住居中央部には焼土ブロックが広がり、直下には灰層が認められている。

カマドは東壁南端に設置されている。南側の袖部は第30号住居跡と重複するため明確ではない。燃焼部は円形に掘り窪められ、煙道部は途中段を形成し、突端に至る。壁溝は東壁北東コーナー～北壁～西壁～南壁

に巡り、途中南壁中央部は途切れている。幅0.12～0.20m、深さ0.11～0.14mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第30号住居跡 (第98・65図)

BE53、BF53グリッドに位置する。第29号住居跡と重複し、第10号掘立柱建物跡よりも古い。

既に床面まで削平された壁溝のみの住居跡で、平面形態は長方形である。規模は南北長3.42m×東西長4.33m、南北軸方位N-18°-Wを測る。

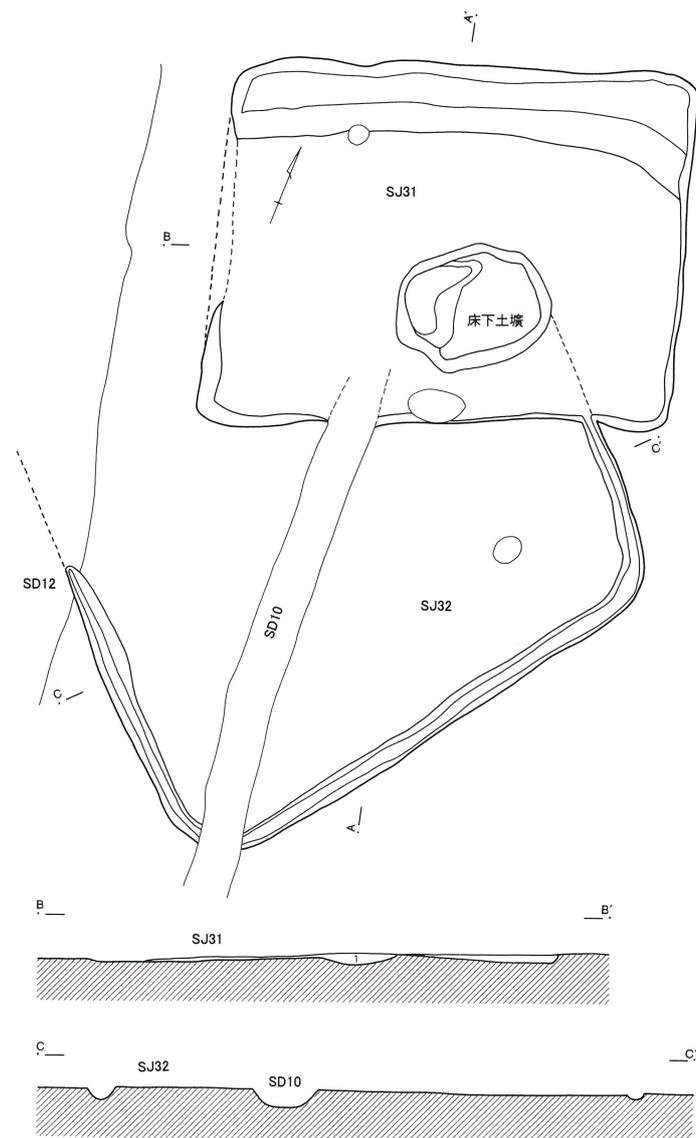
壁溝は北壁中央付近を除き全周し、幅0.12～0.22m、深さ0.04～0.09mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。カマドは壁溝が途切れる北壁中央に設置されていた可能性があるが、燃焼部の残欠等も検出されていない。

遺物は出土していない。

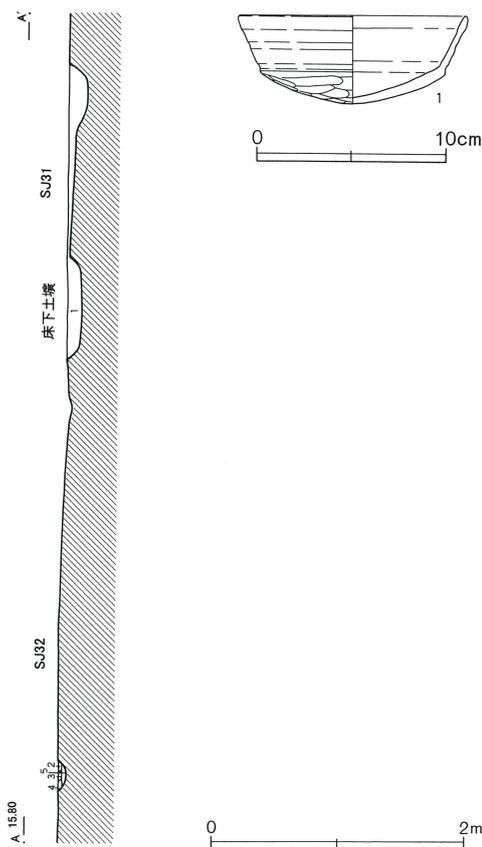
第31号住居跡 (第99・100・65図)

BF52・53、BG52グリッドに位置し、第32号住居跡、

第99図 F区第31・32号住居跡



第100図 F区第31号住居跡出土遺物



- 第31・32号住居跡
 第31号住居跡床下土壌
 1 黒褐色土 黄褐色土粒(3~8mm)多量 黄褐色土粒(10~20mm)微量
- 第32号住居跡
 2 灰黄褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)多量
 3 灰黄褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)多量
 4 褐灰色土 黄褐色土粒(5mm)若干
 5 褐灰色土 黄褐色土粒(2mm)若干

F区第31号住居跡出土遺物観察表 (第100図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	環	(11.8)	(4.7)		BR	B	黄橙	40	

第10号溝跡と重複する。

既に床面まで削平され、掘形のみが検出されている。平面形態は長方形で、規模は南北長2.84m×東西長3.73m、南北軸方位N-17°-Wを測る。

カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されていない。中央部には長径1.24m×短径0.94m×深さ0.10m、平面不整円形の床下土壌が付設されている。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第32号住居跡 (第99・65図)

BF52・53、BG52・53グリッドに位置し、第31号住居跡、第10・12号溝跡と重複する。

既に床面まで削平された住居跡で、わずかに残る覆土には多量の炭化物と少量の焼土ブロックが含まれている。壁溝のみが検出され、平面形態は方形である。規模は東西長5.40m、南北軸方位N-43.5°-Wを測る。

壁溝は西壁～南壁～東壁に巡り、幅0.11~0.24m、

深さ0.04~0.06mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は出土していない。

第33号住居跡 (第101・65図)

BG52グリッドに位置し、第10・12・14号溝跡と重複する。

既に床面まで削平されている住居跡で、壁溝のみが検出されている。平面形態は方形で、規模は南北長2.27m、南北軸方位N-9°-Wを測る。

壁溝は北壁~東壁~南壁に巡り、幅0.18~0.26m、深さ0.10~0.12mほどである。北東コーナー付近の覆土には、炭化物・焼土ブロックが少量含まれている。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得ないが、土師器坏片が出土している。

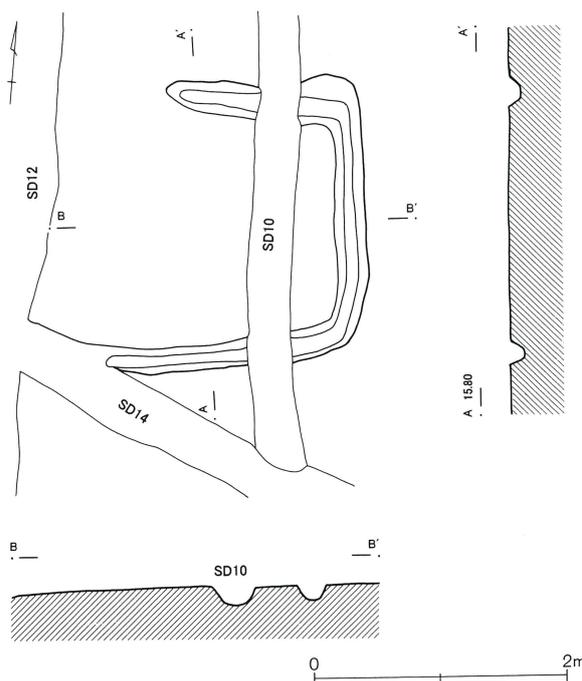
第34号住居跡 (第102・66図)

BH53グリッドに位置する。第59・60号土壌、第10号溝跡と重複し、第35号住居跡より新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.52m×東西幅3.21m×深さ0.09m、主軸方位N-10°-Wを測る。南東コーナー付近には貼床が施され、埋没状況は自然堆積である。東半の覆土上層には焼土ブロックが多量に含まれ、北東コーナー付近では床面直上にも焼土ブロックが堆積している。

カマドは北壁中央に設置されている。袖部は地山を掘り残し、燃烧部は円形に掘り込まれている。壁溝はカマド部を除く北壁~東壁~南壁に巡り、南東コーナーで途切れている。幅0.18~0.24m、深さ0.14mほ

第101図 F区第33号住居跡



どである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。また1の須恵器佐波理模倣碗蓋は口辺部が打ち欠かれ、転用硯として用いられている。

第35号住居跡 (第102・104・66図)

BH52・53グリッドに位置する。第96号土壌、第26号井戸跡、第20号溝跡と重複し、第34号住居跡、第2号茶毘跡よりも古い。

平面形態は方形である。既に南半部が削平され、規模は主軸長(4.04)m、主軸方位N-103°-Eを測る。

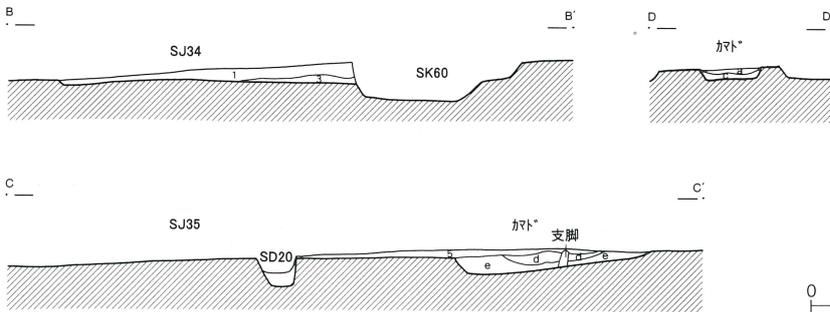
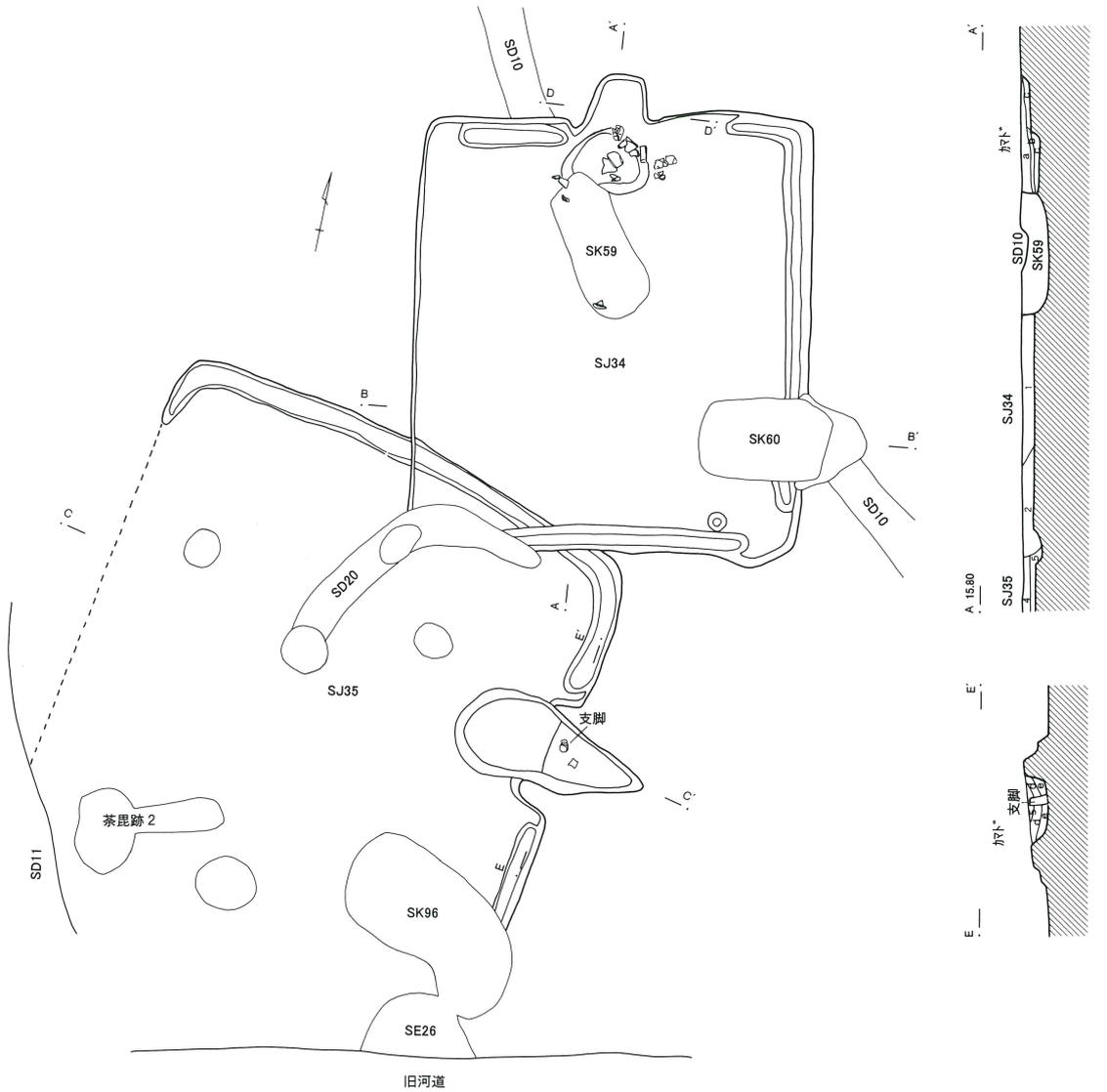
F区第34号住居跡出土遺物観察表 (第103図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	佐波利碗蓋		(3.5)		WB 針	B	灰	70	No.16 南比企産 転用硯 重ね焼きの痕跡
2	蓋	(17.7)	(2.0)		WB 針	A	灰	10	南比企産
3	蓋	(18.9)	(1.7)		WB 針	A	灰	5	南比企産
4	蓋	(18.8)	(2.0)		WB 針	A	灰	5	南比企産
5	坏	(12.0)	(2.9)		WB 針	A	灰黄	5	南比企産
6	坏	(13.0)	(3.3)		WB	B	灰黄	5	南比企産
7	甕	(19.4)	(3.0)		BR	B	橙	5	
8	甕	(19.8)	(11.8)		WB	B	にぶい橙	15	No.10・11
9	甕	(19.8)	(6.6)		WB	B	橙	5	カマド
10	甕	(20.6)	(8.2)		WR	B	橙	10	No.7・8

F区第35号住居跡出土遺物観察表 (第104図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.8)	(3.0)		BR	B	橙	5	

第102図 F区第34・35号住居跡



第34・35号住居跡

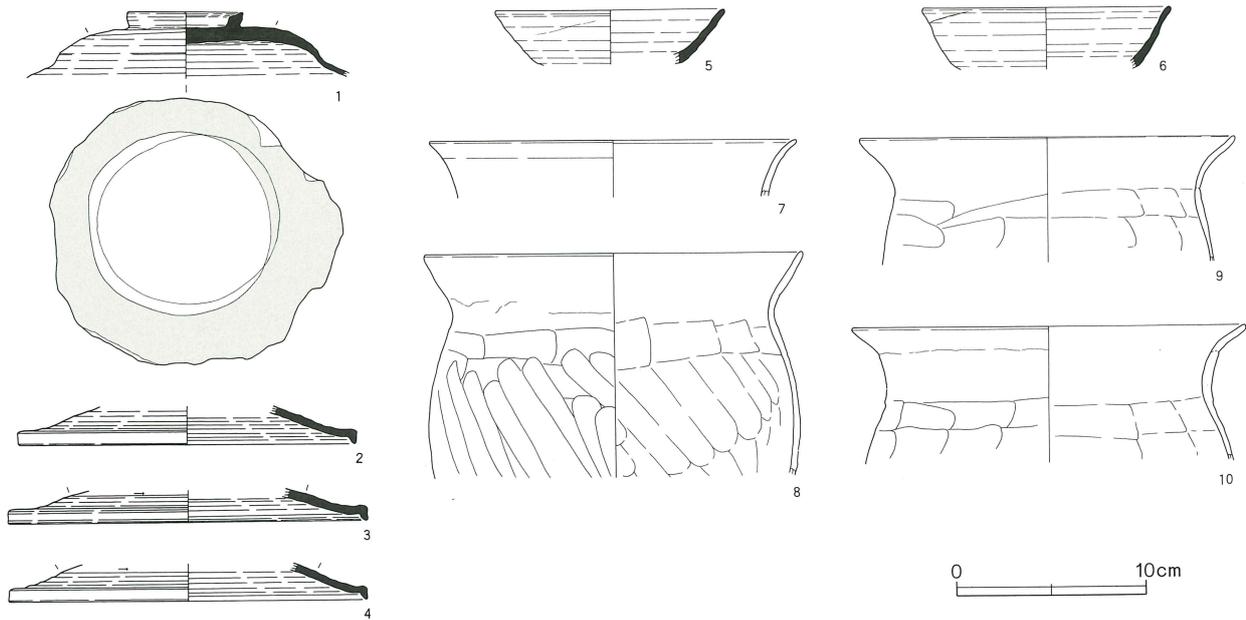
第34号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(2mm)・炭化物粒(2~5mm)若干
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)・焼土粒(2~8mm)少量
- 3 灰黄褐色土 貼り床 黄褐色土粒・黄褐色土7°口(5~10mm)多量
- 第34号住居跡カマド
- a 黒褐色土 黄褐色土粒(2mm)多量 焼土粒・炭化物粒(3~5mm)若干
- b 黒褐色土 炭化物粒・焼土粒(2~5mm)多量 灰若干
- c 灰黄褐色土 掘形 黄褐色土粒(2~8mm)多量

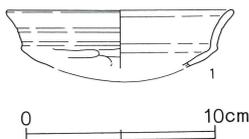
第35号住居跡

- 4 暗褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)少量
- 5 暗褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)多量 炭化物粒(2mm)若干
- 第35号住居跡カマド
- d 暗褐色土 焼土7°口(5~25mm)多量 炭化物粒(2~5mm)少量 灰混入
- e 黒褐色土 掘形 黄褐色土粒(2~5mm)少量

第103図 F区第34号住居跡出土遺物



第104図 F区第35号住居跡出土遺物



カマドは東壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部には支脚が据えられている。壁溝は北壁～東壁に検出され、幅0.14～0.21m、深さ0.15mほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第36号住居跡 (第105・65図)

BF54、BG54グリッドに位置し、第63・64・67・72・75号土壇と重複する。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.57m×幅4.54m×深さ0.08m、主軸方位N-1°-Eを測る。

カマドは北壁中央に設置され、地山を掘り残した袖部がわずかに残存している。燃焼部には多量の焼土・炭化物が堆積している。壁溝は北壁北東コーナー～東壁に巡り、幅0.18～0.34m、深さ0.11mほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第37号住居跡 (第106・65図)

BG55、BH55グリッドに位置し、第74号土壇、第21号井戸跡と重複する。

既に床面付近まで削平され、覆土がわずかに確認されているにすぎない。平面形態は方形で、規模は南北長3.26m×東西長3.44m、南北軸方位N-7°-Wを測る。埋没状況は明確ではないが、覆土には若干の灰色土粒子とブロック状の褐色土が含まれている。

カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。遺物は出土していない。

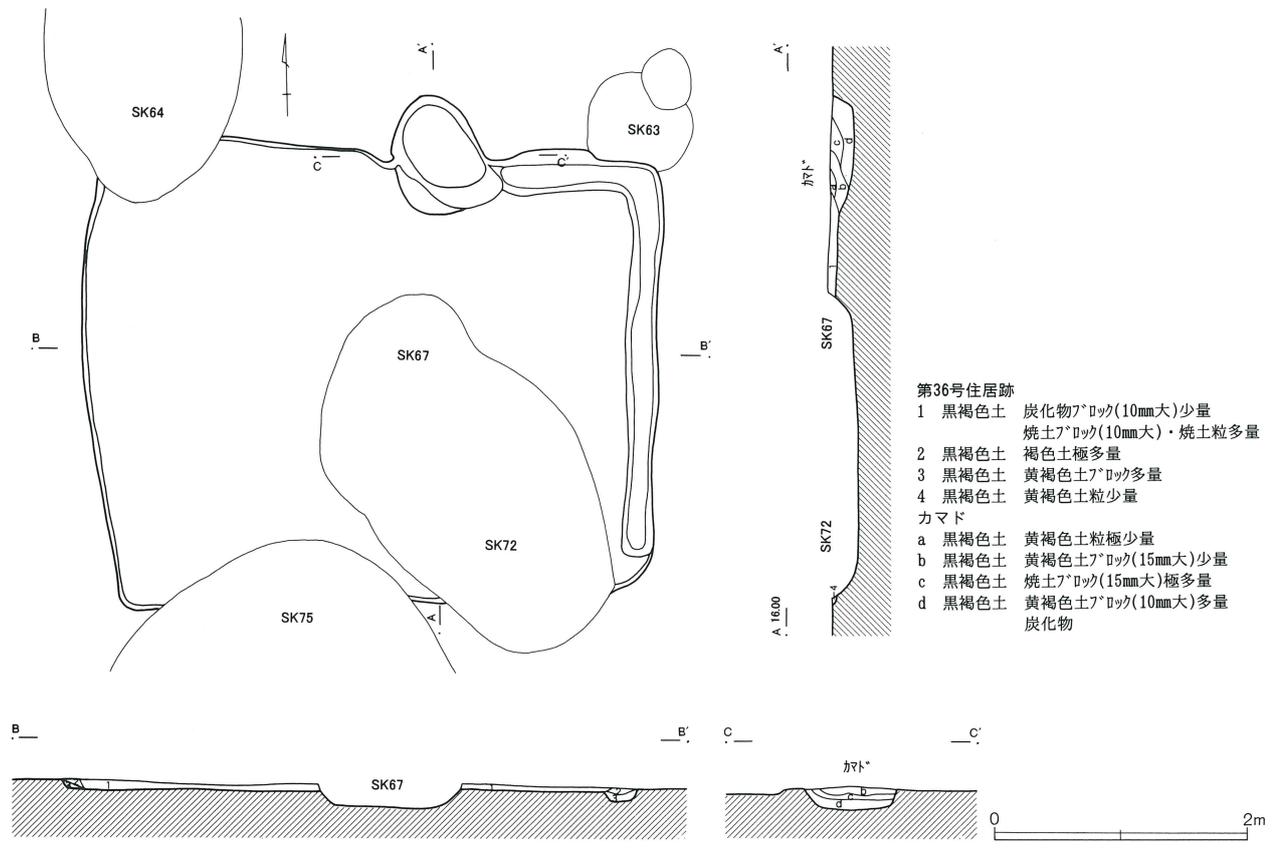
第38号住居跡 (第107・108・65図)

BE54グリッドに位置し、第39号住居跡、第10号掘立柱建物跡、第69号土壇、第19・44号井戸跡と重複する。

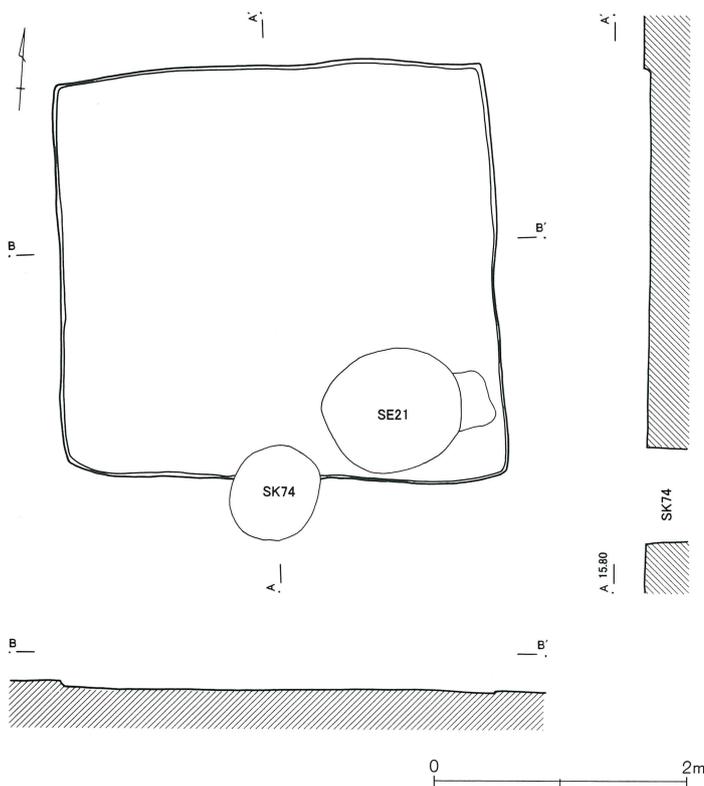
平面形態は長方形で、規模は主軸長3.27m×幅4.98m×深さ0.20m、主軸方位N-9°-Eを測る。埋没状況は自然堆積で、床面には貼床が施されている。

カマドは北壁中央東よりに設置され、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部には炭化物・焼土が堆積し、崩落した天井部には被熱による焼土化もみられる。壁溝は東壁～南壁に巡り、カマド対面部は途切れている。幅0.19～0.24m、深さ0.18mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

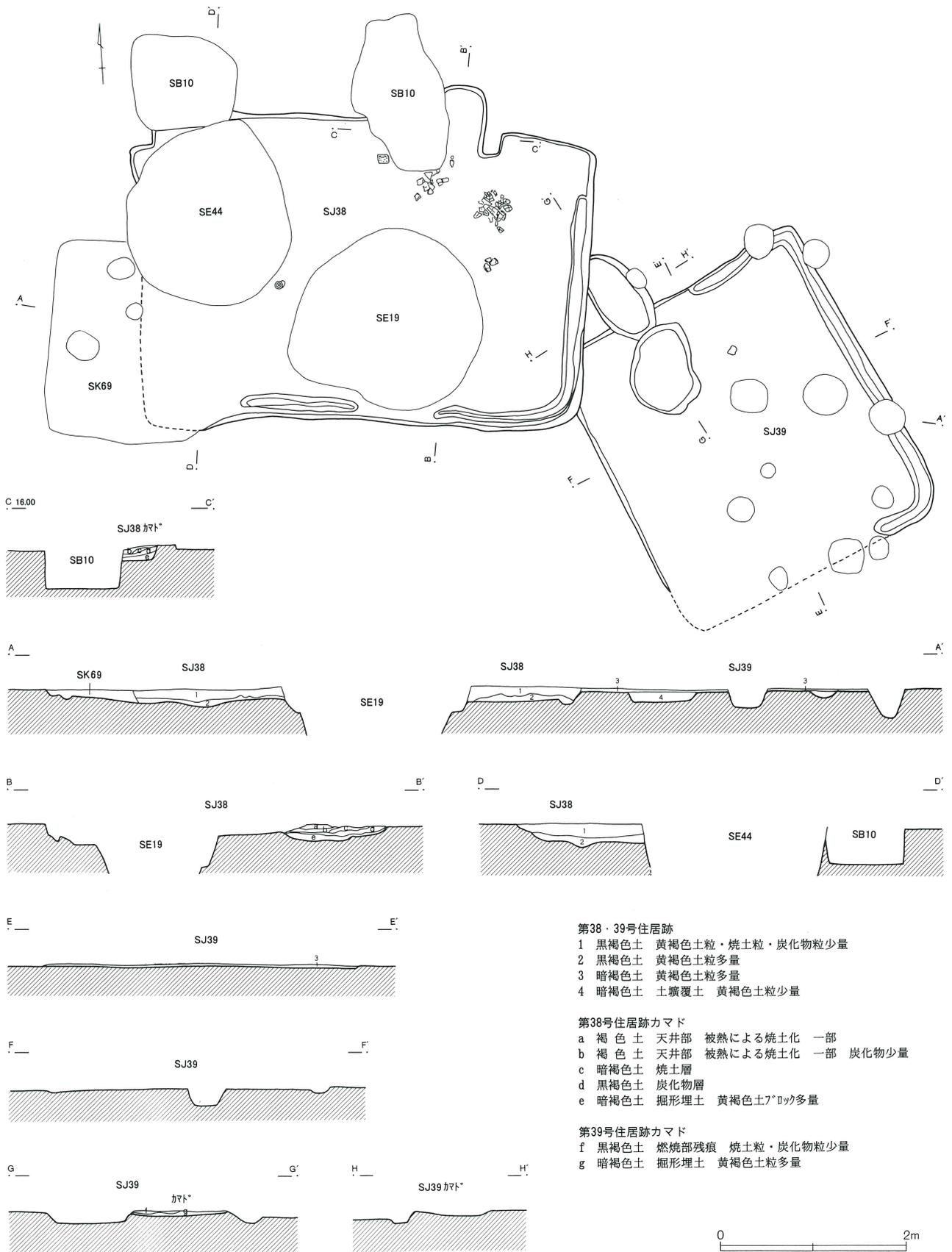
第105図 F区第36号住居跡



第106図 F区第37号住居跡



第107図 F区第38・39号住居跡



第38・39号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒少量
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒多量
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒多量
- 4 暗褐色土 土壌覆土 黄褐色土粒少量

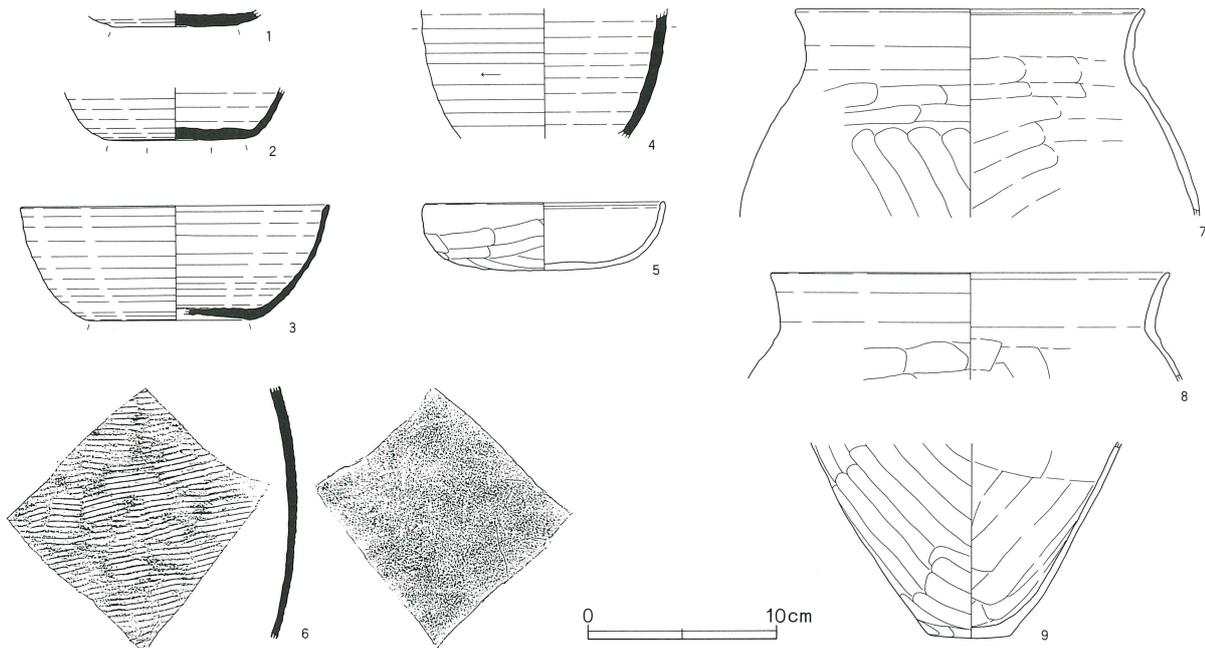
第38号住居跡カマド

- a 褐色土 天井部 被熱による焼土化 一部
- b 褐色土 天井部 被熱による焼土化 一部 炭化物少量
- c 暗褐色土 焼土層
- d 黒褐色土 炭化物層
- e 暗褐色土 掘形埋土 黄褐色土⁷ノック多量

第39号住居跡カマド

- f 黒褐色土 燃焼部残痕 焼土粒・炭化物粒少量
- g 暗褐色土 掘形埋土 黄褐色土粒多量

第108図 F区第38号住居跡出土遺物



F区第38号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏		(0.9)	(6.6)	WB 針	B	灰白	10	カマド 南比企産 底部全面ヘラ
2	坏		(2.8)	7.2	WB 針	A	灰	25	No.9 南比企産 底部周辺ヘラ
3	椀	(16.0)	6.0	(8.7)	W針	B	灰	40	No.1 南比企産 底部全面ヘラ
4	長頸壺		(6.9)		WB	A	黄灰	5	産地不明
5	坏	12.6	3.6		BR	B	橙	90	
6	甕				WB	A	灰		No.8 南比企産
7	甕	(18.2)	(11.1)		BR	B	橙	20	No.5
8	甕	(20.8)	(5.7)		BR	B	橙	5	カマド
9	甕		(10.3)	4.2	BR	B	橙	30	No.4・6

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第39号住居跡（第107・65図）

BE54、BF54・55グリッドに位置し、第38号住居跡と重複する。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.42m×幅3.04m、主軸方位N-27.5°-Wを測る。埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁中央西よりに設置され、燃焼部が確認されている。壁溝は北壁中央～東壁～南壁南東コーナーに巡り、幅0.14～0.21m、深さ0.05mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は出土していない。

第40号住居跡（第109・110・65・66図）

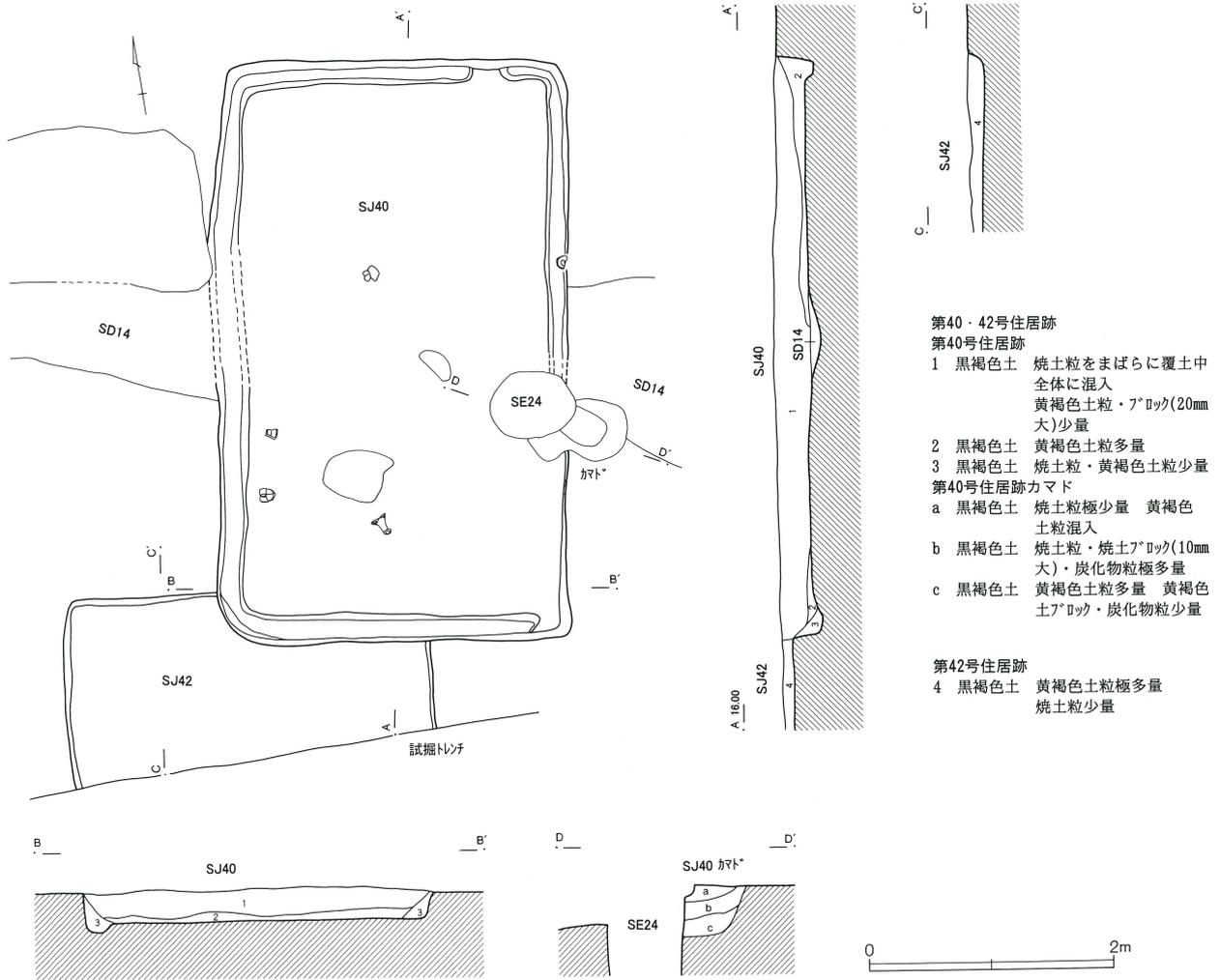
BG54、BH54グリッドに位置し、重複する第42号住居跡、第24号井戸跡より古く、第14号溝跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.84m×南北長4.76m×深さ0.30m、主軸方位N-101.5°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

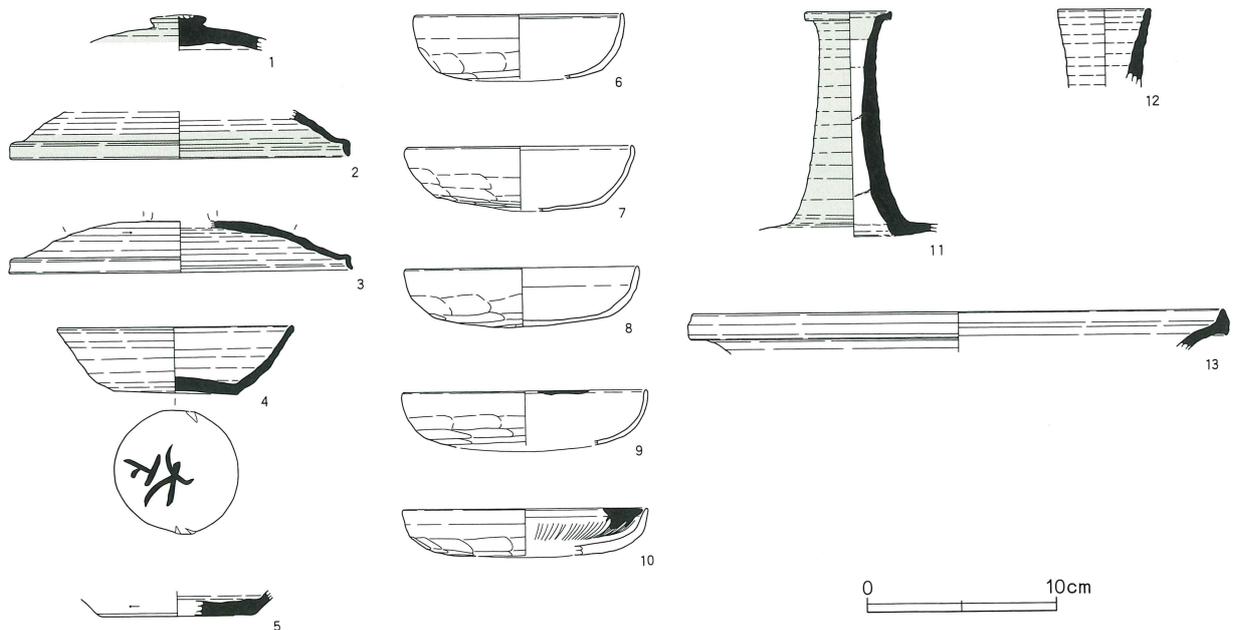
カマドは東壁中央南よりに設置されているが、重複する第24号井戸跡に攪乱されている。壁溝は東壁南半部を除き全周し、北壁北東コーナー付近で一端途切れている。幅0.15～0.24m、深さ0.31～0.33mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・長頸壺・蓋・坏片、土師器甕・坏片、鉄滓が出土している。

第109図 F区第40・42号住居跡



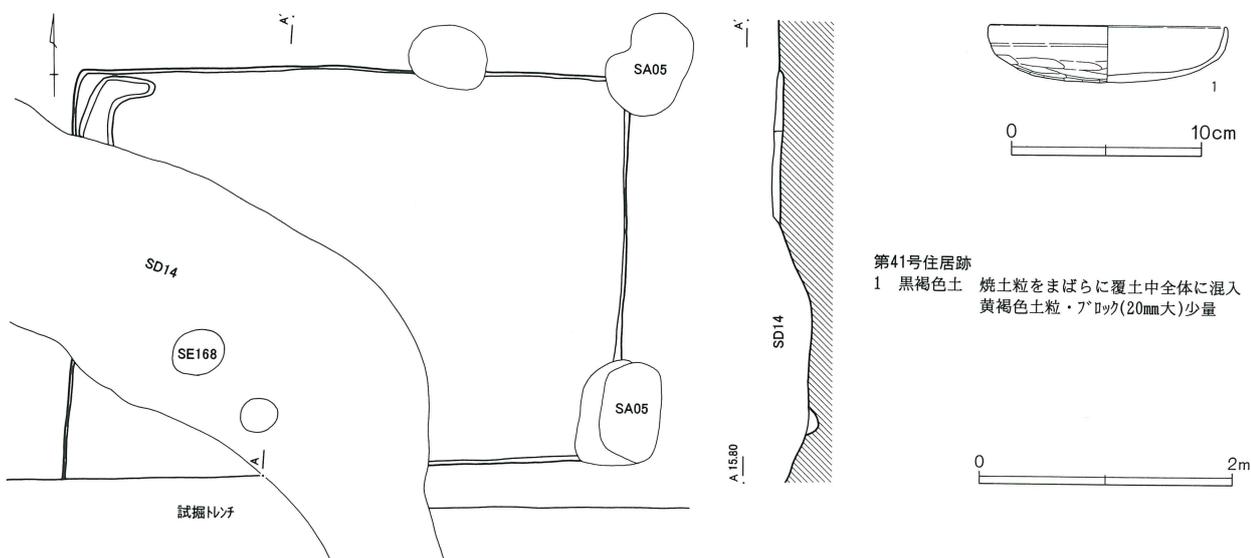
第110図 F区第40号住居跡出土遺物



F区第40号住居跡出土遺物観察表（第110図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.8)		WB	A	灰白	5	湖西産 自然釉付着 内面擦痕
2	蓋	(17.8)	(2.5)		WB 針	A	灰	5	南比企産 自然釉付着
3	蓋	(18.0)	(2.7)		WB 針	A	灰	10	No. 4 南比企産
4	坏	12.4	3.6	6.6	WBR 針	A	灰	75	No. 1 南比企産 底部糸切離し 墨書「大下」
5	坏		(1.3)	(8.0)	WBR	A	灰白	5	南比企産? 底部内面擦痕 転用硯
6	坏	(11.0)	(3.4)		BR	B	橙	20	No. 1
7	坏	12.0	(3.4)		BR	B	橙	50	No. 5
8	坏	12.4	3.2		BR	B	橙	85	No. 2
9	坏	(12.8)	(2.9)		BR	B	橙	30	油煙の付着
10	坏	(12.8)	(2.5)		B	B	橙	30	油煙の付着
11	長頸壺	4.4	(11.8)		WB 針	B	灰	100	No. 3 南比企産 自然釉付着
12	長頸壺	(4.8)	(4.1)		WB	A	灰白		湖西産?
13	甕	(27.8)	(2.2)		WB 針	A	灰		No. 1 南比企産

第111図 F区第41号住居跡・出土遺物



F区第41号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	12.4	3.0		BR	B	橙	80	No. 2

第42号住居跡（第109・66図）

BH54グリッドに位置し、重複する第40号住居跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、南半部が遺構所在確認のための試掘トレンチによって削平されている。規模は東西長3.00m×深さ0.14m、南北軸方位N-9°-Eを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されたものと思われる。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得ないが、須恵器坏、土師器甕・坏片が出土している。

第41号住居跡（第111・66図）

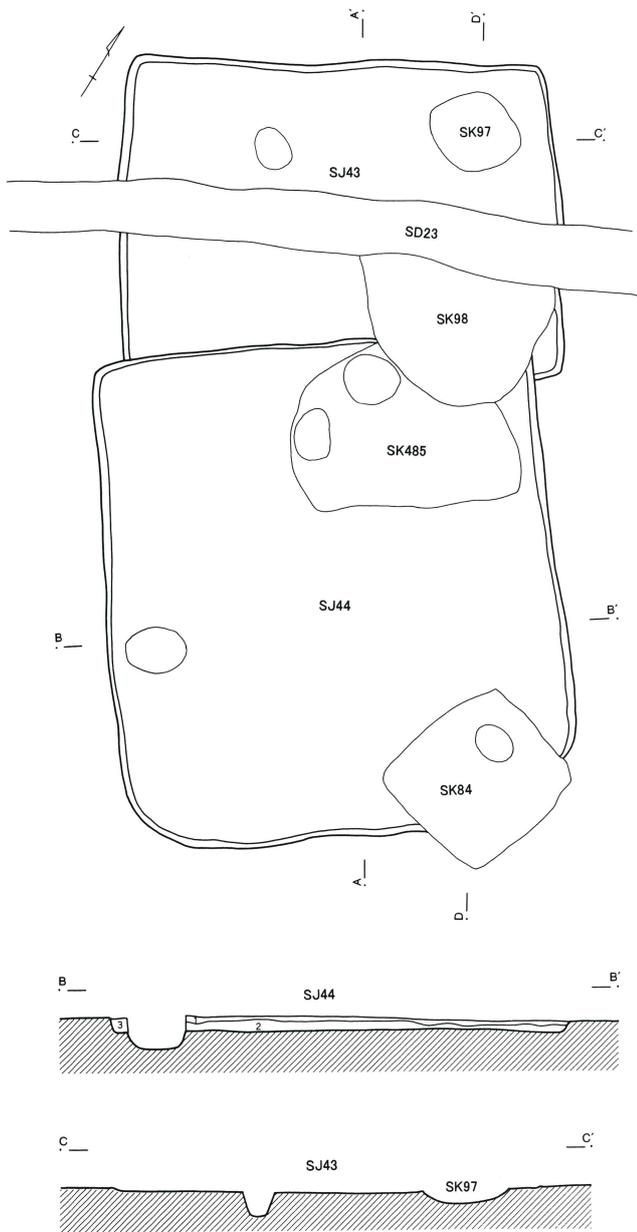
BH54・55グリッドに位置する。第5号柵列跡、第168号井戸跡と重複し、第14号溝跡より新しい。

平面形態は長方形であるが、南半部が遺構所在確認のための試掘トレンチによって削平されている。規模は東西長4.40m×深さ0.07m、南北軸方位N-4°-Eを測る。埋没状況は明確ではない。

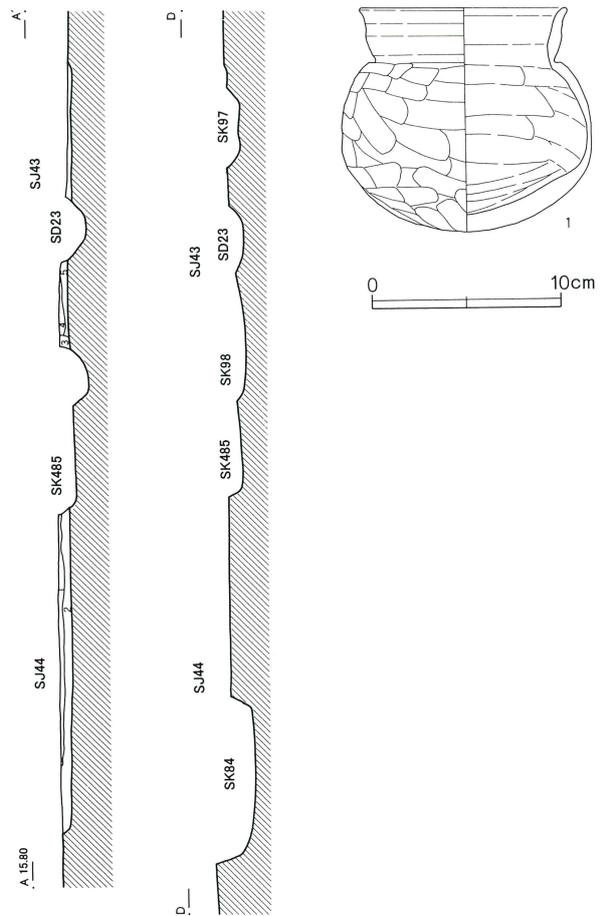
壁溝は北西コーナーで確認され、幅0.22~0.24mほどである。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第112図 F区第43・44号住居跡



第113図 F区第44号住居跡出土遺物



第43・44号住居跡

第44号住居跡

- 1 褐灰色土 黄褐色土粒多量 黄褐色土7°口ツク(10mm大)少量
- 2 黒褐色土 黄褐色土7°口ツク(10mm大)・黄褐色土粒極多量
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒微量

第43号住居跡

- 4 褐灰色土 黄褐色土7°口ツク(10mm大)・焼土粒少量
- 5 褐灰色土 黄褐色土粒多量
- 6 褐灰色土 焼土粒・黄褐色土7°口ツク(10mm大)少量

0 2m

F区第44号住居跡出土遺物観察表 (第113図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	小型壺	10.7	11.9		BR	B	にぶい黄褐	60	No.2・3

第43号住居跡 (第112・62図)

BD50・51グリッドに位置する。第97・98・485号土壇と重複し、第44号住居跡、第23号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長2.48m×東西長3.45m×深さ0.06m、主軸方位N-32°-Wを測る。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

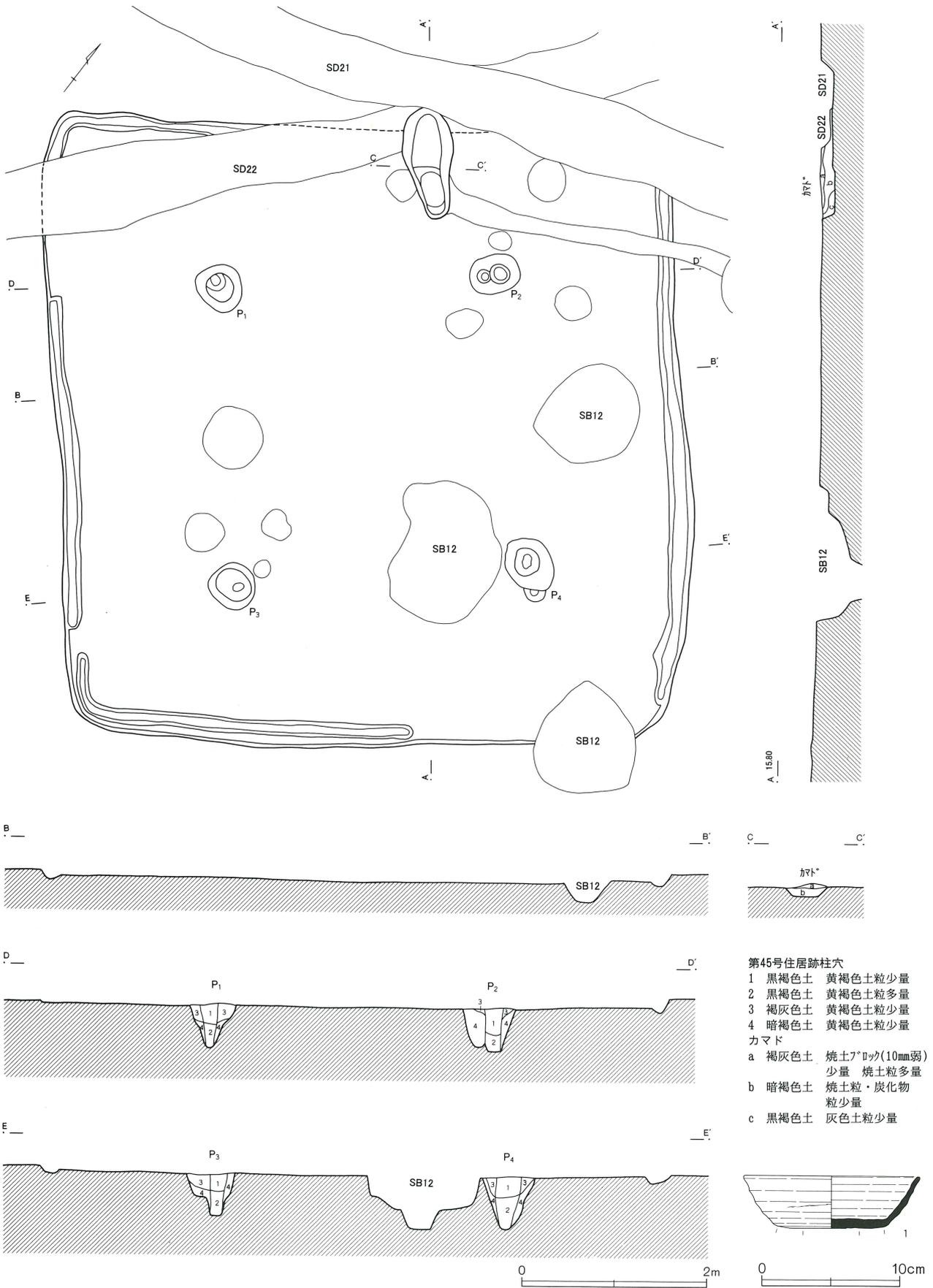
遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第44号住居跡 (第112・113・62図)

BD50・51、BE50・51グリッドに位置し、第98・485号土壇と重複する。第43号住居跡より新しく、第84号土壇より古い。

平面形態は方形で、規模は南北長3.88m×東西長3.58m×深さ0.12m、南北軸方位N-32°-Wを測る。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

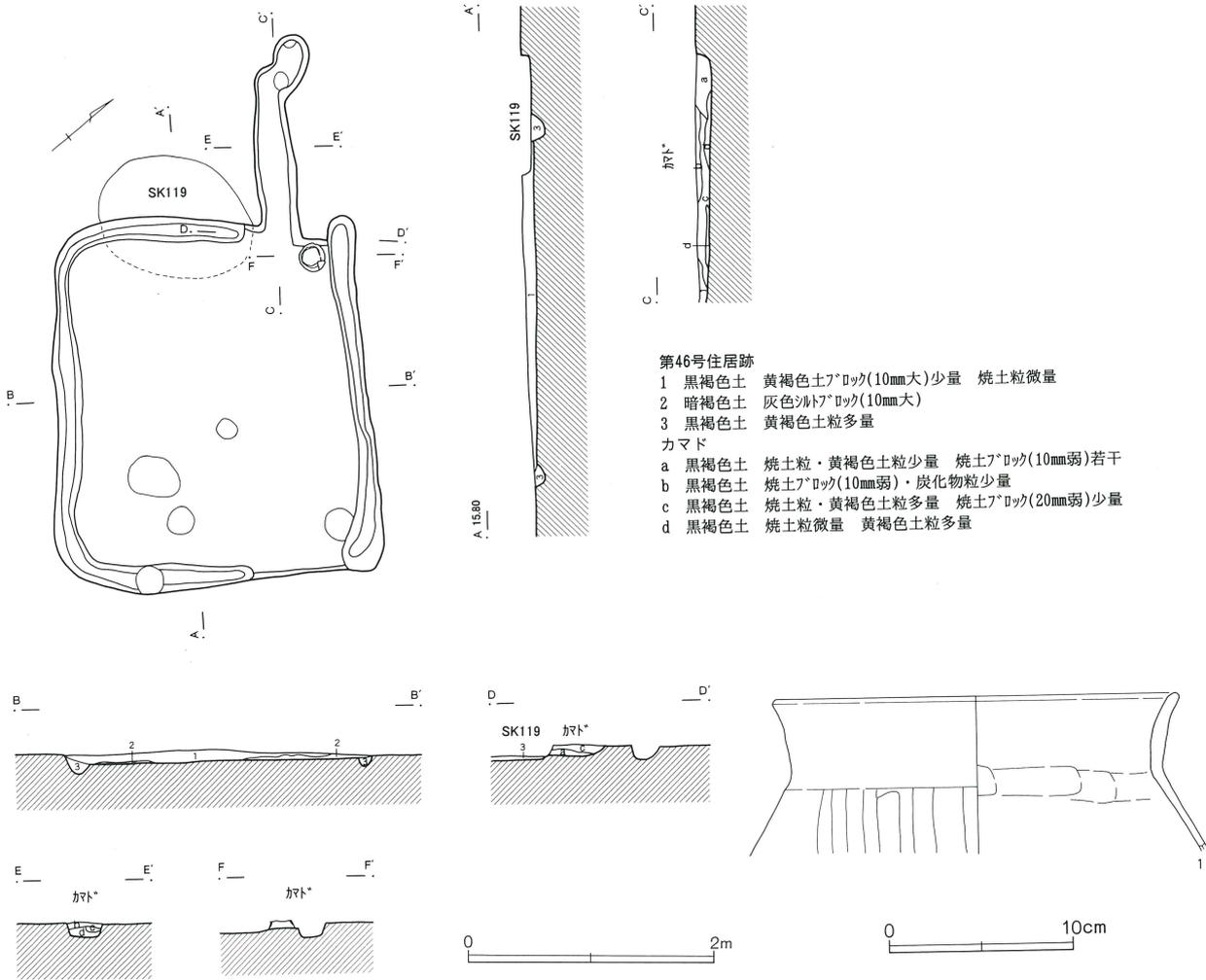
第114図 F区第45号住居跡・出土遺物



F区第45号住居跡出土遺物観察表（第114図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.6)	3.8	(7.6)	WBR 針	B	灰	50	南比企産 底部周辺へラ 下半分にいび橙

第115図 F区第46号住居跡・出土遺物



F区第46号住居跡出土遺物観察表（第115図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕	21.6	(8.6)		WBR	B	橙	15	No.1

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第45号住居跡（第114・62図）

BC50・51、BD50・51グリッドに位置し、重複する第12号掘立柱建物跡、第21・22号溝跡よりも古い。

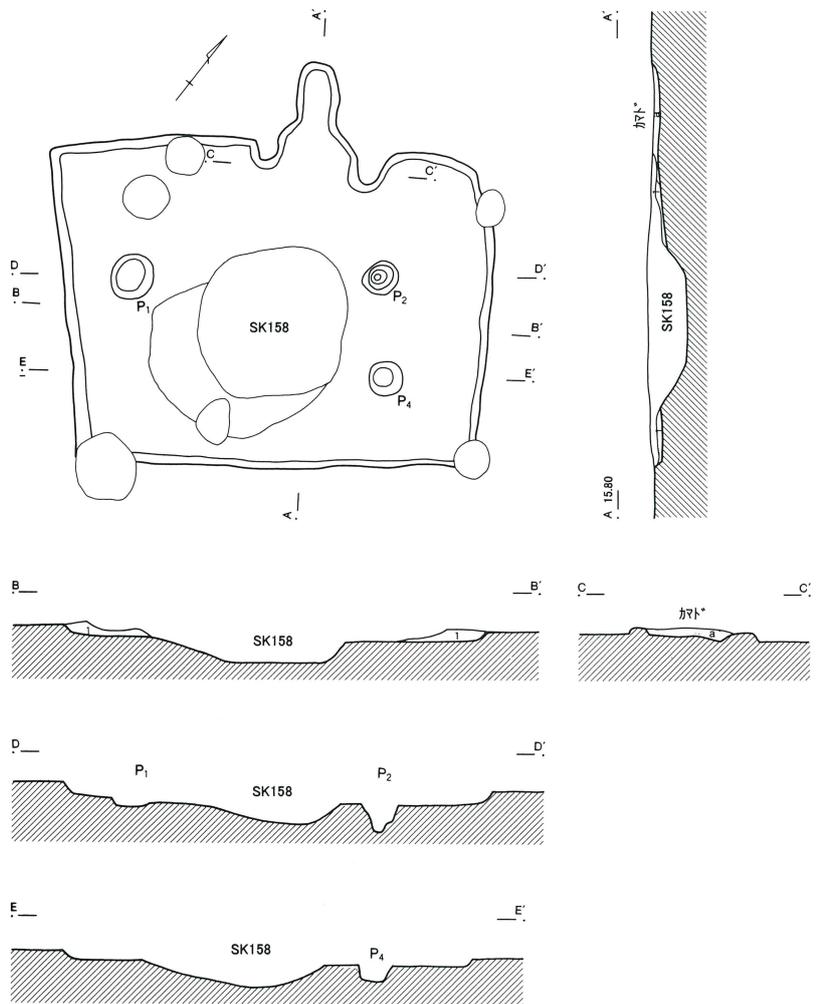
平面形態は方形で、規模は主軸長6.74m×東西幅6.82m、主軸方位N-37.5°-Wを測る。遺構確認段階には既に床面が露呈しており、埋没状況は明確ではな

い。

カマドは北壁中央東よりに設置され、燃焼部のみが検出されている。柱穴は4本で、柱痕が認められる。壁溝はコーナー付近で途切れながらほぼ全周し、幅0.14~0.26m、深さ0.08~0.14mほどである。貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第116図 F区第47号住居跡



第47号住居跡
 1 黒褐色土 炭化物粒少量 黄褐色土アロック(15mm大)多量
 カマド
 a 極暗褐色土 焼土粒多量 炭化物粒少量



第46号住居跡 (第115・58図)

BC46・47グリッドに位置し、重複する第119号土壌よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.00m×東西幅2.56m×深さ0.10m、主軸方位N-54°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁東端に設置され、支脚が据えられている。袖部は土師器甕が芯として用いられ、黄褐色土を主体とする黒褐色土とわずかな焼土粒を含む褐色土によって構築されている。壁溝はカマドに対面する南壁東半を除き全周し、幅0.13~0.21m、幅0.09~0.14m

ほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

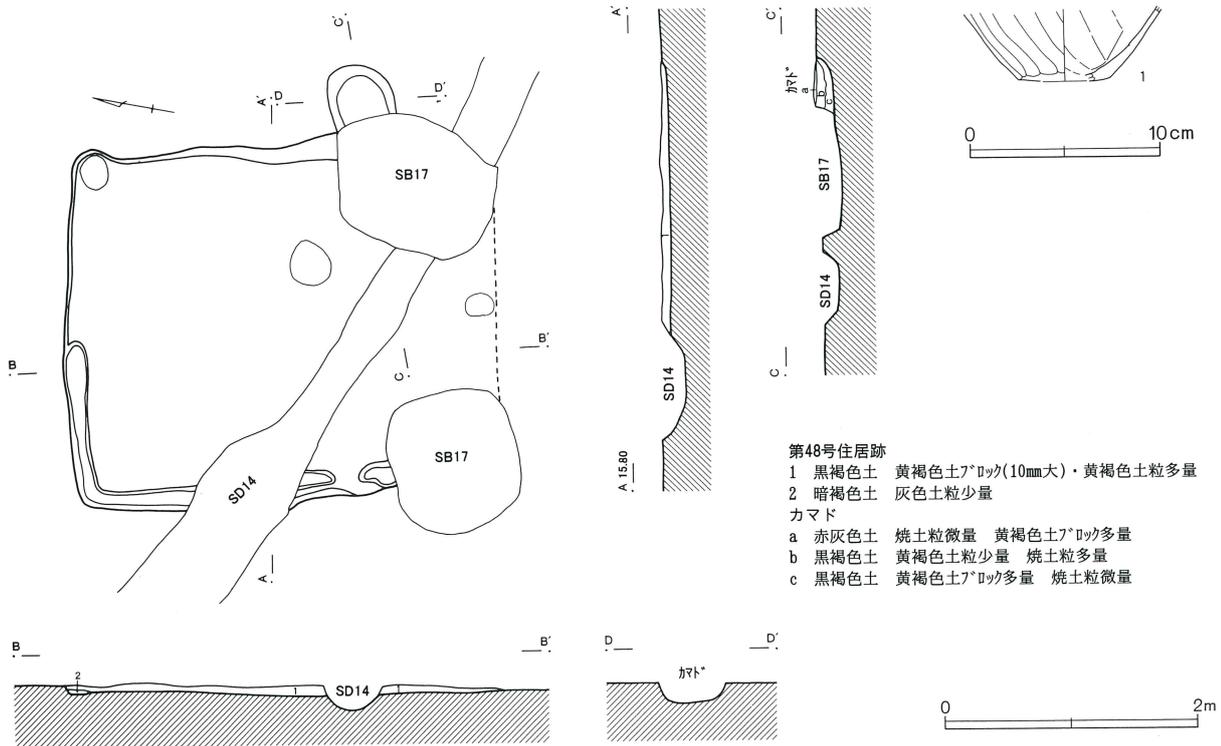
第47号住居跡 (第116・58図)

BE46・47、BF46・47グリッドに位置し、重複する第158号土壌よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.57m×東西幅3.41m×深さ0.08m、主軸方位N-35°-Wを測る。

カマドは北壁中央に設置されている。袖部は地山が掘り残され、箱形の燃焼部に幅の狭い煙道部が繋がっている。検出されたピットは3本で、いずれも柱穴と

第117図 F区第48号住居跡・出土遺物



F区第48号住居跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕		(3.8)	4.9	BR	B	橙	10	カマド

思われる。壁溝・貯蔵穴は確認されなかった。

遺物は図示し得ないが、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第48号住居跡 (第117・62図)

BF50・51、BG51グリッドに位置し、重複する第17号掘立柱建物跡、第14号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.81m×南北幅(3.45)m×深さ0.08m、主軸方位N-88°-Eを測る。

カマドは東壁中央南よりに設置されているが、第17号掘立柱建物跡によって攪乱されている。壁溝は北壁中央～西壁に巡り、カマド対面付近は途切れている。幅0.14～0.20m、深さ0.08mほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、土師器甕片が出土している。

第49号住居跡 (第118・63図)

BG51・52、BH51グリッドに位置する。第54号住居

跡と重複し、第18号掘立柱建物跡、第17号溝跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、第17号溝跡の攪乱が著しく、規模は不明である。主軸方位はN-55°-Wを測る。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。方形の燃焼部に、幅の狭い煙道部が繋がっている。壁溝は西壁に沿って巡り、幅0.10～0.14m、深さ0.08～0.15mほどである。貯蔵穴はカマド東側に付設され、長径0.82m×短径0.38m×深さ0.24mの平面不整形である。柱穴は検出されていない。

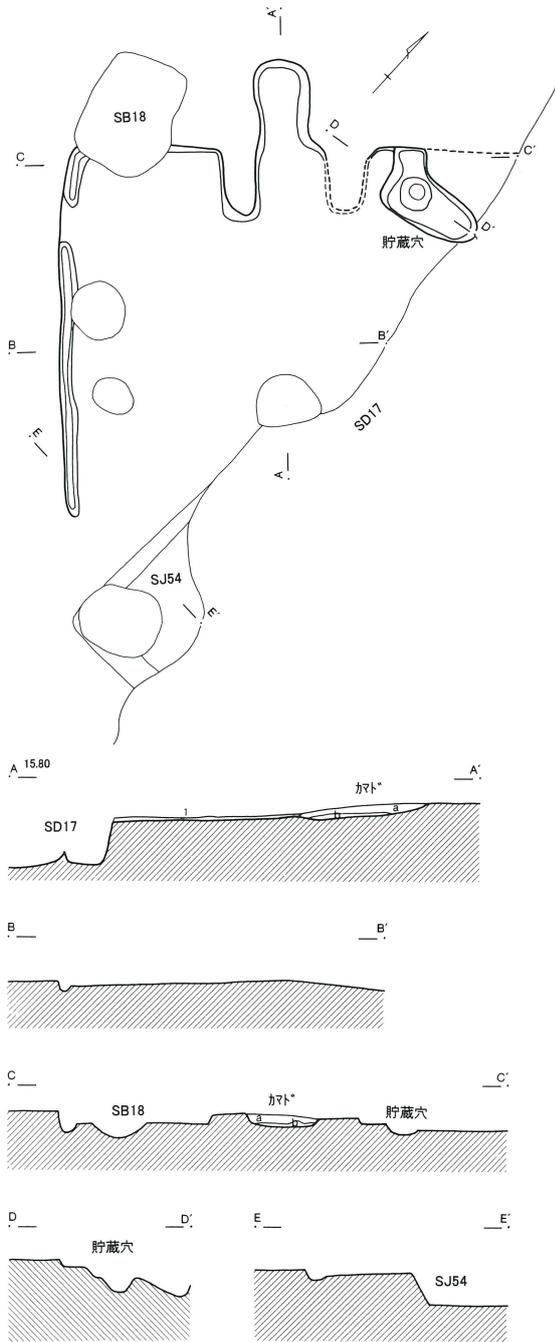
遺物は図示し得ないが、土師器坏片が出土している。

第54号住居跡 (第118・66図)

BH52グリッドに位置し、重複する第49号住居跡よりも新しい。

平面形態は方形であるが、第17号溝跡の攪乱が著しく、南西コーナー付近のみが検出されている。規模は

第118図 F区第49・54号住居跡



第49号住居跡

1 灰黄褐色土 黒褐色土粒・黄褐色土粒多量

カマド

a 黒褐色土 赤色土粒少量

b 黒褐色土 焼土粒微量



不明で、カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴も確認されていない。

遺物は出土していない。

第50号住居跡 (第119・58・59図)

BF46・47グリッドに位置し、第75号掘立柱建物跡、第291号土壇と重複する。

平面形態は方形で、規模は南北長5.43m×東西長(5.50)m、南北軸方位N-32.5°-Wを測る。遺構確認段階で既に床面が消失しており、掘形は黄褐色土粒を多く含む黒褐色土が埋め戻されていた。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第51号住居跡 (第120・51図)

BC40・41、BD40・41グリッドに位置し、第35号掘立柱建物跡、第557号土壇と重複する。第24号掘立柱建物跡よりも新しく、第49・51・55号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長3.55m×深さ0.07m、主軸方位N-30°-Wを測る。東半部は第49号溝跡によって攪乱され、東西規模は不明である。埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁に設置され、袖部は地山が掘り残されている。柱穴位置に浅いピットが検出されているが、柱穴とは判断しきれない。壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

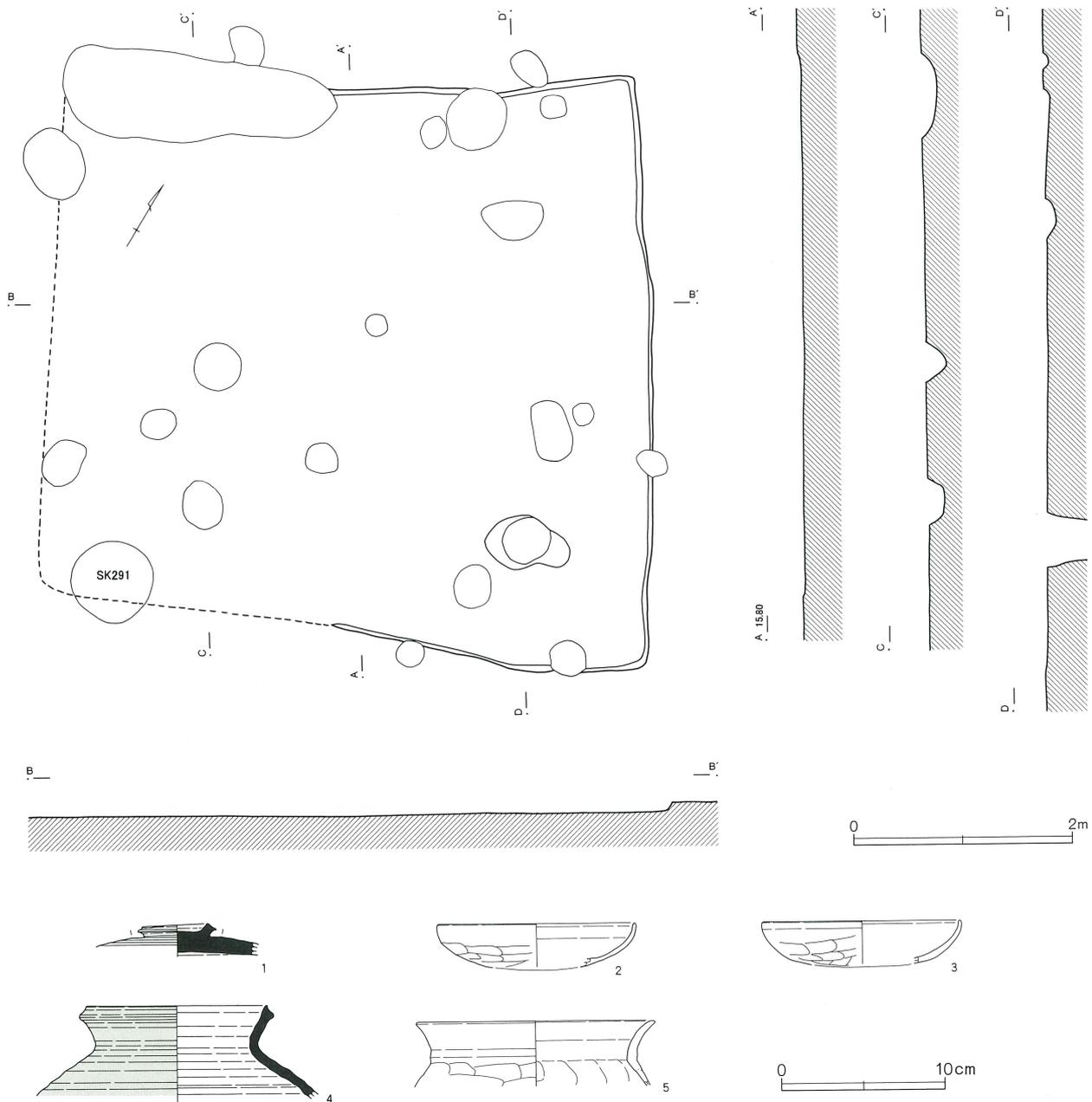
第52号住居跡 (第121・51図)

BC40グリッドに位置し、重複する第23・24号掘立柱建物跡、第53号溝跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.44m×幅3.73m×深さ0.19m、主軸方位N-52.5°-Eを測る。埋没状況は自然堆積で、覆土はしまりもよく、黄褐色土ブロックを若干含む黒褐色土を主体とした層である。

カマドは東壁中央に設置され、袖部は造り付けられている。壁溝は北壁・南壁の一部に巡り、幅0.10~0.22m、深さ0.18~0.20mほどである。貯蔵穴は南東

第119図 F区第50号住居跡・出土遺物



F区第50号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(2.0)		WB	A	灰	10	秋間産（胎土分析29）
2	坏	(12.0)	(2.6)		WB	B	橙	5	
3	坏	(12.0)	(2.6)		BR	B	黄褐	5	
4	壺	(11.0)	(5.9)		WB	A	灰白	10	秋間 or 湖西産 外面自然釉付着
5	台付甕	14.4	(4.0)		B	B	にぶい橙	10	

コーナーに付設され、長径0.62m×短径0.53m×深さ0.14mの平面円形である。柱穴は検出されていない。

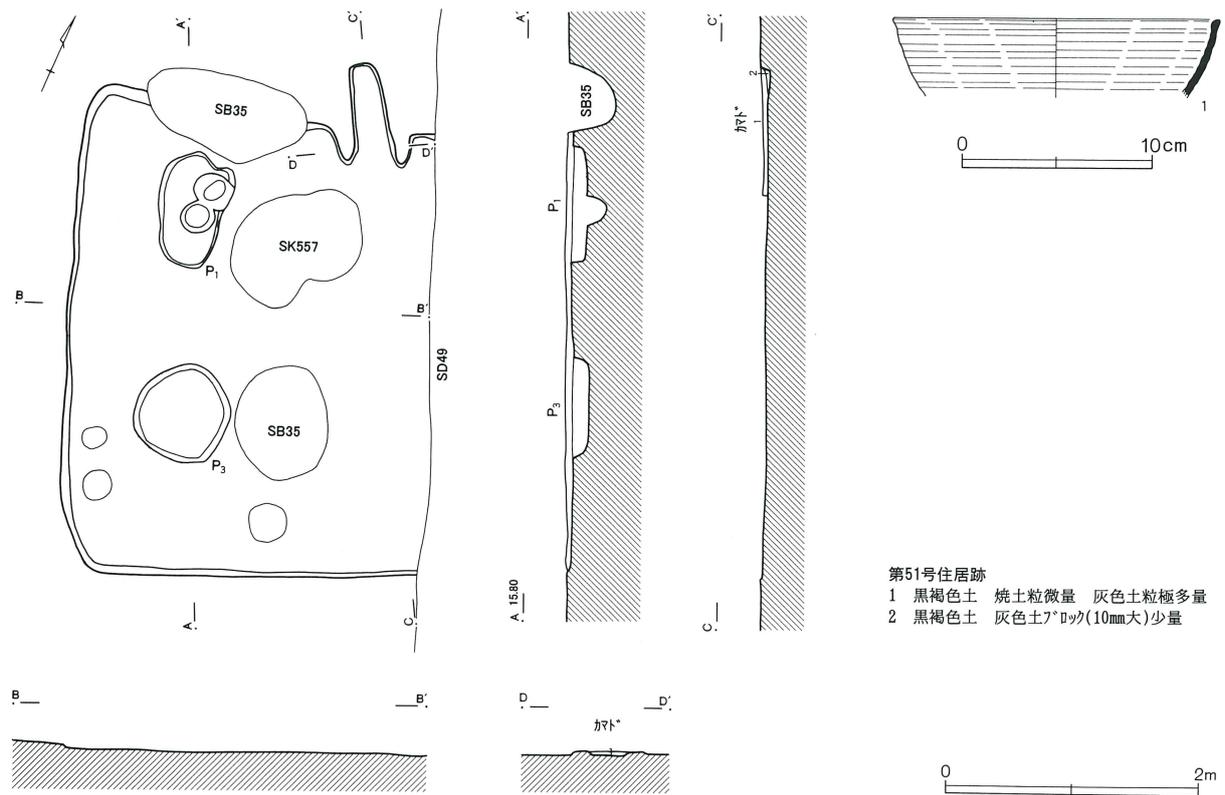
遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・

坏片が出土している。

第53号住居跡（第122・51図）

BC39グリッドに位置し、第190号土壇、第50号溝跡と重複する。

第120図 F区第51号住居跡・出土遺物



F区第51号住居跡出土遺物観察表 (第120図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	椀	(17.2)	(4.2)		WB 針	A	灰	5	南比企産

F区第52号住居跡出土遺物観察表 (第121図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(15.8)	(1.8)		WB 針	A	灰	5	南比企産
2	坏	11.9	3.5	6.1	WB 針	A	灰	75	No. 6 南比企産 底部糸切離し
3	坏	12.5	3.3	6.3	WR 針	A	灰	90	No. 2 南比企産 底部糸切離し
4	坏	11.9	3.1	6.5	WB	A	灰	75	No. 4 産地不明 (胎土分析30) 底部糸切離し
5	坏	12.0	3.3	6.1	WB 針	A	灰	90	No. 5 南比企産 底部糸切離し
6	坏	(12.0)	(3.0)		WB 針	A	灰	10	末野産
7	坏	(11.8)	(3.3)		WB	B	にぶい黄橙	10	
8	坏	(12.7)	(3.1)		WB	B	にぶい黄橙	10	
9	台付甕		2.5	10.5	WB	B	橙	10	No. 1
10	甕	(21.0)	(18.4)		BR	B	暗褐	30	No. 3
11	甕		(9.8)	4.3	BR	B	暗褐	20	カマドNo. 3
12	甕				WB	A	灰		南比企産? 内外面自然釉付着
13	土玉				WR	B	灰黄		径2.2×孔径0.5×重さ11.9g

平面形態は方形であるが、西半が第50号溝跡、北東半が第190号土壌に攪乱され、規模は不明である。南北軸方位はN-32°-Wを測る。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

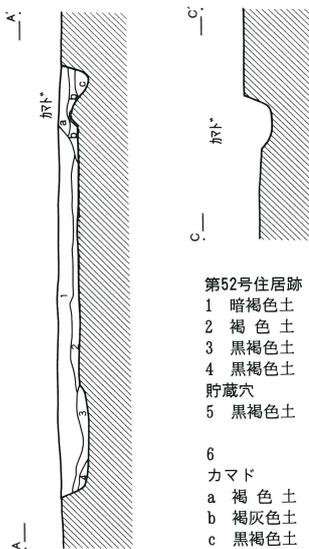
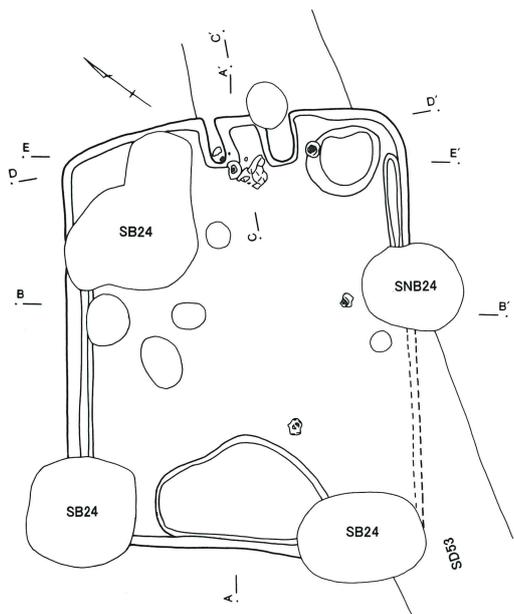
第55号住居跡 (第123・46図)

AZ34、BA34グリッドに位置し、第202号住居跡と重複する。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.12m×幅4.44m×深さ0.20m、主軸方位N-126°-Wを測る。

カマドは西壁中央に残欠のみが確認され、構造は把

第121図 F区第52号住居跡・出土遺物



第52号住居跡

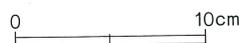
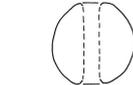
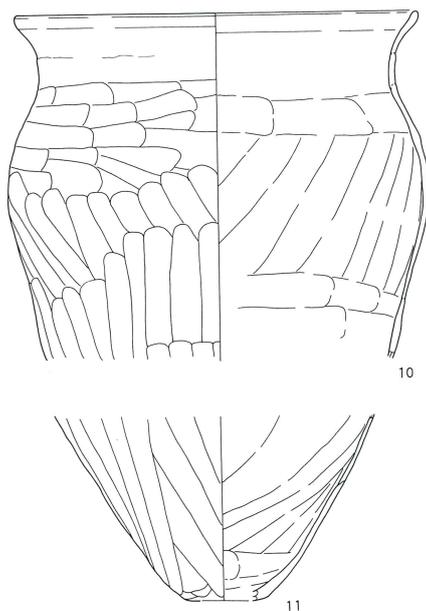
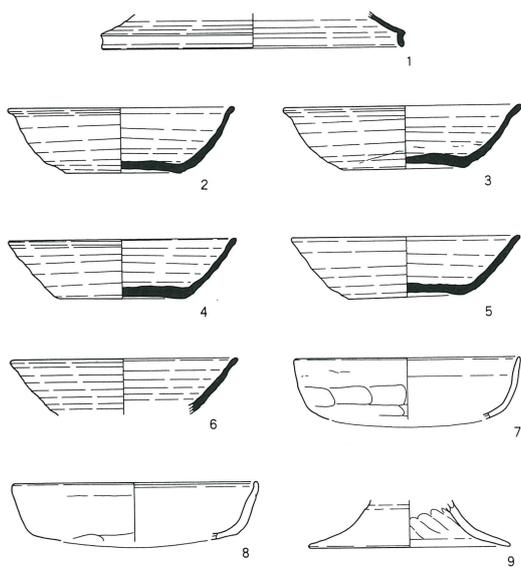
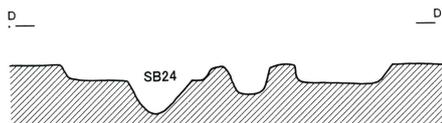
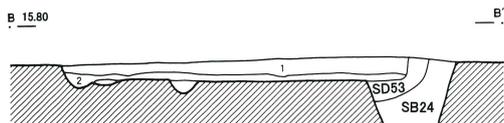
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土7°ロック(10mm大)少量
- 2 褐色土 黄褐色土7°ロック(10mm大)多量
- 3 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(10mm大)少量
- 4 黒褐色土 黄褐色土粒多量

貯蔵穴

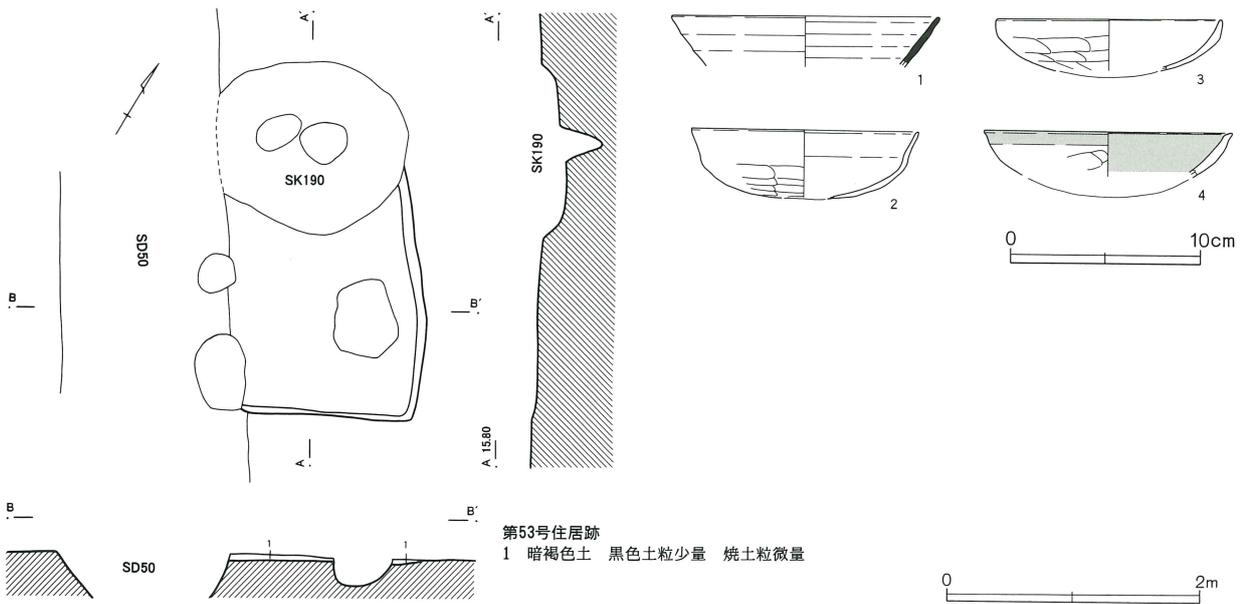
- 5 黒褐色土 貯蔵穴覆土 焼土粒・炭化物粒・炭化物7°ロック(10mm大)多量
- 6 貯蔵穴覆土 焼土粒・灰色珪粒少量

カマド

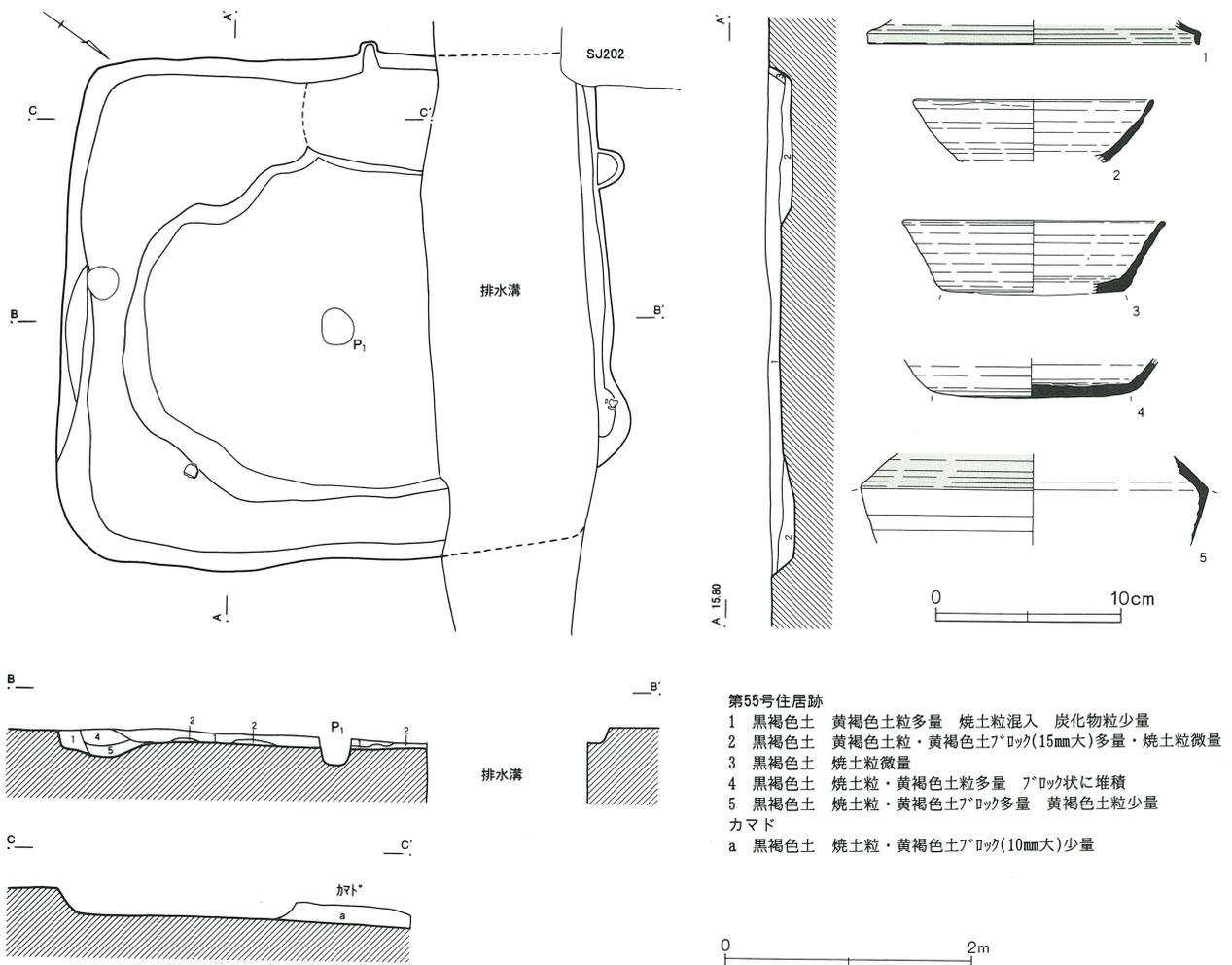
- a 褐色土 焼土粒微量 天井の崩落?
- b 褐灰色土 焼土粒・炭化物粒多量・焼土7°ロック(10mm大)少量
- c 黒褐色土 灰色粒微量



第122図 F区第53号住居跡・出土遺物



第123図 F区第55号住居跡・出土遺物



F区第53号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(14.0)	(2.7)		W針	A	灰	5	南比企産
2	坏	(11.8)	(3.6)		WB	B	橙	20	
3	坏	(11.7)	(2.7)		WB	B	にぶい黄橙	10	
4	坏	(13.2)	(2.4)		BR	A	橙	5	赤彩

F区第55号住居跡出土遺物観察表（第123図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(18.0)	(1.2)		W針	A	灰	5	南比企産 自然釉付着
2	坏	(13.0)	(3.4)		WB針	A	灰	10	南比企産
3	坏	(14.2)	(4.0)	(9.9)	WBR針	A	灰	10	南比企産
4	椀		(2.1)	(10.6)	WB針	A	にぶい褐	30	南比企産 底部全面へラ
5	長頸壺		(5.0)		WB	A	灰	5	湖西 or 秋間産? 自然釉付着

F区第56号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(2.5)		WB	A	灰白	40	No.1 金井産? (胎土分析31)
2	蓋		(3.1)		WB	C	灰オリーブ色	70	No.2 末野産
3	蓋	(16.8)	(1.7)		WB	A	灰白	5	P2 湖西産 外面自然釉付着
4	坏	(13.3)	3.9	(8.3)	WB針	A	灰	30	南比企産
5	坏	(13.1)	3.0	(9.8)	W針	B	灰	20	No.17 南比企産 底部周辺へラ
6	坏	(15.0)	(3.3)		WB針	B	灰	5	南比企産
7	坏	(16.3)	(4.3)		WBR針	B	灰	10	南比企産
8	坏	(16.2)	(4.2)		WB針	A	灰白	10	No.28 南比企産
9	椀	(16.0)	(3.3)		WB	A	灰	5	カマド 南比企産
10	坏	(11.8)	(3.4)		WB	B	橙	25	
11	坏	(11.6)	3.3		BR	B	にぶい橙	50	No.3
12	坏	(11.8)	(3.3)		WBR	B	橙	25	
13	坏	(11.6)	(3.7)		WB	B	橙	20	
14	坏	(11.8)	(3.3)		BR	B	橙	20	No.25
15	坏	12.2	3.1		WB	B	橙	50	No.27
16	坏	(12.9)	3.5		B	B	にぶい橙	20	No.41
17	坏	(12.8)	(3.0)		WB	B	にぶい橙	20	No.13
18	坏	(12.6)	(3.7)		BR	B	暗褐	25	No.10
19	坏	(14.1)	(3.7)		BR	B	橙	15	No.1
20	坏	(14.0)	3.3		BR	B	橙	30	No.4・8
21	坏	(14.0)	(3.1)		WB	B	暗褐	30	No.46・47
22	盤	(16.8)	(3.3)		WB	B	橙	15	No.33
23	盤	(19.4)	(2.9)		BR	B	橙	15	
24	坏	14.2	4.7		BR	B	橙	60	No.20・48
25	小型甕	(13.0)	(4.9)		WR	B	にぶい橙	10	
26	壺	(17.2)	(2.1)		WB	A	灰	5	湖西産
27	甕	(24.2)	(2.6)		WB	B	灰	5	群馬産 自然釉付着
28	鉢	(19.6)	(7.5)		BR	B	橙	25	No.15
29	台付甕	(15.2)	(13.4)		BR	B	橙	30	No.32
30	甕	22.1	(15.3)		WB	B	にぶい橙	35	No.45
31	甕	(19.6)	(6.0)		WB	B	暗褐	10	No.37
32	甕	(18.7)	(6.0)		WB	B	にぶい黄褐	5	No.18
33	甕		(8.6)	(8.0)	WR	B	橙	10	No.43 木葉痕
34	釘								No.16 長さ3.45×幅0.6×厚さ0.3×重さ3.2g

握されていない。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

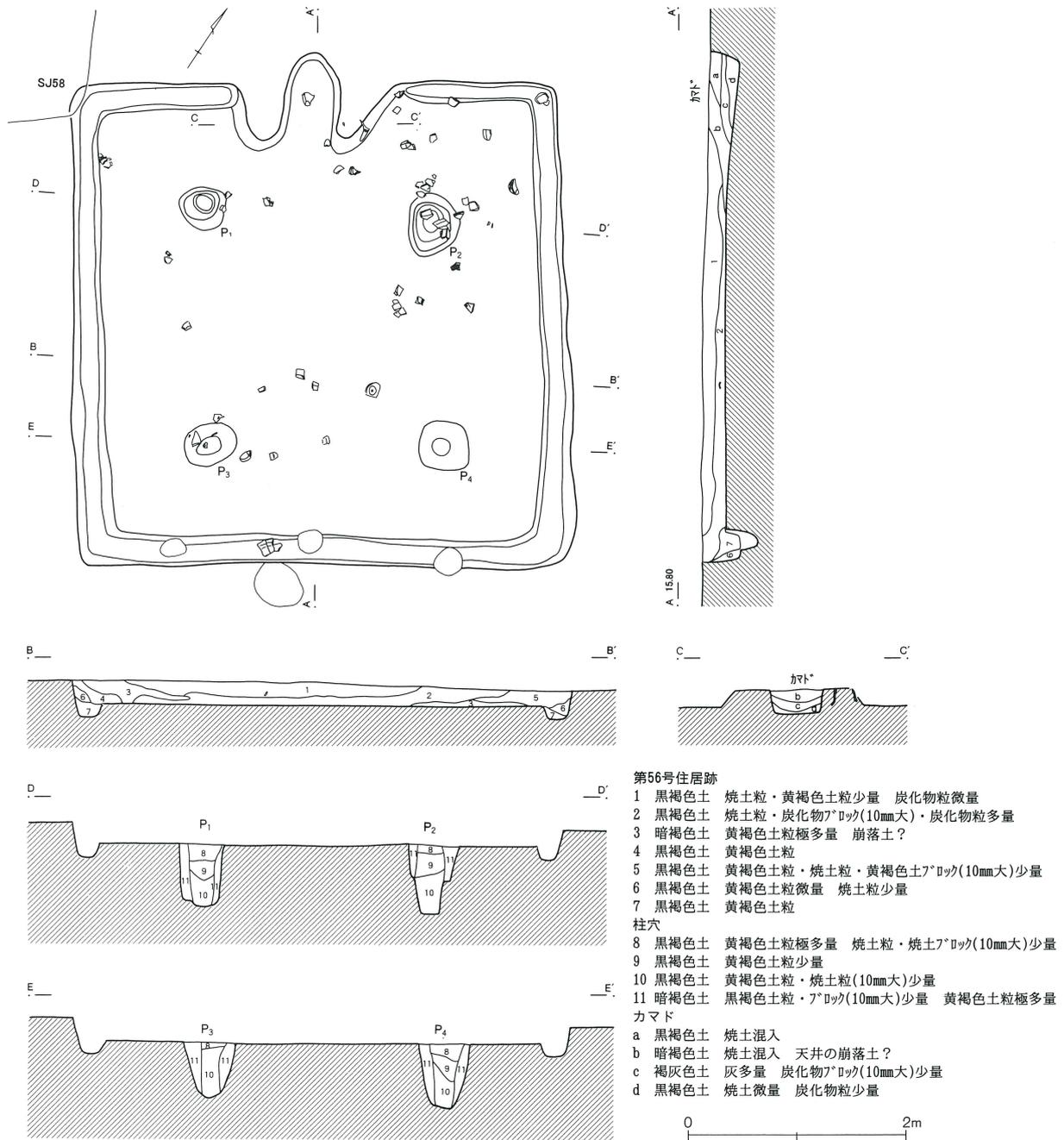
遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第56号住居跡（第124・125・46図）

BA33・34、BB34グリッドに位置し、重複する第57号住居跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.40m×幅4.52

第124図 F区第56号住居跡



m×深さ0.22m、主軸方位N-33°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央に設置されている。袖部は造り付けられ、芯材に土師器甕が用いられている。柱穴は4本である。柱は抜き取られているが、柱掘形には暗褐色土が充填されている。壁溝は全周し、幅0.15~0.32m、深さ0.26~0.34mほどである。貯蔵穴は検出されていない。

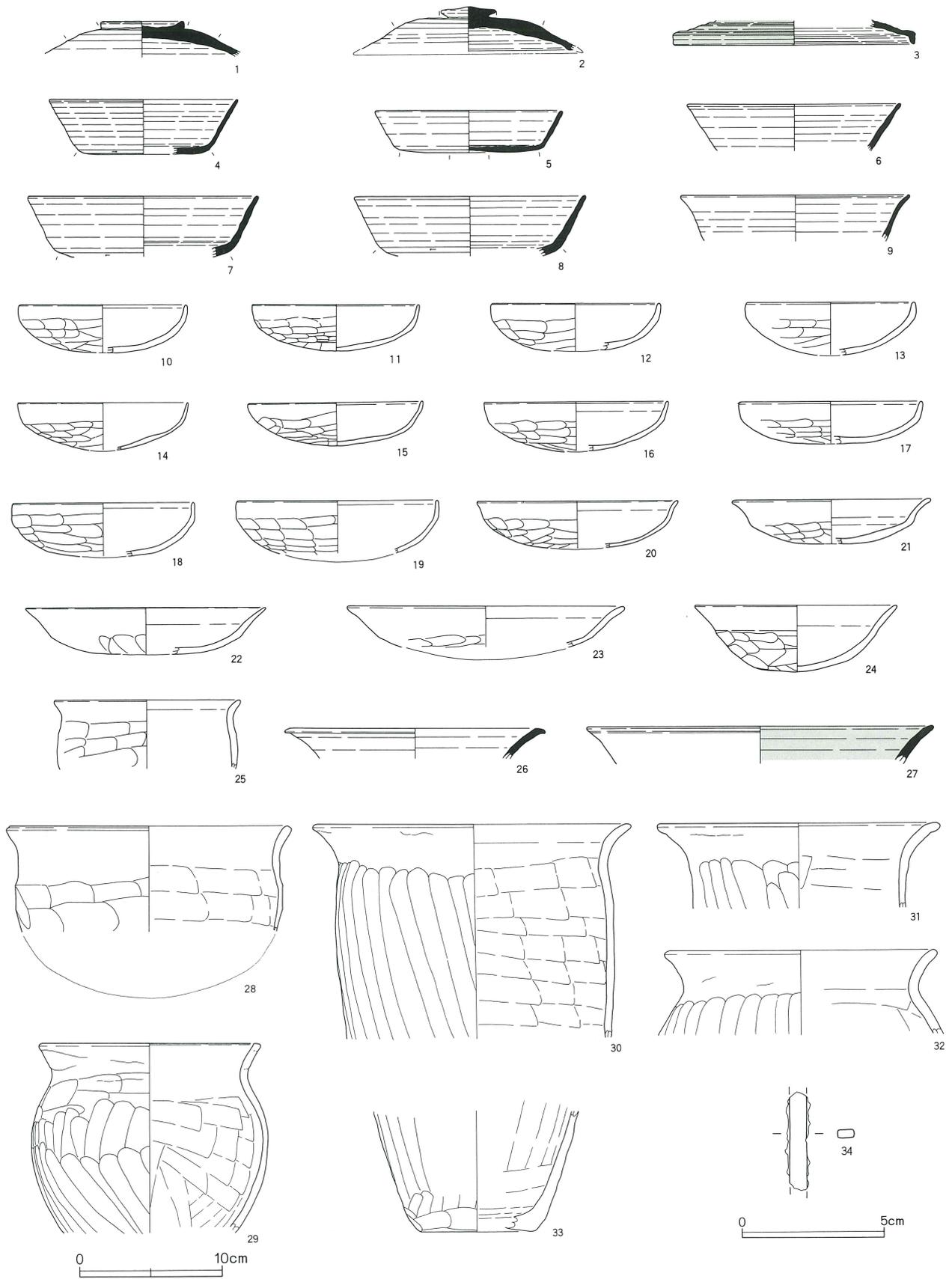
遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第57号住居跡 (第126・46図)

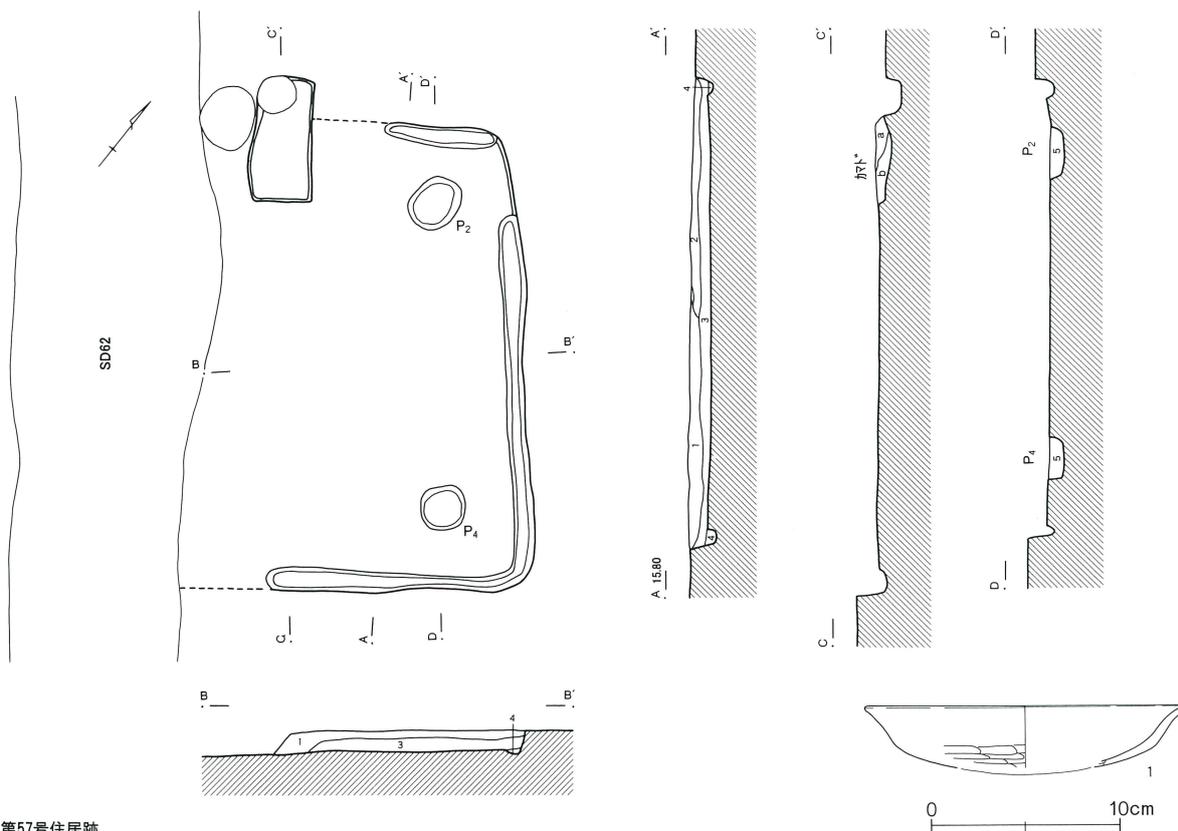
BA33・34、BB34グリッドに位置し、第56号住居跡よりも新しい。西半は重複する第62号溝跡によって攪乱されている。

平面形態は方形で、規模は主軸長3.69m×深さ0.17m、主軸方位N-39°-Wを測る。埋没状況は自然堆積

第125图 F区第56号住居跡出土遺物



第126図 F区第57号住居跡・出土遺物



- 第57号住居跡
- 1 灰黄褐色土 黄褐色土粒微量
 - 2 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量 灰色沙土7°口(10mm大)微量
 - 3 黒褐色土 黄褐色土粒極多量 焼土粒・炭化物粒微量
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒多量
- 柱穴
- 5 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒少量
- カマド
- a 灰黄褐色土 炭化物微量 黄褐色土粒少量
 - b 灰黄褐色土 焼土粒・7°口多量 炭化物少量

F区第57号住居跡出土遺物観察表 (第126図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	盤	(16.8)	(3.3)		WBR	B	橙	10	

で、覆土は黒褐色土でしまりがよい。

カマドは北壁中央に掘形のみが確認されている。検出された2本のピットは柱穴と思われるが、浅い。壁溝は北壁北東コーナー～東壁～南壁中央付近に巡り、幅0.10～0.20m、深さ0.14～0.22mほどである。貯蔵穴は付設されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第58・59・62号住居跡 (第127・128・46図)

BA33・34グリッドに位置する。第56号住居跡、第240号土壇と重複し、東半部は第62号溝跡によって攪乱さ

れている。3軒の住居跡の新旧関係は、第58号住居跡(新)←第59号住居跡←第62号住居跡(旧)の順である。

第58号住居跡の平面形態は方形で、規模は主軸長4.70m×深さ0.18m、主軸方位N-0°-Eを測る。埋没状況は自然堆積である。カマドは北壁中央に設置され、煙道部は幅が広く長い。柱穴は2本検出されている。壁溝は南壁カマド対面付近にのみ認められ、幅0.18m、深さ0.10mほどである。貯蔵穴は確認されていない。遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。